

# 牧者

## 巻頭言 主のみもとに

峰山教会牧師  
水川 武 志



「人々が、中風の者を床の上に寝かせたままでもとに運んできた。イエスは彼らの信仰を見て、中風の者に、『子よ、しっかりとしなさい。あなたの罪はゆるされたのだ』と言われた」(マタイ9:2)

イエス様は、「子よ、しっかりとしなさい」とお声をかけられました。中澤啓介師は、「十代前半ぐらいの男の子だったろう」と注解しておられます。マルコやルカは、イエス様のおられるあたりの屋根をはぎ、穴をあけて中風の者をつり降ろしたと書いています。そこまでののは、子どものためだったんだとわかると、納得できます。

ところで、「自分の足で立てない子ども」が随分多くなっていると感じるこのころです。子どもに愛情を持つ者であれば、放置できない現状です。それなのに、クリスマスホーム以外の子どもを誘う手立てが、見つからなくなっているのも事実です。教会学校に携わる私たちに、屋根をはぐ程の情熱が必要になっていきます。そこで、現在私自身が心掛けている幾つかのことを書いてみます。

### ①適切な言葉かけ

イエス様は「子よ、しっかりとしなさい」と実に適切な言葉をかけられました。今、来ている子どもとのきずなを確立させる鍵となるのが、適切な言葉かけです。

あるとき、父親不在のため母親が働き、子育てまで手の届かない家から女兒が来ました。朝食もしておらず髪の毛も服装も自分で着たまま、時にはうんちの匂いもしま

す。当然いじめの対象になっていました。本人を傷つけず、身の回りのしつけのできる言葉かけを教えて下さいと祈りました。翌週彼女が連れてきた友達の髪が乱れているのです。「Kちゃん、Oちゃん朝早くて髪の毛を整えてなかったみたい。あなたがとかしてくれないかなあ」とブラシを渡しました。彼女は、喜んで鏡の前にO子ちゃんを連れて行ってとかしてくれました。次の聖日、Kちゃんは自分の髪の毛を整えて教会に来たではありませんか。さらに身だしなみにも気をつける子どもになったのです。

### ②子どもを導くための高齢者伝道

四人の人が中風の子どものために床をかついで来ました。私たちのように地方の町では、たいていの親は朝から仕事です。また教会へ行くには、周囲の人の目がかかるのです。そのような中で、話し相手を探しているのは高齢者です。いろいろな問題を抱えている方々です。聖書の言葉の恵みが一番届きやすい人々なのです。彼らが教会に導かれ、孫たちを連れて来る人々になるのです。

### ③み言葉を家庭に

昨年、教会の日めくりカレンダーの手作りを始めました。そこに日々の聖句(聖書通読箇所)、教団の教会と牧師名、今日の教会の行事、会員の誕生、受洗、召天者名を書き込んであります。み言葉が家庭に掲げられ、祈りをついにしたいからです。時にこの聖句が、食卓の話題になることがあると聞くのはうれしいことです。家庭が救われるため、これが切なる願いです。

## 目次

巻頭言.....1

教師養成講座  
「ありのままに子育てお母さん大丈夫ですよ」(1).....3

10月教案.....7

11月教案.....27

12月教案.....43

牧羊ひろば.....59

編集後記.....60

10月

11月

12月

教師養成講座

2003年 兵庫教区CS部主催 教育講演会

「ありのままで子育てーお母さん大丈夫ですよ」

講師 内田 みずえ師（聖書宣教会）

（講演内容に加筆修正したものです）

（午前の部ー前半）  
「私が植えて、アポロが水を注ぎました。しかし、成長させたのは神です」 第1コリント3章6節

テーマ聖句は、コリントの教会の中に存在した問題ーねたみ、争い、分裂分派ーを扱っている文脈の中にあります。パウロは開拓時代の働きをした自分も、それを継いで養い育てる働きをしたアポロも、主に用いられたしもべにすぎないのであって、成長させてくださるのは神様である、という大切な真理を説いています。

さて、今日はこのみ言葉を「子育て」に適用させて、こいつしよに考えてみたいと思います。パウロやアポロのように実際に「子育て」に関わる私たち親やCS教師、そして子どもたちに成長を与えてくださる神様との関係はどのようなものがあるべきでしょうか。第1コリント3章9節には私たちは「神の協力者」であると書かれています。親もCS教師も「神の協力者」なのです。神様と協力して働かせていただくとは、なんと素晴らしい特権でしょうか。恐れおののくと同時に感謝の思いが心にわき上がってくるのではないのでしょうか。

午前のセッションにおきましては、「植える者」、「水を注ぐ者」である私たちに焦点を当てて考えてみたいと思います。午後のセッションでは「植える者」と「水を注ぐ者」が心がけるべきことについてお話させていただきたいと思います。それでは、午前は四つの問いに答える形で話を進めていきましょう。

1. 「ありのまま」とは何でしょうか？

今日のテーマは「ありのままで子育てーお母さん大丈夫ですよ」ですが、「ありのまま」とは一体どういうことでしょうか。

皆様の中には、もしかしたら使っていてくださる方があるかもしれませんが、何年か前に『祈りのダイアリー』という祈りのための日記帳を出版させていただきました。冒頭の部分で「朝の祈り」、「夕の祈り」、「家族のための祈り」などいくつかの祈りを記させていただきましたが、そのうちの一つの「子どものための祈り」から抜粋して読ませていただきます。

「天のお父様  
今になってみれば

子どもたちが小さかったころ、  
もつとあれをしてあげればよかった、  
もつとこれをしてあげればよかった、  
こんな考え方もあったのに、  
こんな見方もできたのに、  
と後悔することばかりです。

ー 略 ー

振り返ってみれば、  
よく考えてしたつもりでも  
厳しくすべき時に助けの手を伸べてしまい、  
優しくすべき時に、  
叱ってしまったこともあります。

これからもきつとあることと思います。以下略」。  
子育てをしていて悩んだり、途方に暮れたり、行き詰まったり、どうしていいかわからなくなったりしたことのない親など一人もいないでしょう。その悩みの大きさや深さ、あるいは種類や性質はそれぞれのご家庭によつて異なるでしょう。外から見たら人もうらやむほど子どもたちが順調に育っているような立派なご家庭でも、人知れず悩んでいる場合もあります。今現在の子育ての悩みもさることながら、私たち親というものは、過去を振り返り、後悔し、やり直しできるものなら、やり直したいという念にしばしば駆られるものです。現在抱えている問題も、実は、過去のあの時の私の言葉、私の行動が原因ではないか、と自分を責め、苦しむのです。

このように過去の子育てを後悔し、現在の子育てに悩み、さらには子どもが何か悪いことをすると、これからどんな風になつていくのだろう、と

悪い方に想像を働かせて、将来に対して悲観的になつてしまいます。そんな私たちに向かつて、今日掲げられているテーマは元氣良く迫ってきます。「ありのままで子育てーお母さん大丈夫ですよ」。

でも、それを聞いて私たちはどんな気持ちになるでしょう。心の中でこつこつとやるのではないのでしょうか。

「えーっ、本当に大丈夫なの？ ありのままの子育てでいいの？ いけないことだとわかつてはいるけれど朝から晩まで子どもに怒鳴り散らしてしまうし、つい『早くしなさい』とせかしてしまうし、『そんなことじゃダメでしょ』と頭ごなしに言つてしまう…私の描く理想の子育てと現実はずいぶん違うのに、こんな私で本当にいいの？」

私たちは、神様が私たちの弱さも限界もすべてご存知の上で愛してくださっていることを確かに知っています。

有名なイザヤ書43章4節はこのように宣言しています。

「わたしの目には、あなたは高価で尊い。  
わたしはあなたを愛している」。

ところが、私たちは頭ではわかつていても、自分が神様の目に高価で尊いとは心の底から素直には同意できないのです。むしろ、子育てに悪戦苦闘している自分が神様に責められ、裁かれるなら納得がいくのです。

ここで、聖書全体から、神様が私たちを愛し、受け入れてくださるとはどういうことなのかを整理して考える必要があると思います。

神様が私たちを愛し、ありのままで受け入れて

くださるという時、罪あるままの私たちを良しとしてくださるというのではありません。聖なる神様、義なる神様、光の内におられて暗いところが一つもない神様は、本来罪ある私たちを受け入れることはとてもおできにならないのです。私たちが神様に責められ、裁かれているような感じを持つ、そういう直感、あるいは良心のとがめがあるとするなら、それは当然なのです。

けれども、この聖い神様は同時に愛の神様であつて、私たちが罪の中で滅びることを見過ごすことのできないお方なのです。そこで、イエス・キリストの十字架の贖いを通して私たちの罪の問題を解決してくださったのです。私たちが罪を悔い改め、イエス・キリストの義の衣を着せていただく時、聖い神様の前に恐れることなく出ることができるのです。神様の子どもとして愛されているという確信を持つことができるのです。

私たちはその真理を信じて救われました。しかし、その時だけでなく、今現在子育てで悪戦苦闘している私たち親や、CSでがんばっている教師たちにとつても大切な真理なのです。「罪を憎んで人を憎まず」という言葉がありますが、神様はまさにこのようなお方なのです。私たちが愛してくださり、ありのままの私たちを受け入れてくださいます。けれども、私たちの内にある罪、私たちが犯す罪は決して見過ごしにはないません。このことをはっきりさせまないと、一方では、私たちは神様に愛されているという確信も実感も持つことができません。他方では、「そのままがいい」、「ありのままがいい」という言葉に安易に流され

て、悔い改めるべきことを悔い改めないで、神様の教えに真剣に従うことをしなくなります。その結果、神様の赦しの恵みの内を歩む喜びを知ることがないのです。

悔い改める、と言いましたが、ここで二つ目の問いに移りたいと思います。

2. 「後悔」と「悔い改め」の違いがわかつていくでしょうか？

「後悔」とは何でしょうか。それは、「あの時ああすればよかった」あるいは「ああしなければよかった」と振り返つて残念に思う気持ちです。そして、もし、やり直せるものならばやり直したい、と思う気持ちです。しかし、それは全く不毛なことです。なぜ不毛なのか、いくつか理由を考えてみたいと思います。

① どんなに望んでも、私たちは過去に戻ることはできません。ですから、何度後悔しても、そこからは何も産まれてきません。

② 仮に過去に戻つてやり直すことができたとしても、私たちは同じ過ちを繰り返すか、別の失敗をするでしょう。

③ 「後悔」とは、実は高慢、プライドの裏返しです。やり直したらもううまくやれるはず、と思うのは自分の限界を認めたくない気持ちの現れです。

④ 「後悔」とは現実を受け入れていないことを意味します。過去の失敗を変えることができたなら、現在別のシナリオがあるはずだ、とありえない想像をしているのです。

⑤ 「後悔」の念に駆られている状態は明るい心の

「後悔」はたやすくできるのですが、真の「悔い改め」は難しいものです。私たちの肉は、自分が本当に悪かったと認めたくないので。総論においては、自分が罪人であることを認められるのですが各論になると個々の罪は認めたくありません。「自分はもう少しましな人間のはずだ」と心の深い所では思っていますから、「後悔」はしても、「悔い改め」ようとはしないのです。悪あがきをして、「もう少しがんばってみよう」と努力するのです。けれども、御霊の小さなみ声に耳を傾ける時、私たちは、自分がいかに自己中心で、わがままで、感情に振り回されやすく、愛の無い人間であり、偽善者であるか、ということを確認することができます。その時初めて真の「悔い改め」ができるのです。そのような「悔い改め」に対して神様は素晴らしい約束をしてくださいます。

「もし、私たちが自分の罪を言い表わすなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」

第1ヨハネ1章9節。

この「言い表わす」という言葉の意味は、嘆き悲しんで涙を流すという感情の面よりも、神様が罪として指摘されたことに対して、「はい、その通りです」と潔く同意するという意思の面が強調されています。罪の問題はすでにイエス・キリストの十字架において処理されています。神様はその事実に対して真実なお方ですから、私たちが告白する罪を赦してください。それだけではありません。すべての悪から私たちをきよめてくださいます。私たちの心の内側にきよめのみ業を進めます。

てくださるのです。

先ほど挙げました「後悔」のリストを、神様の指摘に同意する「悔い改め」の告白に変えていただきます。

・はい、神様、私は確かに子どもの心を傷つける言葉を口にしました。ごめんなさい。

・恥ずかしいことですが、手も挙げてしまいました。どうぞお赦してください。

・子どもに目を向けることの大切さを思えば、私を忙しくさせていたものは重要ではありませんでした。愚かでした。

・相性の良い子を可愛いがり、そうでない子には冷たく当たってしまいました。

・しつけというよりは、子どもが私の思い通りに動くと気持ちが良いので、力づくで従わせていました。

・子どもがよい成績を取ってくると鼻が高くなり、そうでないとプレッシャーをかけてがんばらせました。

・気分の良い時と悪い時では、子どもに対する態度が違っていたことを認めます。

・子どもにかける期待が大きかった分だけ、子どもをありのまま受け入れ、愛することができませんでした。心からおわび致します。

他にもいろいろあるでしょう。時間を取って神様の前に一つ一つ悔い改めようではありませんか。できるだけ正直に、言い訳も弁解もしないで、神様に告白しましょう。告白したなら、このみ言葉の約束を信じ、赦されているという確信に固く立ちましょう。もう、くよくよ後悔するのは止めま

したい気持ちを抑えながら待っていると、  
『あのね、子ども部屋に飾ってあるサンタさんがあるでしょ。：あの中に入っているキャンディー：黙って食べちゃったの』  
と言うやいなや、わーっと泣き出し私の腕の中に飛び込んできました。  
『そう、そうだったの。正直に言えて偉かったわね。』  
事の小ささにホッと胸をなでおろしたのも束の間、お風呂上りの彼女は、  
『まだ、心がスツキリしないの』  
と浮かぬ顔。  
それから十日間、聖霊の嵐が吹きまくったのでしようか、かくも鮮明に覚えていられたものだと感じるほど過去一年間の罪の告白が続きました。大人から見れば、ほほえましいものが大半でした。しかし、彼女にとっては、一つ一つが告白するのに大変な勇気がいる大きな罪だったのです。

— 略 —  
『さつきはあんなふうに言ったけどね、本当はこうだったの』。  
告白をしながらも、自分に有利になるように言っただけのことすら、聖霊は光を当て、新たな悔い改めへと導いてくださったのです。彼女の正直さ、率直さは、私自身の心を探るものでもありました。

— 略 —  
ニッコリ笑うと、とても可愛い顔になるのに、ふとした時に、別人のように暗い表情になることのある彼女でした。一つ告白すごとに、目の陰が取れ、顔の輝きが増していきました。

彼女は寝ていてうなされることが時々あったのですが、それ以来ピッタリ止みました。小さな子でも、心の奥底に告白していない罪、赦されていない罪が押し込められていたのだで、その不安が眠っている間に夢の中に出てきたのでしょうか。

神様に罪を告白し、神様から赦しを宣言される時、心に平安と喜びが与えられ、顔の表情まで変わるのです。

彼女は良い子になろうと努力したでしょうか。明るくなろうとがんばったでしょうか。そうではありません。ただ御霊に示されたことを一つ一つ正直に告白した時、真実な神様は、それらを赦してくださっただけでなく、彼女の心と生活をすべての悪からきよめてくださったのです。

『子どもとのおしゃべり』の「罪人のかしら」という章に詳しく書かせていただきましたが、私自身も、子育ての中で、何度も何度も神様に悔い改めの祈りをし、子どもたちにあやまりました。その繰り返しをしていくうちに、ふと気がついてあらあやまらなくなてはいけない事態が減り、間隔が広がり、神様が私をきよめていくくださり、心に平安と喜びが広がっていくのを体験しました。

「ありのまま」とは何を意味するのかがおわかりいただけでしょうか。「後悔」と「悔い改め」の違いが見えたでしょうか。

次回（午前の部―後半）では、3. 「神様の恵み、憐れみを感じていますか？」と4. 「子どもたちに過度の期待をしていますませんか？」という二つの問いについて考えていきたいと思います。

聖書 サムエル上15・17・23  
テーマ 聞き従う信仰

## 序論

(鎌野)

サムエルは成長し、預言者としてイスラエルの国を長く指導した。彼が老齢になったとき、民は後継者を求め、神を知らない他の国々と同様に、王が欲しいと願った。そこでサムエルは、神の許しもあったので、王を立てた(8・19・22)。それが今週登場するサウル王である。だがサウルは、サムエルのように神に忠実ではなかった。彼は、王に即位した直後、すでに主の命令に従わず、自分勝手に燔祭をささげている(13・8・14)。これは主の求められる生き方ではない。今週のテキストを通して、神のみまえで重要なのは、聞き従う信仰であることを学んでみよう。

## 一、王だからこそ聞き従うことが重要

サウルは勇敢な王だったので、ペリシテびとをはじめとしてイスラエルを苦しめていた敵を打ち破り、すべて向かう所で勝利を得た(14・47・48)。さらに神は、出エジプトの時にイスラエルを苦しめたアモレクを撃ち、そのすべての持ち物を滅ぼしつくせ(15・1・9)とサウルに命じられた。だが彼は、王アガクをいけぞりにし、また人すべての良いものを残し、それらを滅ぼし尽すことを好ま(15・1・9)ったのである。

△滅ぼし尽すことは、現代人の目から見れば残酷なことのように思える。しかし、これは神のものを神のものとし、「全滅させて人の用には使わ

せない」(新聖書注釋)ことだ。「聖絶」という新改訳聖書の訳語が、より正しい意味を示している(詳しくは研究資料を参照)。

主の命令に従わなかったサウルを、サムエルは、△あなたはイスラエルの諸部族の長ではありませんか(15・1・9)と責めた。王たる者が民に模範を示さないことは非常に悪いことだ。王に一番必要なのは、敵を打ち破ることではなく、神に従うことなのだ、サムエルは言おうとしたのであろう。

## 二、使命を果たすために聞き従うことが重要

さらにまたサムエルは、△主はあなたに使命を授け(15・1・9)とサウルを滅ぼし尽くすことは、サウル王に授けられた使命だった。イスラエルの長い歴史の中で、「滅ぼし尽す」ことが命じられたのはカナン先住民族に対してだけである。神のご計画を実現するために、サウルは選ばれ、王とされた。それを果たさないことは、神のご計画よりも自分の考えを勝たせようとするにほかならない。神から授けられた使命を、自分勝手な考えで遂行しないことは、神の思いを人間的な手段で知ろうとする占いの罪や、自分の好むものを神とする偶像礼拝の罪に等しいことだ。

聖書には時々、「神はなぜこんなことを命じられるのか」と思えることが書かれている。ギデオンの対する、「兵を少なくせよ」という命令もその一例だろう。しかし、そこには神の計画があった。ギデオンの使命はそれを実現することだった。使命を果たすためには、命令の意味がその時はわからなくても、それに従うべきなのだ。

## 三、燔祭や犠牲よりも聞き従うことが重要

サムエルのしつ責に対して、サウルは、△主にささげるため、ぶんどりもののうちから羊と牛を取りました(15・1・9)と弁解した。主のために用いるなら、主の言葉に従わなくても良いと思っていたのだらうか。しかし、滅ぼし尽くすべきものは、もともと神のものであるから、それを神にささげることなどできるはずもない。あるいは、ささげ物の一部分は、あとで自分たちのものになるという欲心が背後にあったとも考えられる。

△従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる(15・1・9)という聖句は、すべてを明快に説明している。どんなささげ物よりも、聞き従うことのほうがはるかに勝っているのだ。神は牛や羊の脂肪を食べて喜ばれるのではない。神が喜ばれるのは、ご自分の思いを理解し、それに聞き従って行動する人間なのである。

一万円を献金するなら、礼拝に出席しなくても良いなどと考えるのはならない。献身のみ声を聞きながら、従えないでいることはないだろうか。主は、聖書のみ言葉に聞き従う者を、最も喜ばれる。

## 結論

「自分では小さいと思っても、あなたは教会学校教師ではありませんか」と、主はお語りになっている。教師がまず模範にならねばならない。神の言葉があなたに臨むなら、それに聞き従うことを第一としよう。そこにあなたの使命がある。それは、どんな多額の献金や、この世における地位・名誉よりはるかに勝ったものである。

## 研究資料

(長田)

## サウル

イスラエル王国初代の王として立てられたのが、サウルである。彼は、「若くて麗しく、イスラエルの人々のうちに彼よりも麗しい人はなく、民のどれよりも肩から上、背が高かった」(9・2)。また、謙虚さらしきものも見られ(9・21、10・22)、王として立てられるにふさわしい人物と思われた(10・24)。しかし、やがて神は、彼を王位から退け、替わってダビデを王としてお立てになる。その理由はどこにあったのだろうか。

第一に、彼は、神を信頼することにおいて失敗した(13・5・14)。ペリシテびとに圧迫されて、民が離散し始めたとき、サムエルが来るのを待ちきれず、自ら犠牲の供え物を献げることににより事態を収拾しようとした。どこまでも神を信頼し、神の助けを待ち続ける態度に欠けていた(イザヤ7・4、9、30・15)。

第二に、彼は神に従うことに失敗した(15章)。アモレクびとを家畜もろとも滅ぼし尽くすようにとの神のご命令に従わず、アガク王を助け、家畜のうち最も良いものを殺さずにおいた。「主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか」。サウルは、神が最も喜ばれる従順を示しそなただったのである。

「神がご自身に従う者に賜わった聖霊」(使徒5・32)、「わたしたちは…すべての異邦人を信仰の従順に至らせるように」と、彼によって恵みと使徒の

務とを受けた」(ローマ1・5)、「神に従いなさい」(ヤコブ4・7)とあるように、従順は神が最も喜ばれるものであり、神の祝福を受ける秘訣である。「神に用いられるためには、わたしたちは従順でなくてはなりません」(オズワルド・スミス著「神に用いられる人」いのちのことば社、93頁)。

## テキスト

17 たとい、自分では小さいと思っても、あなたはイスラエルの諸部族の長ではありませんか。立場に伴う責任を自覚しないことは、謙そんではなく責任放棄である。

18 行って、罪びとなるアモレクびとを滅ぼし尽せ。「滅ぼし尽す」と訳される「ハールム」は、本来神の独占物とするの意であって、残しておいて自分たちの所有とすることは許されないことを示唆する。具体的には、カナンびとやアモレクびととの戦いにおいて、この言葉が用いられた(申命記7・2)。その背後には、神がこれらの民族の罪を見られたこと、また、神がその罪を罰すると

の宣言があった(15・2、申命記9・4、5)。

19 ぶんどり物にとびかり。民は、アモレクびとの羊と牛のうち、つまらない物だけを滅ぼし、肥えた良い物は残しておいた(9)。「とびかり」との表現は、彼らの心の中にあつたのがあわれみでなく、貪欲であつたことを表している。

20 わたしは主の目に聞き従ひ、滅ぼし尽しました。サウルはこのように語ったが、自らを正当化しようとする強弁に過ぎない。中途半端な従順は、不従順と同じである。

21 民は…主にささげるため、ぶんどり物のうちから羊と牛を取りました。サウルは、民がしたとだと繰り返す(15)。しかし、実際は、サウルも彼らと一緒に行動していたようである(9)。また、たとえ民がそのようにしたのだとしても、彼は王としてそれをとどめ、主の言葉を忠実に果たしていく責任があつた。

22 主はそのみ言葉に聞き従う事を喜ばれるように、燔祭や犠牲を喜ばれるであろうか。見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。サウルのもう一つの弁明として、「主にささげるため」と繰り返されている(15、21)。おそらく、真の動機は貪欲であつたろうが、たとえ彼の言葉が真実であつたとしても、それが主に對する不忠実、不従順であることに変わりはない。犠牲の供え物は、神への従順と献身があつてはじめて意味のあるものであつて、従順なき犠牲は神が憎まれるものでさへあつた(イザヤ1・11・15)。

23 そむくことは占いの罪に等しく、強情は偶像礼拝の罪に等しいからである。占いと偶像礼拝は、共にカナンびとに蔓延していた罪であり、これらの罪のゆえに彼らは滅ぼされた(申命記6・14、8・19、20、18・9・14)。神に背き、強情な心で神に従おうとしないことは、それらの罪にも等しい重さを持つている。

あなたが主のことは捨てたので、主もまたあなたを捨てて、王の位から退けられた。主の言葉を軽んじ、これを退ける者からは、主の祝福と守りの手が退けられることを覚えなければならない。

聖書 サムエル上15・17～23  
タイトル 言われるとおり  
暗唱聖句 見よ、従うことは犠牲にまさり、聞くことは雄羊の脂肪にまさる。  
目標 サウルの失敗を教訓に、聞き従う信仰を持つ。

導入

(小野)

10月になりました！運動会ももう終わりましたでしょうか？スポーツの秋、読書の秋、食欲の秋、天高く馬肥ゆる秋とも言われます。どれもとてもヘルシー（健康的）なひびきですね。生き生きと、ハツラツ、活発に前向きに、勝利の秋を過ごしたいです。心が曇ったり、暗くなったり、悪いこと悲しいことがいっぱいあるこの世の中で、勝ち抜いていく秘訣は「信仰」です。神様を信じる、「信仰の勝利」について10月は学ぶことにしましょう。まずは「反面教師サウル王」の登場です。「ハンメンキョウシ」って？この人のようにしてはいけません、この人のようになつてはいけません、この人の真似は絶対にしないように！という意味での先生（？）なのです。そんなのつてとても残念ですよね。それでいてとても重要なことなのです。サウル王は初めから、神様を信頼できなかったり、聞き従えない人ではなかったのです。初めはともへり下つて、神様に喜ばれていたのに、だんだんと心が高ぶつていったのでしょう。神様を信頼

できず、神様の「言われるとおり」にできなくなつていったのです。そうして、失敗をしてしまったサウル王を、預言者サムエルは叱ります。

神様がお選びになったのだから

「たとい、自分では小さいと思つても、あなたはイスラエルの諸部族の長ではありませんか」。王様だからこそ、一番に神様に従うべきだったのです。民の手本となるために、神様に選ばれているということが少しもわかつていなかったのでしょうか。王様失格！です。

今日、私たちは大丈夫でしょうか？私も神様を選んでくたさつて、ここにいるのです。日本では100人に一人、いるかいなか分からないくらいにクリスチャンです。その一人として、今日私を選んでくたさつて神様のお声をよく聞ける耳としてくたさいますように。神様の言葉によりく従つていきますように。そのような私をまわりのお友だちが見て、一緒に教会に行けるようになったり、神様のことを信じるができるようになったら、どんなにうれしいことでしょう。

神様がお嫌いになるのだから

神様の命令は、アマレク人も、すべての持ち物も、牛も羊も、らくだも、ろばも皆滅ぼしつくしなさいというものでした。神様や、神様の民にとつては敵だったのです。ところが、サウル王と民とは、この神様の言葉どおりにはしなかったのです。つまり、アマレクの王をゆるし、羊や牛や、小羊のとてもよく肥えた良いものを残し、つまらない物だけを滅ぼしました。しかも、それらを神

様にささげるために民が残しましたと、サウルはサムエルに平気な顔をして言いました。民が、あなたの神、主にささげるために取つたのです。私ではありません。私は従いました。民が残しておいて、主にささげようとしていたのです、と民のせいにまでしています。神様の言葉にそむいてまでするささげ物に何の意味もありませんし、神様はそんなささげ物をお嫌いになります。とうとうサウル王は、王様の位から引きずりおろされてしまいます。神様の心と、サムエルの心を悲しみていっばいにしてしまいました。

神様のお喜びベスト・スリー

私たちはまだ小さいので、たくさんのお金さえしていれば、別に礼拝に出なくても、聖書を読まなくても、お祈りしなくても、神様は祝福してくださる、なんて言えないけど、大きくなつてそうならないように！さあ、心に刻んでおきましょう。

神様のお喜びナンバー1（ワン！）

それは「神様を信じること」健康なこころ。

神様のお喜びナンバー2（ツー！）

それは「神様に聞くこと」健康な耳。

神様のお喜びナンバー3（スリー！）

それは「神様に従うこと」健康な手足。

私の罪を赦すためイエス様を十字架につけるほど、愛してくださっている神様を、私も愛して、神様から「言われるとおり」にして、神様をお喜ばせたいと思いますよね！

♪小さいわたしの

（日本ホーリネス教団 こどもさんびか14番）

ワーク A

10月3日～31日の聖句 Iサムエル16・7

話し方のヒント

サウルは、王様としてのお仕事をするために、いろいろと頑張りましたが、だんだんと自分勝手なことをする人になっていきました。どんなに一生懸命にすることも、それが神様から言われたとおりのことでなければ、神様はお喜びになりませんね。私たちも、まず神様が何とおっしゃっているのか、聞いて従う心を持ちましょう。

ワークについて

小さなベクトルなどを使って、マラカスのような音が出る人形の形の楽器を作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神様はサウルを王に選びました。しかし、サウルは神様がアマレク人を家畜もろとも滅ぼしつくしなさいとの命令に従わず、滅ぼしつくしませんでした。

●質問3 神様が最も喜ばれるものは従順です。それは神様の祝福を受ける秘訣でもあります。私たち、子どもたちと共に従順な者とならせていただきますように。

ワーク C

●第1問 「従うこと」、「聞くこと」（以後、四角マスの答えは「I」で表す） 「ささげ物・犠牲」という儀式的なものよりも「神への信仰の従順」という本質が大切であると教えます。

●第2問 「選んだ時」は①、②、③、⑤と、「捨てられた時」は④、⑥、⑦、⑧と結びます。第2問の真ん中に、点線の四角で囲んで第3、4問が挿入されています。これは上に「王に選ばれた時の様子」を、下に「捨てられた時の様子」を集め、第3、4問はその間の変化を扱っています。つまり時間的に上から下へ進んでいるのです。

●第3問 サウルの変化の理由を探ります。

●第4問 自分にも同様のことがないかを探り、話し合います。

ワーク D

●枠の中の空欄を、聖書を読みながら埋めていきます。

●わが家では時々ワークを使って家庭礼拝をします。そうすると子どもたちにとどのようワークを通して言葉が伝わるか、あるいはワークを用いるときにここはついでに聞いたほうがいいかなど、感覚が実感できて現場でアレンジできると思います。また一人でデボーションに用いることもできると思いますがいかがでしょうか。

●自分の考えよりも神様に従うこと、聞くことを優先することは信仰生活に欠かせないことですが、サウルの失敗の記事を読むと、自分自身が吟味される思いです。子どもたちと共に主に聞き、従う者でありたいと思います。

中高科へのヒント

観察してみよう

1 サウルはサムエルに罪を指摘されて、悔い改めましたか。（悔い改めていない／20、21節）

2 サウルはサムエルにどんな言い訳をしていますか。（自分ではなく、民がいけにえにするために持ち帰つたと、責任転嫁をしている／21節）

3 神様に聞き従うこと、いけにえをささげることの、どちらが神様に喜ばれると書いてありますか。（聞き従うこと／22節）

4 サウルが神様に聞き従わなかったことによつて、神様からどのように扱われましたか。（王の位にふさわしくないと宣言された／23節）

考えてみよう

1 サウルは、アマレク人の値打ちのある持ち物を見て、どう思つたのでしょうか。

2 サウルはサムエルから罪を指摘された時、どうすべきだつたと思いますか。

3 神様の言葉にそむくことは「偶像礼拝の罪に等しい」と言われていますが、なぜだと思えますか。

自分に当てはめてみよう

1 み言葉を読んだり、聞いたりした時、神様が自分に語っておられることがわかりますか。

2 み言葉に従わなかった時、言い訳をするだけで、悔い改めなかったことはありますか。

3 サウルのように、献金をする時、もつたないと思つたことはありませんか。



聖書 サムエル上16・6～13  
テーマ 神の選び

## 序論

(鎌野)

主の言葉に従わなかったサウル王は、依然として王位にあったが、主はすでに彼を捨てておられた。そこで主はサムエルに語られた。△あなたをベツレヘムびとエッサイのもとにつかわします。わたしはその子たちのうちにひとりの王を捜し得たからである▽（16・1）。しかし、サムエルはそれを聞くと、サウルは自分を殺すと思った。サウル王の権力は、自分に油を注いだ預言者を殺すことさえできるほどまでに強力になっていたのである。これは決して神の御心にかなう王の姿ではない。では主は、サウルに続く王をどのような基準で選ばれたのだろうか。

## 一、外の顔かたちではない

サムエルは、次の王を選ぶためにベツレヘムに來たと、一言も言っていない。サムエルは若い人々を預言者として育てていた（19・20）ので、エッサイはきつと、その預言者学校に自分の息子のだれかを招いてくれるのだろうと思っていたのだろう。そこでまず長男のエリアブがサムエルの前に連れて來られた。サムエルは△この人こそ、主が油をそがれる人だ▽と思った。背が高く、筋肉隆々としたハンサムな好青年で、王となるにふさわしく見えたに違いない。

しかし、主は△顔かたちや身のたけを見てはならない▽と仰せられた。そう言えばサウル王も、

△イスラエルの人々のうちに彼よりも麗しい人はなく、民のだれよりも肩から上、背が高かった▽

（9・2）。軍人としては良かったかもしれないが、民が神に従うように指導できる人物ではなかったのである。サムエルのような大預言者であつても、外の顔かたちで判断してしまつたのだから、神の御心にかなう人を選ぶのは本当に難しい。しかし、この主の言葉があつた後には、続く6人の息子たちに対して、△主が選ばれたのはこの人たちではない▽と判断することができた。

## 二、年齢でもない

7人すべてがサムエルに会つたが、ふさわしい人がいなかった。尋ねてみると、△末の子が残つていますが羊を飼っています▽とのこと。エッサイがこの末っ子をその場に同席させなかったのは、有名な預言者サムエルの前に出すのには、その子はまだ若すぎると思つたからだと推測される。それに、牧畜はだれかが番をしていなければ、何がおこるかわからないので、末っ子にその役をまかせたのだらう。

確かに年齢は、ひとつの基準ではある。しかし、神との関係の場合には、年齢にこだわつてはならない。主イエスは「だれでも幼な子のように神の国を受けいれる者でなければ、そこにはいることは決してできない」と言われた（ルカ18・17）。教会学校の生徒は、教会の宝である。彼らが將來、この教会を、この日本を、この世界を担つてくれる。神は彼らを選んでくださっている。決して輕んじてはならない。

## 三、心が選びの基準である

最後にサムエルの前に連れて來られた末っ子は、△血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人であつた▽。しかし、サムエルはそのような顔かたちで判断したのではない。△これがその人である▽との主の言葉があつたから、彼に油を注いだのである。主は、彼の心を正確に見ておられた。そして△この日からのち、主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ▽。ここではじめて、この少年の名前がダビデであることが明らかにされる。

△人は外の顔かたちを見、主は心を見る▽とは、まさに金言である。私たちの判断は顔かたちでごまかされやすい。ただ、神のみが人の心を見抜かれる。だから、私たちは軽々しく人を判断してはならない。生徒たちの良し悪しを評価するのはなく、主は彼らをどう見られるかに注意しよう。ダビデはこの時、10代だつたと思われる。正式に王になる30歳まで（Ⅱサムエル5・4）、彼は様々な試練を経験した。その中で彼の心は整えられていく。主ご自身が彼を育てられたのである。

## 結論

私たちがクリスチャンとなり、あるいは教会学校教師となつたのは、主が選んでくださったからである。その主は、私たちの心を常に見ておられる。私たちの心は、主の前に聖くあるだろうか。まず、自分の心を点検し、その上で生徒の前に立ちたい。そうでなければ、私たちは生徒を誤つて判断してしまう。主の心を持ち、彼らの将来を期待して、み言葉を教え続けよう。

## 研究資料

(長田)

## ダビデ

イスラエル王国2代目の王。紀元前1010年から970年ころまでの40年間統治した（サムエル下5・4）。周辺諸民族との戦いに勝利を収め、イスラエルに平和で繁栄した黄金時代をもたらした。

彼は、少年時代、王となるべく選ばれ、油を注がれたが、ねたみのゆえにサウル王に命を狙われ、逃亡生活が続ける。しかし、彼は試練の中でも神への信頼と従順を失わず、むしろその信仰は練られ堅固なものとされ、神のみに頼る者とされた。やがて、時が來たとき、人々から王として迎えられたのである。

少年時代の神の選びは、「主は心を見る」（7）とのみ言葉と共に行われたが、神が見られたというダビデの「心」とは、どのような心だったのだろうか。

①勇氣 少年時代のゴリアテとの戦いにおいて見られるように、勇敢な人物であつた。その後の周辺諸民族との戦いにおいても、彼の勇敢さはいかななく発揮された。彼の勇氣は、無謀で向こう見ずな勇氣ではなく、主に対する絶対的な信頼に基づく勇氣であつた（17・47）。

②信仰 ダビデは信仰の人であつた。数々の戦いにおいて、また、長く続く試練の中で、主を信頼し続けた。神は、彼の信仰に見事にお応えになつて、彼に勝利を与え、王位をお与えになつた。

③従順 彼は、戦いに臨む時、また、人生におけ

る転機の時、度々主に問い、示されたところに従つて進んだ（23・2、サムエル下2・1等）。彼の生涯は、神の御手の導きのままに進む従順の生涯であつた。

## テキスト

6 サムエルはエリアブを見て、「自分の前にいるこの人こそ、主が油を注がれる人だ」と思つた。「ベツレヘムびとエッサイの子たちのうちに王となるべき人物を得た」と言われる主の言葉により（1）、エッサイの息子たちの前に立つたサムエルは、まず、長子エリアブに目を留め、「この人こそ」と考える。預言者も人の子、「顔かたちや身のたけ」（7）を見た結果であらう。

7 顔かたちや身のたけを見てはならない 外見での判断に左右されやすい私たちへの忠告。

わたしが見るところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る 人の評価と神の評価とは、常にずれがある。そのずれのいくらかは、人のどこに目を留めるかによつて生じる。人の評価によつて生きるなら、ある程度外見を整えなければならぬ。神の評価によつて生きるなら、内を整えることに心を向けなければならない。

8 主が選ばれたのはこの人でもない 長子エリアブについて判断を誤つたことを悟つたサムエルは、次男アビナダブ（17・13）が前に來たとき、まず主に問うたのであらう。主の御心を知つて、「この人でもない」と告げる。

9 シヤンマ 三男についても同様。17・13からは、上の三人が戦いに出ることのできる年齢に達

していたと思われる。

10 七人の子 エッサイの息子はダビデを含めて八人であつたが、一人は早死にしたのかもしれない（歴代志上2・13～16）。

11 まだ末の子が残っていますが羊を飼っています あまりにも年少であつたためであらう、ダビデは預言者の前に連れてこられなかつた。神の選びは、人の思いを超えたところにあることが、ここでも明らかにされる。羊を飼いながら、やがて多くの民の牧者となるべく訓練を受けていたダビデに、神は目を留めておられた。

12 血色のよい、目のきれいな、姿の美しい人 ゴリアテは、紅顔の少年ダビデを侮つたが（17・42）、神はその心を見られた。

これがその人である 神の選びは明確。

13 サムエルは：彼に油をそいだ イスラエル民族において、神に仕える者としての任職を受ける際、しばしば油が注がれた。祭司（出エジプト28・41）、預言者（列王上19・16）、そして、王に対して（サムエル上9・16）、油が注がれている。ダビデに対するこの時の油注ぎは、私的なものであつて、ユダ、また全イスラエルの王として迎えられる時には、再度公に油注ぎを受けている（サムエル下2・4、5・3）。

この日からのち、主の霊は、はげしくダビデの上に臨んだ 油注ぎの儀式は、主の御霊の注ぎの象徴であつて、この時からダビデは、主の霊の注ぎの中で進んでいくこととなる。神は、ご自身の働きのために人を選び、選んだ人に奉仕のため必要な油注ぎをお与えになる。

聖書 サムエル上16・6～13  
タイトル どこを見る？  
暗唱聖句 人は外の顔かたちを見、主は心を見る。  
サムエル上16・7  
目標 主が大切にされるのは、外側よりも心であることを知る。

導入 (小野)

さあ、先週一週間、神様の声をよく聞いて、従えたかしら？ 今日は、耳でなくて、目についてですよ。「めんくい」って言葉、知ってますか？ えーと、ラーメンも好き、そうめんも、きしめんもうどんも、それにスパゲティもだい好き！ そう、その「めんくい」もあるのですが、これはね、外の顔かたちがハンサムだとか、美人だとか、その方にどうしても心がかたむいてしまう、やっぱり、かわいい子とかきれいな子の方がいいな、仲良くしたいなと思う心のことを言っているのです。今日の聖書はとっても大切なイスラエルの第二代の王様の選びのところです。さてさて、神様はどのようにしてこの大切な王様をお決めになられたのでしょうか。

人の目

サウル王様のことで、とても心を痛めていた預言者サムエルは、もう1度神様から遣わされて、王様を選んで油を注ぐためにベツレヘムのエッサイという人の所に行きました。エッサイは、有名

なサムエルの前に息子たちを連れてくるというのでもとても緊張していました。まず、長男エリアブです。背も高く、すごくハンサムだし、礼儀正しいし、サムエルは、「おつ！ この人がきつと神様に選ばれた人にちがいないぞ」と思い、油を注ぐうとしかけると、神様からの「マッタ！」の声がかかったのです。「エッ？ 神様、ちがうのですか？」。顔かたちや身のたけを見てはならない。わたしはすでにその人を捨てた。わたしがいるところは人とは異なる。人は外の顔かたちを見、主は心を見る」と、神様はおっしゃいました。

人間の目、あんなにもすぐれた神様の預言者サムエルの目でもさへ、外の顔かたちや、背が高いことに惑わされたのですから！ 私たちの見る目も「大丈夫かな？ 見るべきところを見ているのかな？」と、注意する必要があるにやりますよね。誰かを見ると、人間の目は、どうしても顔はどうか？ 背はどうか？ 立派な服を着ているのかな？ この子の親は何をしているのかな？ お家はお金持ちなのかな？ 成績はどうなのかな？ ということばかり見えてしまいませんか？ でも、神様は違うのです。

神様の目

長男エリアブに続いて、次男アビナダブ、三男シャンマと、エッサイは次々と息子たちをサムエルの前に通らせたが、7人全部通ったのに神様はサムエルに、「この人だ！」と言ってくださいません。「おかしいな、あなたの息子たちは、これで全部ですか？」「いえ、もう1人、末の子が野で羊を飼っています。」「すぐ連れてきてください。」「8番目の息子が連れてこられました。まだ年も若

く、汚れた服で羊の面倒を見ていたのですが、血色がよく、目もきれいで、姿が美しい子でした。するとどうでしょう！ 7人の立派なお兄さんたちを出し抜いて、「立つてこれに油を注げ。これがその人である」との神様の御声が響きました。サムエルは兄弟たちの見ている前で彼の上に油を注ぎました。羊を飼う少年ダビデが神様に選ばれたのです！ 神様はダビデの年齢とか、末っ子だとか、羊飼いだとか、汚れた服だとか、外側に目を注いだのではありませんでした。ダビデの羊を飼う優しい心、羊を飼いつつ神をおそれる清い心をちゃんとごらんになって、目をとめておられたのでした。

そのうち、ダビデはさらに20年くらい神様からの訓練を受けて、王様になる者にふさわしく、さらに磨かれ、輝いていきました。

神様が大切に見られるのは、「心」なのです。私たちも他の人々やお友だちを見るときに、一番大切な「心」を見るようにしたいものです。そして、私たちも神様から「心」を見られていることを忘れないようにしたいですね。人間の目なら時々ごまかせるかもしれませんが、けれども、神様の目だけは、絶対にごまかすことはできないのです。自分を良く見せようとしなくて、いつでも、ありのままの自分を神様にさし出しましょう。そして、イエス様の十字架を仰いできよくしていきましょう。きよい心でお友だちと過ごしましょう。♪子どもよどこを見てる（ふくいん子どもさんびか22番）

ワーク A

話し方のヒント

どんなにきれいな洋服を着ていても、それで心がきれいだということにはなりません。それに「心」というのは、私たちの目には見えませんが、でも、神様は私たちの心を見ることがおできになります。神様が、サムエルに「新しい王様はダビデです」と教えて下さったのは、神様を大切に思うダビデの心をご覧になったからです。私たちも、神様を信じる心を大切にしましょう。

ワークについて

ダビデの心の中には、何が映っているでしょう。※印のところに色を塗りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 サムエルは、背が高くてかつこよく、礼儀も正しいエリアブこそが、主に油注がれる者だと思いました。しかし、神様が選ばれたのは、血色がよく、目もきれいで、姿も美しいダビデでした。彼は神様を畏れる、心優しい少年でした。  
●質問3 人は外のかたちを見て判断しますが、神様は心を見られます。神様の前に、いつもごまかすことなく、イエス様の十字架を仰いできよくしていただきましょう（イヨハネ1・9）。

ワーク C

第2問 「外の顔かたち」は、顔、スタイル、身長、年齢、服装、成績、仕事、家柄、「心」は、やさしい、穏やか、怒りっぽい…など。

●第3～4問で自分の感覚、考えを自覚します。  
●第5問 神様が喜ばれる心の姿を調べます。  
●第6問 サウルもダビデも選ばれたときは、姿が美しく心も謙遜でした。しかし、その後サウルの心は変わって神様に捨てられ、ダビデの心は一生涯変わらず、神様に喜ばれました。全知全能の神様は、ひと時の人の心を知るだけではなく、一生涯を通じての心を見抜き、選ばれます。私たちも神様に選ばれ喜ばれる者となるように祈ります。

ワーク D

●選ばれることは光栄なことです。学級委員に選挙で選ばれること、クラブのキャプテンに選ばれること、そのような光栄な思いをしたことがありませんか？ そのためには、成績優秀であったり、スポーツ万能であったり、人を笑わせたり、引き付ける要素があったり、スピーチがうまかったり、容姿端麗であったりしなければなりません。そして人は見かけにこだわれば人から良い評価を受けられない世の中に住んでいるからです。子どもたちも例外でなく、その中でもがいています。そのことを踏まえて今日のみ言葉がどの様に浸透するか課題かも知れません。

●ところが、神様の選びはそれとは別の所にあるようです。神様が見ておられるところ、私たちの気にしているところを、ワークを通して吟味したいものです。

中高科へのヒント

観察してみよう

- サムエルは、エッサイの長男のエリアブを見てどう思いましたか。（この人が王として選ばれた人に違いないと／6節）
- 神様が王を選ばれる基準は、外見ですか、それとも心ですか。（その人の心／7節）
- 王として選ばれたダビデは、エッサイの何番目の子ですか。（8番目、末の子／11節）
- ダビデはどんな人だと言われていますか。（勇気がある。主が共におられる等／18節）

●考えてみよう

- エッサイは、末の子のダビデをどう見ていたと思いますか。（年が若くて、選ばれるにはふさわしくない／11節）
- 神様が人を見る見方と、私たちの見方とは同じでしょうか。（同じではない／7節）
- なぜサウルが神様から捨てられ、代わってダビデが選ばれたと思いますか。
- 自分に当てはめてみよう
- 神様があなたの心の何もかもご存知だということについて、どう思いますか。
- あなたは周りの人を、外見だけで判断していることがないでしょうか。
- 人と比べて劣等感を感じるとき、神様はあなたの何を見ておられるでしょうか。
- 神様は、心が神様に向いている人を大いに祝福して下さい。あなたはどのように。



聖書 サムエル上17・41～49  
テーマ 信仰の戦い

## 序論

(鎌野)

10月は「信仰による勝利」をテーマとして学んでいるが、それが明確に示されるのが今週の有名な記事である。時期的には、前週の事件から数年後の出来事と思われる。神がダビデを次の王に選ばれたのは、彼の心にあった信仰のゆえだった。それが、神に従う信仰を持っていなかったサウル王との根本的な相違である。ダビデが巨人ゴリアテを打ち負かすことができたのは、この信仰があったからにほかならない。信仰の戦いは、普通の戦いとどのような点で違っているのだろうか。

## 一、武器に頼らない戦い

ペリシテ軍から一騎打ちをいどんできたのは、ゴリアテという身長約3メートルの戦士だった。彼は重さ60キログラムの青銅のよろいをつけ、かぶととすね当てをまとい、投げやりを肩に背負っていただけでなく、つるぎも手に持っていた。武器を完全に装備していたのである。サウル王も背が高く、よろいかぶとに身をつつんでいた。しかし、彼に立ち向かう勇気がなかった。いや、本当は信仰がなかった。

それとは対照的に、ダビデは羊を追うためのつえ1本、それに野獣との戦いのための「石投げ」を持つただけだった。彼は、サウル王が提供しようとした武器さえもこわった。それらに慣れていなかったばかりではなく、それらを必要としてい

なかったからである。

信仰の戦いは、目に見える武器によるものではない。現代でも悪魔の策略に対抗するために必要なのは、真理の帯、正義の胸当、平和の福音の靴、信仰のたて、救いのかぶと、御霊の剣であることを銘記しよう（エペソ6・10～17）。

## 二、神の名による戦い

ゴリアテは、武器を持たないでむかってくるダビデを見てあざ笑い、**「人神々の名によってダビデをのろった」**。しかし、ダビデは**「わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエル軍の神の名によって、おまえに立ち向かう」**と宣言した。ここで両者が言う「神の名」は全く違っている。ゴリアテは神の名を用いてダビデをのろったが、ダビデは人のごう慢な挑戦をものもされない神の名によって戦うと宣言した。ダビデはイスラエルの神を信頼し、まったく武器に頼らずに、この敵に向かったのである。

少年ダビデは、なぜこれほど大胆になれたのだろうか。彼は、羊を守るために何度かししやくまと戦ったが、そのたびに主は自分を救い出してくださったとの確信があった（37節）。**「たといわたしは死の陰の谷を歩むとも、わざわざいを恐れません。あなたがわたしと共におられるからです」**（詩篇23・4）とは、彼の体験からの告白だった。

神の名による戦いとは、口先だけのものではない。神は自分と共におられるとの確信を持ち、一歩を踏み出すことである。今でも、臨在の主を信じるなら、勇敢に立ち向かうことができる。

## 三、圧倒的勝利の戦い

ダビデのゴリアテへの言葉は、**「この戦いは主の戦いであって、主がわれわれの手におまえた人を渡される」**と締めくくられている。彼は、戦うのは自分ではなく、主ご自身であることを確信していた。だから、戦う前から勝利は確実だった。ダビデは5個の石を袋の中に入れてゴリアテの前に出たが、最初の石で彼を倒した。ゴリアテの武装していない唯一の場所であった額に、石は命中したのである。確かに、**「主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられない」**。圧倒的な勝利をもたらすのは、信仰そのものである。

今の時代にも、世と肉と悪魔は私たちに向かって攻撃をしかけてくる。それらのものに負けた経験を持つ人々もいるだろう。その原因は、主の臨在を忘れ、自分の力で戦おうとしたからである。大切なのは「神がわたしたちの味方である」との確信だ。こんな弱い自分をも「愛して下さったかたによって、わたしたちは勝ち得て余りがある」ことを忘れてはならない（ローマ8・31～37）。

## 結論

来週学ぶように、このダビデであっても、王になった後に大きな罪を犯すことがあった。信仰とは神との関係であり、自分のほうからそれを断ち切ることもできるからである。だから、信仰の戦いは常に続いている。どんなときも、主の臨在を忘れてはならない。自分の力で何でもできると思ってはならない。ただ、主イエスの御名を呼び、主により頼もう。これこそ勝利の秘訣である。

## 研究資料

(長田)

## 信仰の戦い

少年ダビデは、ペリシテの巨人ゴリアテに対して勇敢に戦いを挑み、見事な勝利を得た。その秘訣は、彼が主の御名によって戦ったことにある（45）。

主の御名によって戦うとは、第一に、神の栄光のために戦うことである。ダビデがじつとしていえることができなかったのは、ゴリアテが「いける神の軍をいどんだ」（26、36）という点にあった。このまま戦わずして敗北を認めることは、神の御名に関わることを考えた。

第二に、神に信頼し、神がこの戦いに勝利を取って下さるとの信仰によって戦うことである。「この戦いは主の戦いであって、主がわれわれの手におまえた人を渡されるからである」（47）との言葉に、その信仰が表されている。

現代においても、信仰者は様々な信仰の戦いに直面するであろう。

- ①信仰を守るための戦い（Ⅱテモテ4・7）
- ②世の誘惑との戦い（Ⅰヨハネ5・5、6）
- ③宣教の戦い（Ⅰテサロニケ2・3）

これらの戦いにおいては、真の敵は血肉ではなく、本質的には霊的な戦いであることを覚えながら（エペソ6・12）、いかに困難が大きく、敵の姿が大きく見えたとしても、ダビデと同じ信仰を持って戦いに挑むなら、主は必ず勝利を取ってくださる。

## テキスト

41 そのペリシテびと ゴリアテ。若い時からの軍人であり（33）、身長は6キュビト半あった（4節、1キュビトは約44・5cmであるから、約290cm）。

42 ダビデを見、これを侮った。まだ若くて血色がよく、姿が美しかったからである。あまりに年少であり、また、無骨な軍人たちとは対照的な容ぼうであったため、軽んじたのであろう。

43 つえを持って、向かってくるが、わたしは大きなか。ダビデは、羊飼いの時にししや熊と戦った時と同じようにしてゴリアテに戦いを挑んだ（34、36、38、40）。主の戦いにおいて、主は私たちの過去の小さな経験をも用いてくださる。

神々の名によってダビデをのろった この戦いの霊的な側面。

44 おまえの肉を、空の鳥、野の獣のえじきにしてくれよう。信仰の戦いにおいても、敵は私たちの敗北した姿を見せようとする。戦いにおいては常に、信仰によって勝利を先取りしながら進む必要がある。

45 おまえはつるぎと、やりと、投げやりを持って、わたしに向かってくるが、わたしは万軍の主の名、すなわち、おまえがいどんだ、イスラエルの軍の神の名によって、おまえに立ち向かう。この戦いにおいて、ゴリアテは武器に頼り、ダビデは神の御名に頼っている。ダビデにとつての唯一最大の武器は、神の御名であったと言える。神の御名とは、神のご本質、ご人格であり、神ご自身を表す。しかも、このお方は、万軍の主であって

（詩篇24・10等）、御使いたちの軍勢をも率いておられるお方である（ネヘミヤ9・6）。ダビデは、そのような神の御名によって、ゴリアテに立ち向かう。

46 主は、おまえをわたしの手にわたされるであろう。信仰の戦いにおいて、戦いの主導者は主である。主が勝利を取られ、主に従う者はその勝利を主から受け取る。

イスラエルに、神がおられることを全地に知らせよう。戦いに挑むダビデの動機がここにある。

47 全会衆も、主は救を施すのに、つるぎとやりを用いられないことを知るであろう。ダビデは、主が武器を用いずとも救いを与えられることを確信していたが、同じ確信を全会衆も持つようになることを期待する。霊的な戦いにおける勝利は、世に神を知らせるばかりでなく、信仰が弱くなり、恐れと無気力に陥っている神の民に信仰の復興を与えるものである（24参照）。

この戦いは主の戦い 「自分が戦う」との意識から、「主の戦い」との意識に変えられることが勝利のかぎ。

主がわれわれの手におまえた人を渡される。ゴリアテへの個人的勝利ばかりでなく、全イスラエルの勝利をも主が与えて下さることを確信している。

49 一つの石を取り、石投げて投げて、ペリシテびとの額を撃ったので、石はその額に突き入り、うつむきに地に倒れた。用意されたのは、5個の石だったが（40）、一つの石で勝利が取られた。主は信じる者に圧倒的勝利を与えてくださる（ローマ8・37）。

聖書 サムエル上17・41～49  
タイトル きつと勝てるよ！  
暗唱聖句 イスラエルの軍の神の名によって、  
おまえに立ち向かう。  
サムエル上17・45  
目標 信仰の戦いは必ず勝利だと知る。

## 導入

(小野)

キャンプや夏期学校に、この夏も参加したお友だちがたくさんいることでしょう。楽しいゲームもいっぱいしましたか？とつても盛り上がるゲームの1つが「じゃんけんゲーム」ですよ。いつも愉快だなあと感心してしまう瞬間があります。それは、大きな大きな体格をしたおじさんと、豆のように小さくかわいい子がじゃんけんをして、オット！なんと小さいかわいい子の方が勝つ！という場面です。じゃんけんつておもしろいよね。そこには1つのルールがあるからです。パーはグーに勝ち、グーはチョキに勝ち、チョキはパーに勝つというルールのとおりにすれば、きつと勝てるよ。

さて、今日の戦いの場面も不思議で、また素晴らしいものですね。少年ダビデ対大男ゴリアテ戦です。普通に考えたら、大男ゴリアテが勝つのが当たり前だと思うのですが、ここでは……

## 負けたゴリアテ

神様と、神様の民の大敵ペリシテ人のゴリアテ。身長は6キュビト半で、3メートルくらいです。

頭には重い青銅のかぶとをかぶっていました。頭が首にずんだり、頭が横に折れたりしなかったのです。手に持っているやりと言え、これまたかなりの重いものでした。もう見るからに勝負あった！と言えるほどのゴリアテの様子でした。おまけに、今まで誰にも負けたことのないゴリアテです。何の武器も持たないで、自分の目の前にすつくと立つダビデを見て、ゴリアテはダビデに言いました。「つえを持って、向かってくるが、わたしは犬なのか」。そうして、ペリシテびとゴリアテは、神々の名によってダビデをのろいました。そして、またダビデに言いました、「さあ、向かってこい。おまえの肉を、空の鳥、野の獣のえじきにしてくれよう」と。ゴリアテは本当に自信たっぷり！ いったいこのゴリアテ様に誰が勝てるとおもっているんだ！と言わんばかりです。ところが、ゴリアテはみごとに負かされてしまいました。

## 勝ったダビデ

ダビデはちゃんと「信仰のルール」に従って、勝ち得て余りある勝利を得ました。ダビデの持っていた最大の武器は、まず信仰でした。すなわち神を味方としていたのです。神様は全知全能、このお方以上のお方はいません。この神様を迎えればきつと勝てるよ。ダビデがもう1つ持っていた武器があります。それは石投げです。普段は羊を飼いながら、羊を襲ってくるしやくまをうって、小羊をその口から救い出しました。「この割礼なきペリシテびとも、生ける神の軍に戦いをいどんだのですから、あの獣の一頭のようになるでしょう。ししのつめ、くまのつめから私を救い出された主

は、また私を、このペリシテびとの手から救い出されるでしょう」。ダビデの信仰は純粹で、本物の信仰でした。この戦いは、主の戦いであって、主がわれわれの手におまえたを渡されるからである」。

ダビデは、袋の中の5個の中からたった1つの石を取り、石投げで投げて、ペリシテびとゴリアテの額を撃ったので、石はその額に突き入り、うつむきに倒れてしまいました。ダビデはこのように、信仰のルールに従って勝利を得ました！

それは、目に見えるものに頼らず、全知全能で唯一のまことの神のみを信じ抜くというルールです。そうすることが神様を味方とすること、どんなときでも勝ち得て余りある勝利が与えられるのです。

## 応用

今の私にとって、ゴリアテって何でしょうか？ 私たちは、信仰の戦いを忘れないようにしましょう。「わがまま」というゴリアテや、「意地悪」というゴリアテ？「ゲームボーイ」というゴリアテもいるかな？ そのほか、私たちを神様から遠のけようとするゴリアテは、そろそろいるにちがいありません。しかも、大きくてとても手ごわいのです。あ、負けてしまうと思えるような時、「これは主の戦い」「神の名による戦い」と確信したなら、大丈夫！ きつと勝てます。地上は戦いがいつぱいのところ。その中で、主を信じて、よく戦い勝利しましょう。

♪おそいくるライオン（こどもさんびか66）

## ワーク A

## 話し方のヒント

もしも、自分が大男と戦うことになったら……皆さんはどうしますか。ゴリアテという人は、からだが大い上に、よろいかぶとをつけ、武器も持っていました。自分は絶対に勝てると思信たつぷりでした。でも、ゴリアテは本当の神様を知りませんでした。結局、勝ったのは、神様を信じていたダビデでした。私たちも、戦う相手が誰であっても、神様によって勝利できるのです。

ワークについて  
ゴリアテの順で道を進み、勝利のゴールに着きましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 ゴリアテは身長3メートルくらいで、青銅のかぶとをかぶり、とても強そうです。ダビデは少年で、石と石投げしかもっていないので、勝ち目はなさそうです。しかし、神様がダビデの味方だったので、大勝利となりました。  
●質問3 ダビデの勝利は、目に見えるものに頼らないで、全知全能の神様を信じる信仰によるものでした。私たちも神様を信じて勝利の道を進みましょう。

## ワーク C

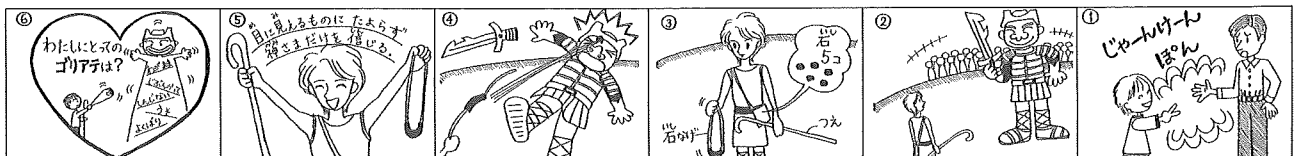
●第1問 イラストは、巨人ゴリアテの前に石投げ器を持つて立ち向かっているダビデです。神の手に守られています。  
●第2問 持っているものは、それぞれ2人が頼っているものです。武器のほかに「信仰」や「神の名」という、道具ではないものも含まれています。  
●第3問 強そうなのはゴリアテですが、勝ったのはダビデです。  
●第4問 信仰による戦いの中身を2点、解説しています。聖書を開いて「主の戦い」を記入。  
●第5問 自分の悩みや困難をゴリアテとしてとらえ、信仰の祈りをします。

## ワーク D

●1の質問はそれぞれの職業について、ゴリアテ：軍人、サウル王：王様、ダビデ：羊飼いです。また、それぞれの神様に対する態度を自分の言葉で書いてみます。  
●ダビデは主の名によって戦いました。私たちは何に頼って戦っているでしょうか？ 自分の力や知恵や知識に頼っていないでしょうか？ 主に頼るとはどういうことでしょうか？ 主に祈ること？ 主にゆだねること？ 主に信頼すること？ そのことがなおざりにされれば、信仰も小手先のものとなって揺らぎ、不安が襲い、主の道から外れてしまいかも知れません。信仰による戦いを戦い抜いて、ダビデの様な勝利を獲得したいものです。

## 中高校へのヒント

- 観察してみよう
- 1 ダビデは周りの人々から、ゴリアテを倒せる人として期待されていましたか。
  - 2 ダビデはどんな格好をしてペリシテ人に立ち向かいましたか。（よろいも武器も身に着けず、羊飼いの仕事のまま）
  - 3 ダビデはこの戦いを誰の戦いだと言っていましたか。（主の戦い／47節）
  - 4 ダビデは5つの石のうち、何番目の石で相手を倒しましたか。（一番目／49節）
- 考えてみよう
- 1 ダビデの勇気はどこから出てきたと思いますか。（神様ご自身が自分と一緒に戦ってくださると確信していたことから／47節）
  - 2 ダビデはなぜ強力な敵に勝ったと思いますか。（神様に信頼して戦ったから／45節）
  - 3 ダビデは何のために戦ったのでしょうか。（神様が生き延びておられることを知らせるため／46）
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたの信仰生活の中で、戦いや誘惑を感じるのとはどういう場合でしょうか。あなたにとってのゴリアテは何でしょうか。
  - 2 戦いを感じるとき、これに打ち勝とうという勇気がわいてきますか。
  - 3 どうしたら勇気がわいてくると思いますか。
  - 4 こういう場合、聖書やお祈りはどのように役立つと思いますか。



聖書 詩篇32・1～5  
テーマ ゆるしの喜び

## 序論

(鎌野)

今週学ぶ詩篇は、表題でわかるようにダビデの作であり、その背景は、サムエル記下11章と12章に詳しく記されている。30歳で王となったダビデは、即位後周辺諸国を制圧し、強大な王権を持つようになった。そして、この頃にはもはや自分が戦いに出る必要がなくなり、エルサレムの王宮で夕方まで寝ているというような怠惰な生活をおくっていたのである。神への信頼がうすらいでいたこのとき、彼は大きな罪を犯すことになる。

## 一、隠された罪

屋上を散歩していたダビデは、一人の女性の入浴姿を見、彼女を王宮に召し寄せて関係を持つ。その結果、彼女は妊娠した。彼女は兵士ウリヤの妻だったので、彼を戦場から呼び戻して、家で妻と過ごすように計らった。しかし、忠実な彼は家に帰ろうとしなかったため、戦場に送りかえして戦死するようにしむけたのである。これはみな、自分の犯した罪を隠すためのしわざだった。

この頃の心のうちを、ダビデは3節と4節で次のように記している。△わたしは自分の罪を言いあらわさなかった時は、ひねもす苦しむうめいたので、わたしの骨はふるび衰えた。あなたのみ手が昼も夜もわたしの上に重かったからである▽。彼は自分の罪を隠してはいたが、神の手が自分の上に重くのしかかっていることを否定することは

できなかった。多分、彼のからだにも異常があらわれたのだろう。ダビデは神から隠れようとしたが、神は彼を見つめられていたのである。

人の目から罪を隠すことはできるかもしれない。しかし、全能の神の目をごまかすことはできない。神を知った者は、どんなにもがいても、自分の罪を隠しとおすことはできないのである。

## 二、告白された罪

神はダビデを愛されていたからこそ、預言者ナタンを遣わし、神は彼の罪をご存知であることを伝えられた。すでに十分苦しんでいた彼は、ナタンのことを正直に受け入れた。そのことが5節に書かれている。△わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、「わたしのとがを主に告白しよう」と▽。ここで、罪、不義、とがの3つの語が用いられているが、違った意味を表わすのではなく、同じことが強調されているのだろう。

罪の告白は、信仰生活において決して欠かしてはならない。最初、主イエスを救い主と信じたとき、罪の告白をしたはずである。しかし、その後、罪を犯したことはないだろうか。きつとあるだろう。そのときも、同じように罪を告白することが大切なのだ。「わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」(イヨハネ1・9)との約束は、クリスチャン生涯を貫いている。罪は隠してはならない。正直に、主に告白すべきである。

## 三、ゆるされた罪

たといどんなに隠しても、神は罪をご存知である。しかし、その罪を自分で認めて告白することを神は求めておられる。告白するならば、△その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた▽という確信が与えられ、喜びがわきあがるのだ。ダビデは1節と2節で次のように歌っている。△そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいいいである。主によって不義を負わされず、その霊に偽りのない人はさいいいである▽。ここにも、とが、罪、不義の3つの語が用いられているが、前と同様、強調のためと思われる。

羊飼いの少年からイスラエルの王となったダビデには、さまざまなさいいいな出来事があったであろう。しかし、最高にさいいいなのは、罪がゆるされたことである。パウロは、「働きはなくても、不信心な者を義とするかたを信じる人は、その信仰が義と認められるのである」という「信仰義認」の恵みを証明するために、ダビデのこの詩篇を引用している(ローマ4・5～7)。ゆるしの喜びは、王になる喜びよりもはるかに大きいのだ。

## 結論

悪魔はダビデに罪を犯させたときには、手を打って喜んだであろう。しかし神は、この悪魔の策略を逆手にとって、生涯忘れることのできないゆるしの喜びをダビデに与えられた。神のなさることはいかに深遠なことか。大切なことは、神の前に正直になることである。△その霊に偽りのない人▽とはそういう者にほかならない。

## 研究資料

(長田)

## 罪赦される幸い

罪が赦されることは、神が与えて下さる恵みの中で最大のものであり、また、最も基本的なものである。人類に対して備えられたあらゆる神の祝福は、この恵みに基づいて与えられるからである。パウロは、「福音とは何か」という一大テーマに基づいてローマ人への手紙を書いたと言われるが、その最初の部分(1～5章)で、罪赦され、神の御前に義と認められる恵みについて、詳しく記す。罪の赦しの恵みは、福音の基礎であり、核心部分でもある。

イスラエル王国の黄金時代を築いたダビデ王は、ある時大きな罪を犯し(サムエル下11章)、その罪責のゆえに大きな苦しみの中に置かれた。しかし、神によって明確に罪の指摘を受けた彼は、神の御前に自らの罪を認め、言い表したとき、神は彼に対して罪の赦しを宣告された(サムエル下12章)。この時の喜びを歌ったのが詩篇32篇である。罪の赦しは、キリストの十字架による贖いに基づく恵みである(ローマ3・24、IIコリント5・21、Iヨハネ1・7)。私たちの一切のわざは、この恵みを受けるためには間に合わない(詩篇49・7～9)。ただ完成された贖いの恵みに信頼しつつ、自分の罪を神の御前に言い表すなら、神は私たちの一切の罪を赦してください。これは、神が私たちに与えられた真実なお約束である(Iヨハネ1・9)。

神はこの恵みを、どんなに大きな罪を犯した者に対しても与えて下さる(イザヤ1・18)。その罪の赦しは完全であって、赦された罪はもはや顧みられることなく(イザヤ43・25)、霧のように消され(イザヤ44・22)、海の深みに投げ入れられたものようになる(ミカ7・19)。

このような恵みを受けて、誰がハレルヤと叫ばずにおられるだろうか。

## テキスト

1 **そのとががゆるされ、その罪がおおい消される者はさいいいである** ダビデ自身の経験から、罪赦される幸いが歌われる。2節と合わせて、罪が3種類の言葉で表現されている。「とが」(ペシヤ)は、神に背くこと、「罪」(ハターア)は、本来、的外れを意味する言葉であり、「不義」(2節、アウウォーン)は「曲げる」が原意の言葉。これに対して、罪の赦しの恵みもまた、「ゆるされ」、「おおい消され」(新改訳では「おわれ」)、「負わされない」(2節、新改訳では、「お認めにならない」こと、3種類の言葉で表される。罪に対する深い意識と共に、罪の赦しの恵みの大きさ、豊かさ表現されている。このダビデの告白は、パウロによっても引用され、信仰義認の教理を証拠立てるものとされている(ローマ4・7、8)。

2 **その霊に偽りのない人はさいいいである** 罪が赦されるとは、自分自身をごまかしたり、偽ったりする必要がないことを意味する。ごまかしなしに自分自身を表していくことができるとは、何

という幸いであろうか。

3 **わたしが自分の罪を言いあらわさなかった時は** 3、4節では、罪を赦されるまでの肉体的な苦しみが表現される。罪を言いあらわすまでは、罪の赦しはありえず、罪責感による苦しい日々が続く。

わたしの骨はふるび衰えた まさに、「骨の髄までの苦しみであった。

4 **あなたのみ手が昼も夜も、わたしの上に重かったからである** ダビデは、その苦しみから来るものであることを意識していた。信仰者が罪を犯した場合、自ら罪を正当化し、ごまかそうとしても、神の御霊がその罪を指摘し、追及し続ける。

わたしの力は、夏のひでりによってかれるように、かれ果てた 信仰者の霊的命は、神との正しい関係において保たれる。もし、罪が犯され、その告白がなされないなら、神との関係は損なわれ、命は枯渇し、霊的力を失うことになる。

5 **わたしは自分の罪をあなたに知らせ、自分の不義を隠さなかった。わたしは言った、「わたしのとがを主に告白しよう」と** ここでも、罪についての3種類の表現が用いられる。

その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた ダビデが罪を告白したとき、罪の赦しの宣言は即刻与えられた(サムエル下12・13)。犯した罪が告白されるまでは、罪の解決はない。言い表され、告白されたならば、罪の赦しは、遅延なく即刻与えられる(Iヨハネ1・9、箴言28・13)。

聖書 詩篇32・1〜5  
タイトル 一番の幸せは？  
暗唱聖句 そのとがゆるされ、その罪がお  
おい消される者はさいわいである。  
詩篇32・1  
目標 信仰による罪の赦しの喜びを体験  
する。

導入

(小野)

「一番の幸せて何？」と尋ねられたら、あなたはどう答えますか？ 幸せなときって、考えてみるといっぱい、いっぱいありますよね。寝ている時とか、2度寝が幸せという子もいます。おいしいものを食べている時とか、決めるのがむずかしいほどですね。さて、ダビデさんに尋ねてみましょう。「ダビデさん、ダビデさんにとって一番の幸せて何ですか？」ダビデさんはどう答えてくれるでしょう。「ハイ、王様として選ばれて油注がれたときです」、「ゴリアテをみごとに1つの石で倒したときでした」、「きれいな奥さんをもったときです」、「立琴を弾いたら悪霊が逃げていったときです」、「戦いに出て次々と勝ち続けたときです」。一体どれが一番の幸せなのでしょう。実はどれも幸せな瞬間だったのですが、一番／はこの中ではないのです。ダビデ王様の一番の幸せは「神様から罪を赦してもらったとき」でした！

罪の苦しみ

えっ？ダビデさんが、王様が罪を犯したの？

そうなんです。家来もたくさんで、自分は戦い

に出なくてもよくなり、気の緩みが生じ、悪魔の誘いに負けてしまつて、ある日忠実な家来ウリヤの奥さんを自分のものにし、子どもを宿らせてしまいました。そのことがバレないようにするため、とうとうウリヤを戦いの激しい所へ送つて死なせてしまいました。ウリヤの奥さんだったバテシバの悲しみは大変なものでした。そのバテシバを妻に迎えました。人の目はごまかして、夫を亡くしたバテシバに親切をしたように見せかけることができましたが、神様はちゃんとすべてを見ておられ、ダビデがしたこの事について、神様はお怒りになったのです。ダビデも心の中では、神様を怒らせる大罪を犯したことをよくわかっていました。だから、罪を隠していたときの苦しみがどんなにひどいものだったかを詩に書いています。骨が古び衰えるほどだったんですね。いろんな苦しみがある中で、罪の苦しみほど苦しいものはないのです。一番の不幸は、貧しいとか病気になることより、罪の苦しみの中にいることです。

もししたらその罪の苦しみから救われるのでしょうか？ 神様はダビデを愛していたので、預言者ナタンを遣わしました。ナタンは、1つのたとえ話をしました。たつた1匹の羊を愛しかわいがっている人の所へ、たくさん羊をもった人がやってきて、そのかわいがっている羊を取つて、自分の所へ来た旅人のために調理したという話です。ダビデは大変怒つて、「そんなひどい事をする人は死ぬべきだ」と言いました。その時、「あなたがその人です！」と言つたナタンの一言がぐさりとダビデのハートに突き刺さりしました。

赦しの喜び

ダビデはすぐに正直に罪を認めて、「わたしは主に罪を犯しました」と告白したのです。ナタンもまた、すぐに「主もまたあなたの罪を除かれまし」と語りました。神様はこの時を待つておられたのです。ダビデが神様の前に「ごめんなさい」と言つたとき、ダビデはもちろんバテシバにも、ウリヤにも、全国民にもおわびの思いでいっぱいだったことでしょう。でも一番は神様の前に罪を犯したので、神様に告白しておわびすべきだったのです。《その時あなたはわたしの犯した罪をゆるされた》。今までヘトヘトになるくらい、心もまた身体も苦しみ抜いていたダビデは、一瞬の後に罪の赦しの喜びにあふれました！ 罪も大きく、苦しみも深かったのです。だからダビデは詩を書いたとき一番に「ああ、何て幸せなことだろう！」と書き出しました。その一番の幸せとは、「そのとがゆるされ、その罪がおおい消される」、つまり、神様から何もとがめられなくて、赦されている、心が清くされたこと、これが一番の幸せだと心から記したのです。

罪を持つ、隠している心は苦しいです、神様を信じてからでも罪を犯してしまうかもしれません。いつでも神様の前に正直に、素直に「ごめんなさい」と告白しておわびしましょう。そのためにイエス様が十字架で死んでくださったのです。信じて告白して、罪の赦しの喜びにあふれよう。  
♪赦すためです(友よ歌おう42)

ワーク A

話し方のヒント

うそをついたり、お父さんやお母さんに隠し事をしてるのは、とてもつらいことです。しかられるのは恐いけれど、正直に謝ることはとても大切です。ダビデも、自分の罪を心からおわびして神様からお赦しをいただいた時の喜びは、どんなに大きかったことでしょう。そして、イエス様が十字架で死んでくださったことによって、私たちの罪が赦されるとは、何と感謝なことでしょう。

ワーク B

罪が赦された時の、ダビデの喜びの顔をかきましよう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 神様はダビデを愛しておられたので、罪を教え、救うためにナタンを遣わされました。ダビデは、ナタンに「あなたがその人です」と言われた時、正直に罪を認めました。  
●質問3 ダビデは神様に「ごめんなさい」と言いました。私たちも神様に、素直に「ごめんなさい」とおわびし、イエス様が自分の罪のために十字架で死んでくださったことを信じて、罪を赦していただきます。

ワーク C

第1問 み言葉を書き入れます。

●第2問 「罪」の意味を三段階で確認します。  
①罪・とが・不義、②的外れ・神への反逆・正義を曲げること、③はローマ1章、ガラテヤ5章から罪のリストを書きます。そして、罪がそのままだと地獄に落ち込むことを、確認します。

●第3問 罪の解決方法をフオローチャートで考えます。結論は「ゆるしてもらうしかない」です。  
●第4問 赦してもらうためには身代わりが必要で、それがイエス様であることを確認します。

●第5問 イエス様の十字架は2千年前にすでに完成し、ただで与えられているので、それを自分のものとしていただくためには、①「信仰」と、②「罪の悔い改め」が必要であることを教えます。

ワーク D

●1は全部に○がつきます。2はダビデの犯した罪について考えます。他人の罪として、客観的に考えてみます。

●後の部分は、自分のこととして、罪について考えます。無理に声に出して告白させる必要はありません。神様が全部ご存じですから、子どもが正直な思いで、心の中で神様に告白すれば十分です。あえて自分の方から声に出して告白したいと願う子どももたまにありますので、その時はその子と一緒に神様の前に出て、執りなす思いで祈ります。

中高科へのヒント

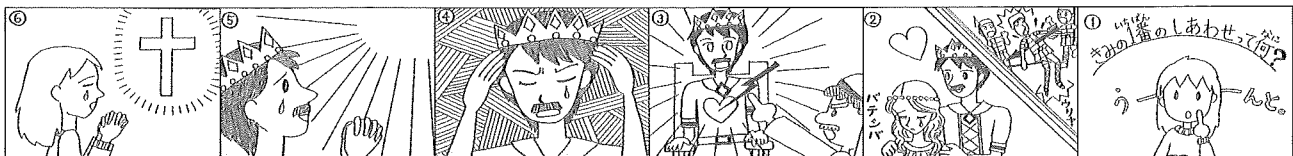
観察してみよう

1 どのような人が「さいわいである」と書かれていますか。(1、2節)  
2 どんな時、心が苦しかったと書かれていますか。(自分の罪を言い表さなかった時/3節)  
3 どうしたら罪が赦されたと書いてありますか。(犯した罪を告白したとき/5節)

考えてみよう

1 ダビデはかんいんと殺人の罪を犯しましたが、これは簡単に赦されるものでしょうか。  
2 ダビデが罪を隠していたとき、どんな心の状態だったでしょうか。  
3 ダビデは預言者ナタンから罪を指摘されたとき、すぐに罪を告白して悔い改めましたが、これについてどう思いますか。  
4 罪を告白して悔い改めたら、なぜどんな罪でも赦されるのでしょうか。(イエス様が十字架にかかって私たちの罪を贖って下さったから)

●自分に当てはめてみよう  
1 ダビデは罪を隠すために別の罪を犯しましたが、これに似たことをしたことはありませんか。  
2 神様に自分の罪を隠しておくことができると思いますか。  
3 神様に向かって罪を認めなかったり、言い訳をしている時、心に安らぎがあるでしょうか。  
4 神様から罪を赦され、帳消しにしていたいたとき、どんな気持ちになりましたか。



## 聖書 ハバクク2・1-5 テーマ 信仰によって

### 序論

(鎌野)

10月31日は宗教改革記念日である。この日についての詳しい説明は研究資料を参照していただきたい。この改革を支えた神学的概念は、先週の学びで少しふれた「信仰義認」であった。ルターは特にこのことを強調し、ハバクク2・4をその論拠とした。確かにこの聖句は重要であり、新約聖書の中でも3度引用されている(ローマ1・17、ガラテヤ3・11、ヘブル10・38)。

ハバククが預言者として活動していたのは、バビデ時代から約400年後の紀元前7世紀で、南王国がバビロニア帝国の脅威にさらされていたところである。このことは、ハバククのメッセージと深く関連していることを見過ごしてはならない。彼が「信仰によって」と言つとき、何を意味していたのか。

### 一、信仰によって訴える

1章を見ていただきたい。彼はまず、南王国の墮落した様子を神に訴えている(1-4節)。それに対して神は、カルデヤ人(バビロニア帝国)によって南王国をさばくと答えられた(5-11節)。彼は驚いて、南王国よりもさらに悪いカルデヤ人によってさばかれることなど、とうてい納得できないと訴えるのである(12-17節)。

ハバククのこの訴えの真剣さに注目したい。彼は、神が正しいさばきを行ってくださることを心から願ひ求めているのである。南王国の暴虐に対

しても、それをさばくと言うカルデヤ人の無情に對しても、彼はノーと言う。神よ、あなたの正義を現してくださいと、彼は必死に求めるのだ。信仰とは、神に訴えることである。神の正義を信頼しているからこそ、訴えることができる。信頼していなければ、このような真剣な叫びはおこらないだろう。この悪い時代に生きる私たちも、神を信頼して、訴えているだろうか。

### 二、信仰によって待つ

だがハバククは訴えただけではなかった。その後には彼は言う。へわたしはわたしの見張所に立ち、彼がわたしになんと語られるかを見よう。彼は主のお答えを待ったのである。そして、確かに主は答えられ、幻は与えられた。だがその実現は、へもしおそれれば待つておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。という但し書き付きであった。信仰は、訴えた後に待つことである。神の答えがすぐに出るとは限らない。いや、多くの場合、かなりの時間がかかる。8月に学んだアブラハムの場合でも、後継ぎが生まれるまで25年間も待った。それでも、主は必ず約束を守ってくださると信頼し、待つところに信仰の本領があるのだ。

待つのが苦手な人が多い。折つたらすぐ答えられないと気がすまない。1ヶ月折つて答えられなかったら、あきらめてしまふ。そうではない。たとい自分の一生涯かっても待つという態度が必要である。主を信頼しているなら、それができる。ハバククへの幻の成就も、その70年後のバビロニア帝国の滅亡まで待たねばならなかった。

ていると言えよう。

### 宗教改革記念日(10月31日)

1517年10月31日、ルターは、免罪符の販売に反対し、ヴィッテンベルクの城教会の扉に「95箇条の提題」を貼付(ちようふ)した。この出来事は、それ以前に信仰義認の信仰に導かれていたルターを改革者として立たせることになり、また、ヨーロッパ中央部全域にわたる宗教改革運動の発端となった。

### テキスト

1 見張所に立ち、物見やぐらに身を置き 神の御声を待ち望む預言者ハバククの姿が比喩的(ひゆてき)に描かれる。私たちが神の御声を待ち望むときには、確かなものを受け取るまで、待ち望む姿勢を持ち続ける必要がある。

わたしの訴え 1・12-17でなされた、神に対するハバククの訴え。イスラエルの罪を裁くために神が用いられるというカルデヤびと(バビロン)は(1・1-11)、イスラエルより更に罪深い民であつて(1・11)、このようなことは聖なる神様の御性質にそぐわないのではないかと訴え。

2 この幻 4節以降、特に6-8節で預言されるバビロニア帝国滅亡の幻。

板の上に明らかにし、走りながらも、これを読みうるようにせよ あいまいな約束ではなく、明確に書き記して残されるべき確かな約束。

3 この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる 幻の実現のためには、定められた時があることを示唆する。それは、確かに定

### 三、信仰によって生きる

主は、へこの幻を書き、これを板の上に明らかにし、へなさいと命じられた。へこの幻とは5節以降のことであり、特に8節に暗示されているバビロニアの滅びであろう。たといすぐにではなくても、へ魂の正しくない者(カルデヤ人)は衰える。しかし、それと対照的に、へ義人はその信仰によって生きる。これは正確にはどのような意味なのだろうか。

このへ信仰というへブル語は「アーメン」の親戚の語で、旧約聖書ではこの所のみ「信仰」と訳されており、他の箇所では「真実」と訳されている(詩篇119・86、138)。すなわち、義人とは行動が立派な人のことではなく、神に対して真実な人の意味するのである。不正がはびこる現状を見て、真実な神に真実に訴え、たとい神の答えが遅くても、真実な態度で待ち望む。そういう生き方が「信仰によって生きる」ということであろう。

パウロは、不義な者を義と認めてくださる神を信じた。行いがなくても、この神に真実に信頼することによって救われることを主張した。そして、ルターも彼と同じ信仰に立ったのである。

### 結論

不正は、現代の社会にもまん延している。しかし、神は手をこまねいて見ておられるのではない。必ず正しいさばきをなされる。その日が来ることを私たちは待ち望もう。不義な自分が義とされた恵みを感じ、周囲の不義な人々にも、この恵みを伝えよう。それこそ真実な生き方である。

## 研究資料

(長田)

### 信仰による生涯

信仰者の歩みは、信仰によって始まり、信仰によって継続され、完成される。

信仰とは、生ける神と救い主キリスト、またそのみ言葉に対する信頼であり、知的に受け入れるのみならず、全人格的な信頼を置くことへの意志の決断である。私たちは、信仰によって神との生きた交わりの中に導かれるのみならず、信仰によってその生涯が保たれ、完成される。

「義人は信仰によって生きる」(4節)とのみ言葉は、新約聖書に3回引用される(ローマ1・17、ガラテヤ3・11、ヘブル10・38)。ローマ、ガラテヤでは、特に、信仰義認の教えとの関わりで、ヘブルでは、信仰者の忍耐との関わりでの引用である。信仰者の歩みは、まず信仰によって始められる。私たちの罪が赦され、神の御前に義と認められることは、決して私たちの行いによるのではない。キリストの贖いのゆえに、ただ神の一方的な恵みにより、信仰によるのである(ローマ3・23-28、ガラテヤ2・15、16、エペソ2・8、9)。

次に、信仰によって始まったクリスチャン生涯は、信仰によって継続され、完成される(ヘブル10・35-39、12・2)。時に信仰が試され、揺さぶられるような現実遭遇するが、その中でも信仰を持ち続けることにより、その信仰はより練られ、純粋なものとなっていく(1ペテロ1・7)。ハバク書においては、特に信仰のこの一面が表に出

められたことであるので、時間の流れと共に、確実にその実現に向かって近づいていく。

もしおそれれば待つておれ。それは必ず臨む。滞りはしない 人間の目にはたとえ遅く思われ、その幻が実現することはないかのように見えたとしても、それは必ず臨むことであつて、歴史の経過と共にその実現に向かって確実に近づいていく。神からの幻の実現は、忍耐強く待ち続けられるべきものであり、その忍耐と信仰は必ず報いられるのである。

4 見よ、その魂の正しくない者 このところから、バビロン滅亡の幻が描かれる。

義人はその信仰によって生きる ここでの義人は、罪深いカルデヤびとと対照されている。彼らは、神への信仰によって歩むことを知らないが、神の前に正しい者というのは、信仰によって生まれ、信仰によって生きている者たちである。そのように語りつつ、神はハバクク自身に、なお信仰を持つて歩み続けることへと招かれる。目に見える現実によって心が揺れる生き方から、目に見えないお方を信頼し、信仰によって生きる堅固な生き方への転換である(ヨハネ20・29、ヘブル11・1)。

5 酒：高ぶる者：彼の欲 カルデヤびとの放とう、高慢、欲深さが指摘される。万国をおのれに集め、万民をおのれのものとしてつとめせる カルデヤびとの際限のない侵略行為の指摘。この節に描き出されたすべての罪に対して、神の裁きが必ず与えられることが、6-8節において明らかにされる。

聖書 ハバクク2・1～5  
タイトル 信じるだけで

暗唱聖句 義人はその信仰によって生きる。

目 標 信仰によってのみ人は神の前に義とされる。  
ハバクク2・4

#### 導入

(小野)

スポーツの秋と言いましたが、オリンピックに登場する聖火ランナー、感動しますよね！もしかして、夏のキャンプファイヤーでも聖火ランナーになった6年生のお友だちもいるかしら？聖火リレーのように、「信仰の聖火リレー」がずっと今も続いているのです。へえ、いつから？さかのぼれば8月に学んだアブラハムさんから。そして、今日のハバククへ。それから新約聖書に入るとパウロへ。そして、今日の宗教改革記念日の主役、マルチン・ルターへと受け継がれたのです！さらに、もちろん、今に生きる私たちにもですよ。さあ、しっかりとこの「信仰の聖火」のバトンを受け、続く人たちに間違いなくバトンをタッチしていきましょう。では、その「信仰の聖火」とは？

#### 義なる神の前に

預言者ハバククは訴えました。「神様、あなたの民、ユダの人々は、恐ろしいほど悪にまみれています。何とかされないのですか？」神様は、「カルデヤ人によりさばこう」と言われます。「えっ！

そんな、神様を知らない、ユダよりもっと悪い人々によってですか？」義なる神に訴えるハバククに、私を信じて待ちなさいと神様は言われます。

義なる私の前に生きる道は、ただ信仰だけだよ。ハバククは言われたように、神様をただ信じることにしたのです。その聖火のような言葉は、新約聖書の中に3回も紹介されています。赤々と燃えるたいまつのように輝いているのです。そして、その輝き、その聖火のあかりに照らされて立ち上がったのが、マルチン・ルターでした。

#### 信じるだけで

ルターはドイツの鉱山町アイスレーベンの、貧しい鉱夫の息子として1483年に生まれました。学資を稼ぐために、他人の家の戸口で次々と美しい声で歌っては、お金をもらったりしました。アイゼナッハの親切な婦人に、その美しい声が認められて、婦人のもとに引き取られて4年後、学校を卒業することができました。さらに、法学の学びのために、教会付属のエルフルト大学に入ってしまった。将来はその大学で教える約束もするほどでした。ところが大学在学中に、2度も死の恐怖に出会いました。1度目は1503年4月16日、イースターの3日後のことでしたが、畑に水を引く溝を飛び越えようとして、思いがけずも飛び越えられず、落ちてしまったのです。両親のいるマンズフェルトへエルフルトから行こうと、ほんの1キロほど友人と歩いたところでした。溝の水は少なかつたのですが、学士の制服の一部だった短剣が飛び出して、足のもとに突き刺さりました。ズ

ボンに血にまみれました。友人が医者を呼んでくれてやっとなおりましたが、その間、死の恐怖でいっぱいでした。2度目は友人アレクシスと森を歩いていたら、突然の稲妻、そして、激しい雨の中、マルチン！と叫んだアレクシスの上に雷が落ち、彼は無惨な姿で死んでいったのです。その時、ルターは神の声にうなずいて、ハイ、神様、あなたの御心に従い、生涯、修道士となって人々にお仕えします、と決心しました。大学を中退して、アウグスチヌス修道院に入りました。そこで大きな疑問がわきました。天国に入るために買う免罪符、ローマの階段を四つんばいになって、主の祈りを唱えては1段、また唱えては1段のぼる。深い罪の意識をぬぐい切れなかったルターは、「こんなことで私たち人間の魂が救われるだろうか？」と思いました。ところが、ルターは、ローマのピラトの階段の前に立った時、突然、雷の響きと共に、「信仰による義人は生きる」という言葉を聞きました。さらに、ウィッテンベルグ城教会の塔の中で、ローマ人への手紙1章17節の学びで、人はただ信じるだけで神の前に義とされて生きるのだ！と確信して、城教会の扉に95の文章をラテン語で書いて張り出したのです。1517年10月31日のことでした。

『信じるだけで』、イエス様の十字架は、私の身代わり、ありがとございますと『信じるだけで』神様は私の罪を赦し、正しい者としてくださいます。信じることは、誰にでもできる最大の事です。何という神様の愛のご計画でしょうか？♪救いの汽車(MEBIG・メビック)

#### ワーク A

##### 話し方のヒント

聖書の中に出てくるハバククも、聖書を熱心に読んでお祈りしたルターという人も、神様を信じる人はみんな、信じることの大切さを神様ご自身から教えられました。お友だちに親切にしてあげることなど、良い行いをするのはとても大切なことです。私たちにはできないこともたくさんあります。神様に罪を赦され、義人(正しい者)としていただくことも、自分ではできません。ただ、イエス様の十字架を信じていきましょう。

ワークについて  
十字架のバッジを作りましょう。

#### ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 小さな子どもでも「目に見えないから、神様なんか信じない」と言うのを耳にします。信仰こそ神様が喜ばれることです(ヘブル11・6)。不信仰の罪(黙示録21・8)を教え、信じる者の幸い(ヨハネ20・29)を教えましょう。  
●質問3 信じるべき最も大切なことは、イエス・キリストによる救いです。「ただ信仰による」ことをしっかりと教えましょう(ローマ3・5章)。

#### ワーク C

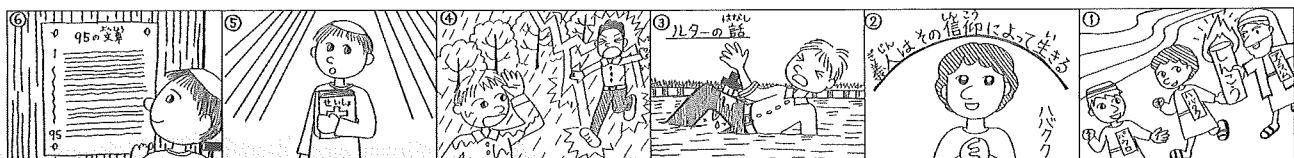
●8月8日に引き続き、大切な「信仰義認」の読み方、意味を確認し、漢字を覚えてしまいましう。四字のマスに合計5回書きまします。  
●信仰義認の反対は「行いの義」(律法による義)です。それは、このような比較、失望落胆、優越感、劣等感にはつきり出てきます。行いで義となろうとしている自分を自覚させます。  
●紀元前のアブラハムやハバククから現代の私たちまで、聖書の一貫した救いの基準は「信仰」であることを確認し、一つ一つ聖書を開いて書き込み、み言葉から「信仰義認」を確認します。長い部分は全部書かないで、重要部分を選んでください。さらにO先生の所では、「神を信じる」ことの自身が、今の新約の時代(恵みの時、救いの日)においては「キリストの十字架の死と復活を信じること」だという具体的な意味を確認します。

#### ワーク D

●律法による義を追い求めているでしょうか？それとも信仰による義でしょうか？「律法が遺伝子に組み込まれているのではないだろうか？」と思う程、律法の奴隷になっている自分を発見するのは、私だけでしょか？耳にたこができるほど信仰義認について聞いてはいるが、生き方や考え方、とらえ方となると、どうも律法に囚われていることを感じないでしょうか？とすると、子どもたちまで信仰義認ではなく、律法を守るように努力させたり、そうでなければ罰を加えたり、導き方そのものが律法義認になってしまっています。  
●今日は宗教改革記念日です。私たちにとてもその記念の日として子どもたちの前に立ちたいと思うのですが、いかがでしょうか？

#### 中高校へのヒント

- 観察してみよう
- 1 祈りの答えが「遅ければ」どうしなさいと書かれていますか。(なお待つように／3節)
  - 2 なお待ち続ける人に神様はどんな報いを用意しておられますか。(必ず実現される／3節)
  - 3 「魂の正しくない者」と対比されているのはどんな人ですか。(義人／4節)
- 考えてみよう
- 1 「義人」とはどういう人のことでしょうか。(神様から義と認められた人、過去の罪をいっさい帳消しにされた人)
  - 2 どうすれば「義人」になることができるのでしょうか。(信仰、つまりイエス様を罪からの救い主として信じることによって)
  - 3 なぜイエス様を信じるだけで義人になることができるのでしょうか。(イエス様が私たちの罪を背負って十字架にかかって下さったから)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたは義人とされていますか。(自分が不完全であっても、神様からは信仰によって義人とされていることを確認して欲しい)
  - 2 祈りの答えは「遅ければ待て」と書かれています。このみ言葉に従って祈り続けてはどうでしょうか。
  - 3 「信仰によって生きる」ということは、見えない神様に信頼して生きるといことです。あなたはそういう生き方をしているでしょうか。



# 聖書 詩篇119・97〜112

## テーマ み言葉の光

### 序論

(金井)

8月から10月まで信仰に生きた人々の姿を旧約聖書から学んできた。彼らが生きた状況はそれぞれ異なっているが、神のみ言葉を聞いて、それに応答したという点においては皆、共通している。神を信じるとは具体的には、神のみ言葉に信頼して、従っていくことに他ならない。先週10月31日は宗教改革記念日であったが、ルターの偉大な働き、土台となり、原動力となったのは、神が彼にお示しになった聖書の真理であった。本日はみ言葉に導かれる生活について学ぼう。

### 一、み言葉の味わい

本日のテキストとしている詩篇第119篇は、み言葉の賛歌として知られる。これは詩篇の中で最長の詩であり、聖書の中で最長の章である。ヘブル語聖書ではこの詩は、同じ文字で始まる行が8つずつ続いており、その文字はヘブル語のアルファベット22文字が順番に用いられている(97〜104節はメム、105〜112節はヌンからつづられる)。このような高度な技巧を用いていることから、この詩の作者は相当な知識人であったと推察される。

この詩人は神のみ言葉を愛している(97)。彼は早朝からみ言葉を待ち望み、深く黙想する(147、148)。彼は一日に7回主を賛美しており(164)、一日中み言葉に親しんでいる(97)。それは彼が、み言葉の味わいを知っており、主の恵みを賛美せず

にはおれないからである。彼は主をたたえる、あなたのみ言葉はいかにわがあとに甘いことでしょう。蜜にまさってわが口に甘いのです(103)。

昔、イスラエルの民が40年間シナイの荒野で生活した時、主は天からパンを降らせて彼らを養われた。マナと呼ばれたそのパンの味は「蜜を入れたせんべいのようなであった」(出エジプト16:31)。そのパンは保存できず、朝ごとに集めなければならなかった。私たちが養う霊の糧であるみ言葉も、毎朝いただくかなければならない(マタイ6:11)。人は神のみ言葉によって生きるものだからである(同4:4)。

### 二、み言葉の光

かつてこの詩人は、敬虔な生活から離れていた時があった。しかし、苦しみにあつたことによつて彼はへりくだらされ、律法を忠実に学ぶようになった(67)。彼は述懐する、「苦しみにあつたことは、わたしに良い事です。これによつてわたしはあなたのおきてを学ぶことができました」(71)。彼の苦難はその後も続いた。彼は多くの敵によつてそしられ、あざむかれ、わなを仕掛けられて、命に関わる危険にさらされている(22、23、28、51、69、70、78、84、87、107、109、110、118、121、122、126、134、141、143、150、157、161)。しかし、そのような暗闇の中を歩む時にも、神はみ言葉の光を照らして、彼を安全な道に導いておられる。彼は告白する、あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です(105)。主は苦難の時をも恵みの機会としてくださる。生活のただ中で聖書の

み言葉を受け取りたい。

聖書は不思議な書物である。学者にわからない真理が幼い子どもにわかる。「み言葉が開けると光を放つて、無学な者に知恵を与えます」(130)。聖霊のお導きによつて、み言葉の奥義を悟りたい。

### 三、み言葉の実践

最後に、この詩人の優れているところとして、彼がみ言葉の実践を心がけている点に注目しよう。彼は言う、あなたにはあなたの正しいおきてを守ることを誓い、かつこれを実行しました(106)。学びは大切だが、実践に結びつかなくては意味が無い。聖書は勧告する、「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となつてはいけません」(ヤコブ1:22)。行いの伴わない信仰は死んだものである(同2:17、26)。

聞くことは容易だが、行うことは難しい。み言葉に従うためには「自分のからだを打ちたたいて服従させる」かなりの努力が必要である(1コリント9:27)。詩人は言う、あなたにはあなたの定めを限りまで、とこしえに守ろうと心を傾けます(112)。私たちもみ言葉の実践に力を尽くしたい。

### 結論

聖書の読み方には通読や精読などいろいろあるが、み言葉を深く味わう(黙想する)味読の時も大切にしたい。心に深く刻まれたみ言葉は、暗黒の日々にあつて光を放ち、私たちを導く。み言葉には人を生かす力がある。日々、聖書のみ言葉に養われて、どこまでも神のみ心に従う者となろう。

### 研究資料

(長田)

#### み言葉による歩み

「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言で生きるものである」(マタイ4:4)。神の子たちは、神のみ言葉によつて導かれ、養われるものであつて、み言葉なしには、その命を保つことさえ出来ない。

み言葉の働きは多様であつて、み言葉は様々な比喩(ひゆ)をもつて表現されている。パン(マタイ4:4)、乳(1ペテロ2:2)、種(マルコ4:14、1ペテロ1:23)、剣(エペソ6:17、ヘブル4:12)などであるが、詩篇119篇においても、蜜(みつ)に比べられ(103)、また、光にたとえられている(105)。すなわち、信仰者がみ言葉を味わうときには、蜜のような甘さが伴う。また、み言葉は、私たちの人生において、暗がりの中を行くときに、足もとを照らす灯火のような役割を果たす。聖書の言葉を、神の言葉として(IIテモテ3:16)、また日々の糧として(マタイ4:4)、聖霊の助けをいただきながら読み(1コリント2:10、11)、信仰をもつて受け入れ(ヘブル4:2)、語られたところに従つて生きるなら(ヤコブ1:27)、それらのみ言葉が私たちの魂を救い(IIテモテ3:15)、成長させ、神の人として整えるのである(IIテモテ3:16、17)。

#### テキスト

97 いかにわたしはあなたのおきてを愛することでしょう 神のおきてが知恵を与え(98、100、104)、

正しい道に導くものであることを経験しているの  
で、それらを愛さずにはおれない。

ひねもすこれを深く思います み言葉を通り一遍  
に読むのでなく、深く思いをめぐらすことによつ  
て大きな益を得る。

98 あなたの戒めは常にわたしと共にあるので  
み言葉を読むのみならず、魂に蓄えておくことが  
力となる(コロサイ3:16、ヤコブ1:21)。

わが敵にまさつて賢くします この節から100節ま  
でにわたり、み言葉による知恵がいかに深く有益  
なものであるかが主張される。み言葉を蓄え(98)、  
深く思いめぐらし(99)、教えられたところに従つ  
て歩んでいるので(100)、「敵」(98)、「師」(99)、「老  
いた者」(100)にまさつて「賢く」(98)、「知恵があ  
り」(99)、「事をわきまえ」(100)ているのである。

101 み言葉を守るために、わが足をとどめて、す  
べての悪い道に行かせません み言葉を守ること  
は、悪い道に対して「わが足をとどめる」ことを  
要求する。み言葉を守ることが常に正しい選択で  
あることを知っているの、喜んでその要求に従  
うのである。

102 あなたがわたしを教えられたので、わたしは  
あなたのおきてを離れません み言葉による知恵  
を愛するゆえに、み言葉から離れることは思いも  
よらない。

103 あなたのみ言葉はいかにわがあとに甘いこと  
でしょう。蜜にまさつてわが口に甘いのです み  
言葉は魂の糧であつて、日々食すべきものである  
が(マタイ4:4)、その糧は、単に命の維持のた

め必要なばかりか、魂にとつて甘いのである。

105 あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道  
の光です 神のみ言葉は、私たちが人生において  
誤りなく正しい道に歩むための光となる。「わが足  
のともしび」とは、すぐ足もとを照らしてくれる  
光であつて、特に、今、神の前にいかにあるべき  
かを教えるものであることを示唆する。

106 わたしはあなたの正しいおきてを守ることを  
誓い、かつこれを実行しました み言葉が真に益  
となるための秘訣は、これを実行すること。

107 わたしはいたく苦しみました 109、110節と共  
に、苦しみ、危険、敵のわながあることを認めつ  
つ、なお約束のみ言葉に立ち、み言葉の戒めから  
離れないことを告白している。苦しみの中にある  
時こそ、み言葉に明確に立つべきである。

108 あなたのおきてを教えてください み言葉か  
ら教えられようとする姿勢を持続することが、  
霊的命を新鮮に保つ秘訣である。

111 あなたのあかしはとこしえにわが嗣業です。  
まことに、そのあかしはわが心の喜びです み言  
葉は、神から頂いた財産、決して失われない永遠  
の財産であり、この財産をいただいたことを何に  
も勝る喜びとしている。

112 わたしはあなたの定めを限りまで、とこしえ  
に守ろうと心を傾けます み言葉の有効性は、人  
生のある時期に限られたものでなく、生涯の終り、  
否、永遠に至るまでのものである。そのことを覚  
えて、生涯、み言葉を守ることに専心しようとす  
る決意が示される。

聖書 詩篇119・97・112  
タイトル み言葉の光によって歩もう  
中心聖句 あなたの言葉はわが足のともし  
び、わが道の光です。詩篇119・105  
目標 聖書の言葉によって信仰の道を歩む。

導入

(水野)

8月から信仰に生きた人について学んできました。どんな人を覚えていますか?「アブラハムさん、イサクさん、ルターさん」、たくさんの方の信仰の先輩がいて、うれしいですね。みんな、それぞれにいろいろなことがありましたが、神様の言葉に信頼して、歩み抜きました。

私たちも信仰の先輩に倣って、聖書の言葉に従って歩みたいですね。どうしたらよいでしょうか。

み言葉の糧

私たちの体は、バランスのよい3度の食事によって成長します。好き嫌い無く、よくかんで食べると、元氣もあり大きくなります。

昔、イスラエルの人々がエジプトを出て、砂漠のような荒野で生活したとき、神様はマナという、はちみつ入りのせんべいのような食べ物を降らせてくださいました。毎朝、自分の食べる分だけ集めました。余分に集めても腐ってしまうので、朝毎に集めなければなりません。このマナで養われて、40年の旅が続けられました。

私たちの糧は、聖書の言葉です。聖書も

毎日読んで、よく味わい、み言葉を暗唱して心に留め、従うことによって、心が強められ成長していきます。み言葉の糧が無くては信仰の道を歩むことはできません。

み言葉の光

イスラエルの民は荒野の旅において、昼は雲の柱、夜は火の柱が道を照らして導いてくれました。神様ご自身が民を導かれたのです。

私たちの人生においても、正しい生き方に導いてくれる光が必要です。神様から離れて間違った暗やみの道に迷い込んだときに、聖書の言葉が光を放って、神様のもとに立ち返る道を示してくれます。み言葉は苦しいときに励まし、悲しいときには慰めてくれます。心が弱いときに、勇気と力を与えてくれます。これから先、どうしたらいいのかわからない出来事に会っても、聖書を開いて祈るとき、「これが道だ、これに歩め」と示してくれます。カーナビは目的地を入力すると細かく指示を出し、それに従うと必ず目的地に着くことができます。それが導くべき道です。聖書の言葉は、私たちを天国に導くナビゲーターでもあります。何が正しいのか、何が神様に喜ばれるのかを知らせ、そのみ言葉に従って御国を目指して進んでいくことができます。

例話

のぞみちゃん、クラスのお友だちからいじめにあいました。とても仲良しだったお友だちが、ある日、無視するようになりました。そうかと思えば、今度はわざといじわるな言葉で攻撃してきました。お友だち同士でのぞみちゃんの悪口を言

うのがわかり、とっても悲しくなり、学校に行くのもつらくなりました。お母さんに話を聞いて、毎日聖書を読み、祈ってもらいました。み言葉はのぞみちゃんを勇気づけました。「無視されても、挨拶しよう」と心に決めて、いつもと変わりのように接していききました。くじけそうになりながらもみ言葉を読み、祈りつつ、何日も過ごしていくうちに、いじめてくるお友だちから「こんなにされてもすごいね。挨拶してくれてありがとう」と歩み寄ってきたそうです。み言葉に励まされて、どんなときにもイエス様と一緒に歩むことを学びました。

まとめ

ごはんを毎日食べるように、み言葉も毎日いただきます。礼拝で開いた聖書の言葉を中心にして、毎日の聖書日課がすてきな本のようになって皆さんに届けられています。このみ言葉を読んで覚えましょう。今が一番、暗唱できる年齢です。み言葉を覚えておくと、助けが必要な時に力が与えられます。将来への光が与えられます。

ある教会では、月に2回ウィークデーに集まって子ども祈り会を開き、聖書を学び、み言葉を暗唱しています。祈りのカードを作って祈りあい、祈りの答えも書いて感謝をささげています。すばらしいですね。喜んで聖書を読みましょう。

毎日、聖書よみ、聖書よみ、聖書よみ  
毎日、聖書よみ、いのれーば、  
育ーっていく、育ーっていく  
毎日、聖書よみ、いのれーば  
(ふくいんこどもさんびか41の替え歌)

ワーク A

11月7日・28日の聖句 マルコ10・16

話し方のヒント

暗い夜道を歩くのは恐いですね。でも、月が明るく輝いていたら、安心して道を進むことができます。聖書に書かれている神様の言葉は、私たちが暗い道を歩く時に、足下を照らしてくれる光のようです。私たちが、神様に喜ばれる正しい道を進んでいくことができるように、いつも聖書を読んで、私たちの心を照らしていただきましょう。

ワークについて

ばらばらになっている絵と文字を並べかえて、きょうのみ言葉を完成しましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 自分の経験などを話して、聖書の言葉のすばらしさを教えましょう。子どもはさまざまな戦いの中にあります。み言葉が生きる支えになります。

●質問3 み言葉を毎日読むように、励ましましょう。これが主と共に生きることです。み言葉暗唱も、生徒が励むことができるよう工夫してあげましょう(詩篇1・2・3)。そして、従うことの大切さを教えましょう(マタイ7・24)。

ワーク C

●第2問 (1)「街灯」「月明かり」「自動車のヘッドライト」「自転車のライト」「懐中電灯」「ちようちん」など。(2)つまずく、歩けない…など。

●第3問 ①励まし、②慰め、③勇気、④神共に

●第4問 カーナビ(カー・ナビゲーション・システム、自動車の道案内装置)を例にして、現在地から目的地まで無事に安全に行き着くことをイメージします。私たち人間の最終的な目的地は「天の御国」であり、自分はこの数十年前の生涯を御国めざして歩むんだということを確認します。そして、そのために必要な道案内が「み言葉」であり、その「み言葉」をいただく方法を考えます。

ワーク D

●先週のワークを通して、宗教改革した私たちは信仰義認に立ちました。その私たちに無くてならないのは、聖書の言葉です。1では生活や成長のために無くてならないものを考えます。3では登山やハイキングに必要なものを考えます。そうするうちに、聖書の言葉は私たちにとって何なのかを知ることができますように。

●信仰義認は信仰の世界、聖書の世界が断言しているものですが、世の流れは正反対です。その中で生きる私たちはみ言葉の励まし、光、導き、地図、道標がなければ進みません。子どもたちがみ言葉に親しんで歩めますように。

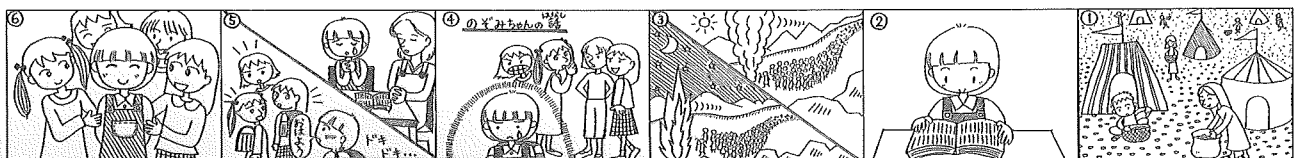
中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 「おきて、戒め、あかし、さとし、定め」とは何のことでしょうか。(み言葉のこと)
- 2 「み言葉」は何回出てきますか。(4回)
- 3 み言葉を守るとどんな祝福があると書いてあるでしょうか。(知恵が与えられ、正しく生きることができるよう。98・101節)
- 4 105、111節では、み言葉は何であると書かれていますか。

考えてみよう

- 1 103節に「あなたのみ言葉は…わが口に甘い」とありますが、どういうことでしょうか。(み言葉によって生きる喜びがわいてくる)
- 2 105節に「み言葉はわが足のともしび」とありますが、どういう意味だと思いますか。(正しい生き方を導くもの)
- 3 111節に「あなたのおかしは…わが嗣業です」とありますが、どういうことでしょうか。(生きてゆく上で一番大切なもの)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたにとって「み言葉はわが足のともしび」となっているでしょうか。
- 2 この箇所では、み言葉がなくてはならないもの、心を喜ばすものだと言及されていますが、あなたはでしょうか。
- 3 この箇所のように、み言葉が普段の生活の中で生きているでしょうか。



聖書 マルコ10・13～16  
テーマ キリストの招き(子どもの日)

## 序論

(金井)

日本では古くから、子どもの成長を祈る行事が11月に行われてきた。今日の七五三である。その趣旨は良いものであり、キリスト教会でも11月第2主日を子どもの日として、特別に子どもたちのために祝福を祈っている。本日は、イエス・キリストの子どもたちに対する愛について学びたい。

## 一、キリストの怒り

主イエスはエルサレムでの受難の前に、ヨルダン川東岸のペレア地方で宣教をなされた(マタイ19・1)。紀元30年の冬のことである。その地でイエスがさわっていたために、人々が幼な子らをもとに連れてきた。

主はそれまでに何度も、御手を触れて人々の病をいやされた(マルコ1・31、41～42、7・33～35、8・22～25)。主の衣服に触れただけでいやされた人もいる(同5・27～29、6・56)。そのため、主イエスが行かれる先々で、多くの病人が主に触れようと押し寄せた(同3・10、6・54～55)。

古代社会では医療や保健衛生、栄養状態が十分でないために人々の寿命は短かった。△幼な子△というのは乳幼児から12歳までを指すが、当時は6歳までに3割、16歳までに6割の人が死んだという。だから、病める子どもを持つ親は、必死でその子をイエスのみもとに連れてきた。さらに、子どもが健康であつても、イエスに手を置いて祝

福していただきたいと願い、人々は子どもを連れてきたのである。

△ところが、弟子たちは彼らをたしなめた。

ルカによる福音書18章15節を見ると、そこには乳飲み子までいた(新共同訳参照)。子どもたちが泣き騒ぎ、思い通りにならないので、弟子たちには煩わしかったのだろう。先生のお邪魔になつてはいけなないと、配慮したのかもしれない。しかし、△それを見てイエスは憤られた。△憤り△と訳されている語は激しい怒りを意味しており、イエスに関して使われているのは福音書でこの場面だけである。私たちは、子どもが主に近づくのを決して△止めてはならない△のである。

## 二、キリストの招き

当時のユダヤ社会では、律法が非常に重要視されていた。そのため、律法について十分な知識を持ち得ない子どもは、神に対して何らの功績も持つておらず、無価値な存在であると見なされていた。男児は聖書の律法と口伝律法・解釈を学んでいたが、彼らは13歳で成人した後、学んだことを実践するようになってから、初めてその人格が認められたのである。成人前の男児は奴隷と同等の扱いを受けていた(ガラテヤ4・1～7)。

しかし、主イエスの子どもたちに対する態度は全く違っていた。イエスは言われた、△幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。子どもの自由な意志を尊重し、彼らを解放すべきだと主は言われたのである。さらにイエスは△神の国はこのような者の国である△と言われた。主を

慕い求める子どもを、主は愛し、受け入れなされる。神の国は恵みと愛が支配する世界である。

## 三、キリストの愛

続けてイエスは言われた、△よく聞いておくがよい。だれでも幼な子のように神の国を受け入れる者でなければ、そこにはいることは決してできない。子どもは主の交わりにふさわしくないと弟子たちは思っていた。しかし、主の目には大人も無知で無力な罪人に過ぎない。誇り高くガードを固める大人よりもむしろ、何も持たずにそのままもとへ走り寄る子どもを、主は愛される。

イエスは子どもたちを△抱き、手をその上において祝福された。主イエスの温かい腕の中で、彼らは神の愛を体感したのである。主イエスは弟子たる者に、師にならうことを要求される。この世には人と人を引き離す隔ての壁が多く存在する。キリストがこの世に来られたのは、これらを打ち壊すためである(エペソ2・14)。私たちは主イエスのように隔ての壁を壊しているだろうか。それとも弟子たちのように壁を作っているのだろうか。

## 結論

私たちは、主イエスが愛されたように子どもを愛しているだろうか。子どもを守るために本気で怒っているだろうか。子どもを温かい腕で抱きしめているだろうか。子どもの心の声を聴いているだろうか。あるいは大人が子どもを教会から遠ざけてはいないだろうか。キリストは子どもたちをみもとに招いておられる。主の愛に動かされて、子どもたちを真実に愛する者とさせていたであらう。

## 研究資料

(足立)

本福音書において、子どもを用いてイエスが語った主要な教えが2つある(9・33～37、10・13～16)。9・33～37では、真に偉大な弟子とはすべての人の僕となる人だとイエスは教えている。10・13～16においては、**幼子のように受け入れる**姿勢に、信仰の大切なポイントがあることを示しているように伺える。

## テキスト

13 まず弟子たちの無理解が記されている。今昔問わず、親は子どもの将来に対して祝福を願う。イエスの時代の人々も、霊的な權威を持つ教師が現れたと知るとそこに子どもを連れて行った。イエスに祈りを求める素朴な思いで近寄つたのである。ところが、イエスの弟子たちは彼らをしかつた。既に9・36～37で、幼子を受け入れることと仕えることの結びつきを、イエスから教えられていた弟子たちではあつたが、実際に親が子どもたちを続々と連れてくると拒んでしまった。ここには弟子たちが子どもたち及びその親をしかつた理由は記されていない。弟子たちはイエスの忙しさを感じていて、配慮のゆえに子どもたちを退けようとしたのかもしれない。

14 憤って(アガナクテオー)ということばが、イエスに関して使われているのはここだけである(参照10・41、14・4)。冷静なイエスが憤りをもたれた。ここで弟子たちは自分たちの席次争いをしていただけではなく、倫理的に大きな間違いを

犯したのではない。ただイエスのところに連れてこられた子どもたちを追い返そうとしただけ。當時子どもは社会的に弱い存在そのものであり、人格的な扱いはされていなかった。弟子たちの意識の中にも計画性や故意によるものはなかったであらう。

イエスは、幼子たちの存在を大切にしつつ、**神の国はこのような者の国である**と言われた。神の国とはイエスのメッセージの中心をなし、目に見える領土とか領域ではなく、神のご支配、神の主権的行為を意味する。何よりもイエスご自身が神の国のあらわれそのものであつた(参照1・14～15)。イエスは、神の国は子どものものだとは言っていない。子どもも神の前にはれつきとした罪人であり、いじめはあるし、自己中心性は大人と変わらない。イエスが神の国と子どもを結びつけられたのは、賜物としての恵みを強調しているのであらう。

15 ここで、**幼な子**(パイディオン)は単数である。14節では、**幼な子ら**(パイディア)と複数になつていて、16節でも**彼ら**(アウタ)と複数形で記されている。イエスはここで、一人の幼子のようにと言うニュアンスを含めているのである。つまり個人としての立場が主張されていることになる。したがって一人神の前に立つことが問われている。「赤信号みんなで渡れば怖くない」という発想は通用しない。ひとりびとりが神の前に問われるところに人間の尊厳がある。

また幼子のようにとは、子どものように依存する、より頼むと言うことであらう。大人は自分というものにどこまでも執着しやすい。自分のブラ

イド、力量、財産、社会的立場、年齢など、自分の人生をあたかも自らの力で歩んできたかのように思いやすい。しかし、子どもは誇るもの、主張すべき手柄がない。したがって何かに依存する。また、子どもは**受けいれる**心を持っている。これは賜物として与えられる、贈り物として受け取るという意味である。ここでは獲得するとか、自らの頑張りで手に入れるという発想はいっさい排除される。イエスは、神の国に入るためには、人の努力ではなく、賜物として受け入れることを強調している。この点に関して、イエスとニコデモとの会話が実例となる(ヨハネ3章)。ニコデモは「ユダヤ人の指導者」(3・1)という社会的地位と、「イスラエルの教師」(3・10)という神学教授の資格を兼ね備えた、まれに見る人物であつた。しかし、イエスは彼に対して「新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」(3・3)、

「水と霊とから生れなければ、神の国にはいることはできない」(3・5)と宣言された。神の国には、人の資格や力量では入国不可能。ただ幼子のように一人の弱い存在として、「悔い改めて福音を信じ」る(マルコ1・15)ことによつてのみ入国可能なのである。

16 このイエスの子どもたちへの行為は、当時の社会的感覚としては驚くべきことであらう。神の国の祝福はイエスご自身によつて自由に与えられるものであることを、主は例証された。

参考図書 Gundry,R.H,Mark,(Eerdmans).  
Lane,W.L,The Gospel of Mark,(Eerdmans)

聖書 マルコ10・13～16  
タイトル イエス様のもとに行こう  
中心聖句 幼な子らをわたしの所に来るまま  
にしておきなさい。マルコ10・14  
目標 幼な子を招かれるキリストのもと  
に共に進み出よう。

## 導入

(水野)

日本の国も昔は、家が貧しくて十分な栄養を取ることができず、お医者さんや薬も少なかったので、生まれた赤ちゃんが、成長できずに死ぬことも多くありました。そこで男の子は3才と5才、女の子は3才と7才の11月15日に神社に行き、成長を祝う行事が行われるようになりました。

聖書には2千年も前に、お父さん、お母さんが子どもたちをイエス様のもとに連れて行って、特別に祈っていただいたことが書かれています。今日、私たちもイエス様のもとに行き、祝福していただきます。

## 子どもをとどめた弟子たち

イエス様のもとには、いつもたくさんの人たちが押し寄せて来ていました。大人も子どももみんなイエス様が大好きでした。イエス様のお話を聞きたいと思って、遠くからわざわざやってきた人や、病人、目の見えない人、歩けない人など、イエス様になら治していただけたと思って、連れられて来ていました。お父さんやお母さんも子どもたちが元気に成長するよう、祈ってもらいに来ま

した。イエス様は、1度だって「うるさいなあ」とか、「忙しい、疲れた」なんて言われませんでした。だから子どもたちも、大喜びでイエス様のそばに近づこうとしました。しかし、その時「だめ、子どもはきちゃダメ」とイエス様のお弟子さんたちは、通せんぼして子どもたちをとどめました。

この様子を見ていたイエス様は、大変怒って「子どもたちをわたしの所に来させなさい」と命じられたのです。

## 子どもを招かれるイエス様

そのころのユダヤの国では、神様の律法が大切にされていました。律法を学んで知識のある人は重んじられていましたが、子どもは律法をあまり知らないで、神様にとって役に立たないと思われていました。ところがイエス様は、弟子たちを諭すように、「神様の国は、この子どもたちのように、素直な心のもが入れるんですよ」と教えてくださいました。

子どもはお金がないし、律法も知らないし、何の資格も持っていません。でも、イエス様のもとに行きたい、イエス様のお話を聞いて、イエス様に祈ってもらいたいと単純に願っていました。

イエス様はユダヤ人の指導者であり、イスラエルの教師として尊敬されていたニコデモさんというおじいさんに、「新しく生まれなければ、神の国を見ることはできない」と言われました。神の国に入る資格は、律法を学んで知識があるからではなく、年をとって経験が豊かであることでもなく、いい仕事につき社会的地位があるからでもないの

です。神の国は、私は幼な子のように弱くて小さい者だから、イエス様に救っていただきたいと、悔改めて福音を信じる人が入ることができるのです。

イエス様はこの子どもたちをニコニコしながら招き、大きな手を広げて抱きかかえました。一人一人の頭に手を置いて、祝福を祈られました。

## まとめ

イエス様は子どもたちが大好きです。いつでも待っていて祝福してください。お父さん、お母さん、先生と話したいことがあっても、ときどき「ちょっと待って」とか「あとにして」と言われると、話せなくなってしまうですね。でも、私たちは、苦しいとき、悲しいとき、うれしいとき、さびしいとき、病気のとき、用事が無くてもなんだか話したいとき、いつでもイエス様のもとに行くことができます。

お祈りは、イエス様とお話することです。どんなことでも打ち明けることができます。

聖書を読むと、イエス様のお心やお考えがわかりますから、イエス様を身近に感じることができ

ます。教会に行つて、礼拝をささげるとき、イエス様が一人一人のために、「この1週間、健康が守られるように、平安がいつも心にあるように」と、祝福を祈つて送り出してください。

誰もとどめることはできません。イエス様のもとに行きましょう。イエス様の祝福をいっぱいいただきます。

♪子どもをまねく (子ども讃美歌48)

## ワーク A

## 話し方のヒント

●話し方のヒント  
イエス様のところには、いつも大勢の人たちが集まりました。皆さんと同じ子どもたちも、お父さんやお母さんに連れられて来ましたね。お弟子さんたちが子どもを来させないようにしても、イエスさまはそのお弟子さんたちをしかって、子どもたちをお招きになりました。子どもを愛しておられるイエス様が、私たちも招いてくださっているとは本当にうれしいですね。私たちも、お祈りを通してイエス様に近づきましょう。

●ワークについて  
迷路を進んで、イエス様の所に行きましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 イエス様は、幼な子のような、自分の無力さを知って、より頼む者を喜んで受け入れてくださいます。  
●質問3 イエス様は、どんな時にも、みもとに近づく者を喜んで受け入れてくださることを強調しましょう。「自分なんか」という思いがあると、なかなか折れないものです。日曜の礼拝でも、イエス様は喜んで迎えてくださっているのだということ、折にふれて伝えましょう。

## ワーク C

●第1問 15節までを掲げています。「幼な子」「神の国」「幼な子」「神の国」

●第2問 人々が幼な子をイエス様の元に連れてきたとき、弟子たちがたしなめた理由を考えます。

●第3問 「子どもたちの特徴」「大人の考え」「イエス様の考え」の違いを図で記しています。生徒がこれ考えるのは難しいので、理解できるところに○をつけさせて会話をします。子どもは素直、神様によりたのみやすい、大人は「視点」が地上、人間の力と常識による、競争原理による損得、益無益、効率、能率」など、イエス様は「視点」が神の国、神の全知全能による、恵みによる」など。  
●第4問 イエス様は子どもたちが来るのを喜んで受け入れてくださると確認します。そして、イエス様のもとに行くとは、具体的にはどういうことを考えます。

## ワーク D

●今日ののみ言葉は私たち大人に向かって語られている気がしてなりません。イエス様がここまで、憤られるとは、私たちはきれいで受けて止めてしまっていないでしょうか？ 教会学校から導かれて牧師になった人に聞いたことがあります。子ども、このころ、教会にいらつしやい、教会にいらつしやいと云われるから、教会に行つたけど、そこでは、歓迎よりもむしろ、なぜ来たの？ という目と顔と空気があって、子ども心に感じとつたということでした。身に積まされる思いです。

●また、別のある牧師先生が言われました。子どもに接する時は、やさしい目とやさしい顔とやさしい声が大切だそうです。子どもの前に立つとき、覺えたい言葉だと思えます。

## 中高科へのヒント

## 観察してみよう

1 弟子たちは幼な子たちをイエス様に近づけないようにしましたが、イエス様はどうでしょうか。(近づくのを喜ばれた/14節)

2 イエス様は、神の国はどのようなものかと言っておられますか。(幼な子たちのものである)

3 神の国に入るためには、どうしたらよいと書かれていますか。(15節)  
●考えてみよう

1 人々(親たち)はなぜイエス様にさわってもらおうとしたのでしょうか。(自分の子どもを祝福していただくため/16節)  
2 イエス様はなぜ憤られたと思いますか。(幼な子たちへの祝福が妨げられようとしたから)  
3 イエス様は幼な子たちをどのように見ておられたと思いますか。(主を受け入れやすい柔らかな心を持っている)

4 「幼な子のように受け入れられる」とはどういう意味だと思いますか。(悔い改めて、イエス様を素直に心に受け入れること)

●自分に当てはめてみよう  
1 あなたが当時の弟子だとしたら、この時、どのような態度をとったと思いますか。  
2 あなたの礼拝に、小さい子どもたちが出席するとしたらどう思いますか。  
3 あなたにも幼な子のように、受け入れやすく、教えられやすい心がありますか。



聖書 ヨハネ6・1～14

テーマ ささげもの(収穫感謝の日)

## 序論

(金井)

本日は収穫感謝の日である。1620年にメイフラワ1号に乗って新大陸に渡った清教徒たちは、翌年秋、最初の収穫をした時に、教会に集まって感謝の礼拝をささげ、インディアンたちを招いて共に食事をした。これを記念して、この祝日は定められた。今も生きて働き、私たちの霊肉を養ってくださる主の恵みについて、本日は学びたい。

## 一、小さな信仰

主イエスがガリラヤ地方を中心に宣教を行っておられた時のことである。あまりにも多くの人々が来るので、主イエスと弟子たちは食事をする暇も無いほどに忙しかった。そのため、しばらく休憩を取りたいと思って、主は弟子たちと共に、カペナウムから舟に乗ってガリラヤ湖を渡り、ベツサイダに行かれた。人里離れた寂しい所に向かったのである(マルコ6・31～32)。

ところが、人々は湖畔を回って追いかけてきた。主イエスは「大ぜいの群衆をごらんになり、飼う者のない羊のようなその有様を深くあわれんで、いろいろと教えはじめられた」(同6・34)。また、主は病人たちをいやされた(マタイ14・14)。

そうこうする内に時間は経過し、夕暮れになってしまった。弟子たちは「みんなを解散させ、めいめいで何か食べる物を買いに、まわりの部落や村々へ行かせてください」と主に進言した。しか

し、主は「あなたがたの手で食物をやりなさい」と言われた(マルコ6・36～37)。主は地元出身の

ベリポに(ヨハネ1・44)お尋ねになった、△どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか▽。彼は即座に計算して、△二百デナリのパンがあっても、めいめいが少しずついただくにも足りません▽と答えた。1デナリは当時の労働者の日当に値する。そこには男がおよそ5千人、女・子どもを加えれば1万人にもなるうかという大群衆がいたから、彼の答は正しい。だが、そんなことは百も承知で、主は彼の信仰を試されたのである。残念ながら彼は不合格であった。

## 二、小さなささげもの

一方、弟子のアンデレは違った答えを出した。△ここに、大麦のパン5つと、さかな2ひきとを持っている子供がいます。しかし、こんなに大ぜいの人では、それが何になりましょう▽。彼は幾らか期待を持っていた。だが、彼の信仰も小さい。せつかく持ち出した話を彼は自ら否定する。

△大麦のパン▽は貧民が食べる安価なものであった。この△さかな▽は食事の前菜に出される程度の小さなものである。それでもこれは母親が用意してくれた弁当であり、腹をすかした貧しい少年にとって大切な食べ物だった。しかし、少年は、イエス様に食べていただけたら、おささげしたいと思ったのであろう。彼は主のみ教えを喜んで聞いていたのである。この小さくても真心がこもったささげものを用いて、主は大きなみ業をなされた。

## 三、大きな祝福

主イエスは人々を、春の青草が茂る野に座らせなされた。△イエスはパンを取り、感謝してから、すわっている人々に分け与え、また、さかなをも同様にして、彼らの望むだけ分け与えられた▽。人々が十分に食べた後、主は弟子たちに△少しでもむだにならないように、パンくずのあまを集めなさい▽と指示された。△パンくずは、12のかごにいっぱいになった▽。

これを見て人々は、イエスこそモーセが預言した△世にきたるべき預言者▽であると言った(申命記18・15、18)。荒野で天からのパンが与えられた故事を彼らは想起したのである。ちょうど出エジプトを記念する過越祭が間近であった(4)。人々はイエスを王にしようとした。ローマ帝国からユダヤ民族を解放するメシアを彼らは期待したのである。しかし、イエスは山に退かれた(15)。

翌日イエスは言われた、△わたしは命のパンである▽。主イエスは、ご自身を十字架にささげるために世に來られた。それは人々の罪を贖い、信じる者を滅びから救うためである。信仰をもって聖さんのパンを食する者は永遠の命を受ける。給食の奇跡はこの真理を示す△しるし▽であった。

## 結論

本来に必要なものがない時、私たちはどのような態度を取るだろうか。余計な計算をしないで真心こめてささげる者に、主は大きな祝福を与えてくださる。肉の恵みと共にそれに優る大きな霊の恵みが永遠に続く。喜んでささげよう！

## 研究資料

(足立)

キリストの復活は別として、5千人の給食の出来事は四福音書すべてに記される唯一の奇跡である。イエスはある少年が弁当として持参していた5つのパンと2匹の魚を、女性や子どもを別として5千人を数える大群衆を養うために用いられ、人々の必要を満たされた(マタイ14・13～21、マルコ6・35～44、ルカ9・10～17)。これは極めてめざましい奇跡であった。不思議な増加はイエスの手の中で成されたものと思われるが、群衆の驚きは計り知れないものであったに違いない。そのみわざは「しるし」と呼ばれる(6・14)。イエスは不十分なもので、主のためにささげられた物を用いて、飢えを満たすお方であることを実証した。

## テキスト

1 そののち(メタ タウタ)とは、不確定な時を示している(参照、3・22、5・1、6・1、7・1、19・38、21・1)。「ガリラヤの海」が「テベリヤ湖」と呼ばれるようになったのは、紀元20年ころヘロデ・アンティパスがローマ皇帝ティベリウスにちなんで建てた町テベリヤから由来していると考えられる。

2 大ぜいの群衆(参照6・22～24)がイエスについてきたのは、彼らがイエスに従いたいからではなかった。既に2・23～25に述べられているように、病人たちになさっていたしるしを見たからであった。

3 パンの奇跡が起こる場所は、山 だと明白に

されている。この記述は福音書に幾度か出てくる(例、マタイ5・1、マルコ3・13)。そこはイエスと弟子たちにとっては、よく承知した特別な場所であったのかもしれない。

4 過越 とあるが、これはヨハネが言及する3度の過越の祭りの2回目である(参照2・13、23、11・55以下)。ユダヤ人の過越の祭りは、エジプトからの脱出を祝うものであった。その祝いに固有のものは、各家庭で小羊を殺し、それを食べることであった。本福音書でイエスは神の小羊と宣言されている(1・29、36)。最初の過越の祭りへの言及は、破壊されなければならない神殿としてイエスが自らを指定する文脈である(2・13、23)。これは死を意味している。第三の過越への言及は、死の時である(11・55以下)。そして、ここでは5千人の給食時である。これはいのちのパンの発見を促し、イエスが世にいのちを与える真のパンとしてご自分を位置づけていることに他ならない(6・33、51)。そして、人々が永遠のいのちを得るためには、そのパン(イエス)を食べなければならぬ。この結びつきは入り組んでいる。すなわち、小羊の犠牲はイエスの死を予期し、旧約聖書のマナは本当のいのちのパンに取って代わり、出エジプトは予型として罪と滅びから私たちを救う永遠のいのちを説明しており、そして、過越の祭は聖餐によって引き継がれている。以上の内容は、イエスと彼の贖いとしての十字架を指し示している。

5 ここで主導権を持つているのはイエスである。

6 イエスの意図はベリポを試すことにあった。

7 ベリポは統計を気にして、算数の計算をした。彼が挙げた金銭の単位は、ローマ貨幣のデナリで

あり、その価値は労働者一人の一日分の労賃に匹敵するものであった(参照マタイ20・2)。彼は一

労働者の200日分の給料があっても、群衆のおやつにするパンも買えないと考えている。ベリポは最初から奇蹟など行われることはないとの確信を持ち、何の幻も持てない実務家のようなのである。

8～9 アンデレは小さな子どもが持っている弁当を手放させることができる人ではあったが、わずかな食物がイエスによって用いられるとは信じていない。その場の緊急性に狼狽するアンデレ。

10 イエスは不信仰な弟子を教育し、信仰者として成長させようとしておられる。彼は群衆の規模にもかかわらず、食事の準備のために人々を座らせ、ごく普通に事を進めている。

11 イエスは神に感謝をささげつつ祈っている。そして、イエスは座っている人々に、パンも魚も彼らの望むだけ分け与えられた。

12 すべての人が十分満たされた後でイエスは弟子たちに、少しでもむだにならないように、パンくずのあまを集めなさい と言われた。

13 その食べ残りの余ったパンきれを集めると、十二のかごいっぱいになった。

14 群衆の興味は食料(6・26)と政治的メシア(6・15)に集中しており、受肉した御子イエスの中に永遠のいのちを見ているのではない。

参考図書 テニイ・M・C.『ヨハネによる福音書』(聖書図書刊行会) Carson, D.A., The Gospel According To John (Erdmans). Morris, L., The Gospel According To John (Erdmans).

聖書 ヨハネ6・1～14

タイトル 小さなさげもの

中心聖句

ここに、大麦のパン五つと、さかな二ひきとを持っていく子供がいます。

目標

主はどんな小さなさげものも喜ばれ栄光をあらわされる。

#### 導入

(水野)

今日は収穫感謝の日です。神様はこの1年、天候を守り、お百姓さんの働きを祝福して、豊作を与えてくださいました。日本では23日が勤労感謝の日ですが、教会ではアドベントに入る前の聖日を収穫感謝の日として礼拝をささげます。

そのはじまりは、今から384年ほど前の1620年、イギリスの熱心なクリスチャンの人たちが、聖書に従った正しい自由な信仰を持つためにアメリカに渡りました。しかし、慣れない土地での開拓は大変で、渡ってきた半分の人が死んでしまいました。親切なインディアンから種を分けてもらい、作り方を教えてもらって一生懸命働き、次の年に野菜を収穫することができました。みんなで神様に感謝して礼拝をささげました。これが収穫感謝礼拝の由来です。

私たちもこの1年、神様からたくさん恵みをいただきました。どのように感謝したらよいでしょう。

#### 小さな信仰

### ワーク A

#### 話し方のヒント

イエス様のお話を聞きに来た大勢の人たちのお食事をどうしたらいいか、ピリポさんも他のお弟子さんたちも、困ったでしょうね。でもイエス様は、一人の男の子が差し出したパンとお魚で、みんながおなかいっぱいになるようにしてくださいました。私たちには何の力もなくても、イエス様は何でもおできになります。私たちも、イエス様に用いていただけるようにしましょう。

#### ワークについて

△男の子↓パン↓お魚↓の順に進んで、ゴールを目指しましょう。

### ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 イエス様は弟子たちの信仰を試されました。単に神にはできないことがない、ということとを教えるためでなく、「わたしがいのちのパンである」(35)ことを教えるためでもありました(研究資料参照)。

●質問3 小さなさげものとは、まず自分自身です(Ⅱコリント8・5)。その中で具体的なことを考えさせましょう。また、教師自身の経験も話してあげましょう。

イスラエルには、ガリラヤ湖というとてもきれいな湖があります。この地方でイエス様が伝道していたとき、イエス様がいくところ、いつも大勢の人たちが集まって来ました。イエス様が山に登られると、子どもも大人もついて来ました。皆イエス様のうわさを聞いて、1度お話を聞きたいと思つて遠くの町からもやって来たのでしよう。

イエス様はどんなに疲れていても、ごはんを食べる時間がなくても、イエス様のものに来る人たちのために、神様のことや、神の国のことを一生懸命お話ししてくださいました。皆、夢中で聞いていてすっかり遅くなつてしまいました。おなかもへこべこです。イエス様はピリポさんに、「どこからパンを買ってきて、この人々に食べさせようか」と聞きました。ピリポさんは、ざあつと見て男の人だけでも5千人、女の人や子どもを入れて1万人、ピリポさんは電卓なんかはないのに計算し「2百デナリのパンがあつても足りないかなー」。1日分の給料が1デナリですから、2百日分の給料全部を必要としています。1コ百円のパンで百円かかります。もちろんお金はありません。パンを1万個用意することだつて不可能です。大型スーパーもコンビニもない時代です。イエス様はピリポさんの信仰を試されたのです。ピリポさんは算数は得意でしたが、信仰は小さなものでした。

#### 小さなさげもの

ところが、アンデレさんのもとに、小さな男の子が5つの大麦パンと2匹の魚の入ったお弁当を差し出しました。イエス様とお弟子さんたちの話を聞いて「ぼくのお弁当、イエス様にあげよう」と思つたのでしよう。アンデレさんは、こんなに

### ワーク C

●ヨハネ6章全体を読んで備えてください。

●数を実感するために組み入れた1ミリアスは合計1万個あります。すぐに数を教えないで、少しは一緒に数えてみてください。

●第2問 この聖書の場面を思い浮かべながら、弟子たちの答えを聖書から確認します。ピリポの答えは7節、アンデレの答えは9節です。

●第3問 自分の家での準備時間を参考にして、1万人の食事の準備時間を計算してみます。

●第4問 パンと魚を用いてなされた奇跡の結果を書き、なぜそうなつたか話し合います。

●第5問 この奇跡を通してイエス様が教えようとしたことを選びます。答えは①、③、④です。

●第6問 衣食住が与えられたら「ああよかった」で終わりがちな私たちですが、イエス様がなさる奇跡の本当の目的は、イエス様が「救い主」であり「命のパン」であることを悟らせるためなのです。それがわかつたかを確認します。

### ワーク D

●イエス様のチャレンジのお言葉に対して、ピリポやアンデレはどのように答えましたでしょうか。彼らの言葉を読んでどんな気持ちかを考えてみましょう。例をひとつずつ書いています。他に思いつくことを書きます。

●次にあなたなら、イエス様のチャレンジのお言葉にどう答えるでしょうか。また、どんな気持ちを持つてでしょうか。自由に書いてみます。

●小さな子どもたちの小さな応答に対して、神様がどのように栄光を現されるか期待します。

大勢だからとても無理だと思いつつも、その少年のお弁当を、イエス様のところへ持つていきました。イエス様は人々を座らせました。この5つのパンと2匹の魚を手にとって、心から神様に感謝のお祈りをしました。それから、弟子たちがこのパンと魚を配り始めました。するとどうでしょう！皆が遠慮しないで、お腹いっぱい食べて、しかも12のかごにパンくずがいっぱいになるほど、満たされたのです。

#### まとめ

イエス様は小さなさげものを、喜んで受け取り、みんなに役立つように用いてくださいました。私たちはこの1年、どんな恵みをいただいたか思い出し、みましょう。空気が、太陽、自然界の恵みを一杯いただきました。お父さん、お母さんを通して何となく生活することができました。先生や友達からいろいろのことを学び、楽しく遊びました。病気が、苦しむこと悲しいことを通して、神様が一番近くにいてくださることを体験しました。何よりも、私たちのために命まで捨てて愛してくださいさるイエス様に感謝しましょう。

小さな私たちは、自分は役に立たないように思うかもしれませんが、でもお弁当をささげた少年のように、イエス様に私たちを小さなさげものとして差し出すとき、イエス様が私たちを整えて用いてくださいます。

(世界中には1個のパンも食べられない人がたくさんいます。パン1個分のお金をささげて、具体的に感謝をあらわしてはどうでしょう。♪神様感謝します(ゴスペルミュージック7)

### 中高校へのヒント

#### 観察してみよう

1 5節でイエス様はピリポに問いかけておられますが、どんな理由からでしょうか。(ピリポの信仰を試すため/6節)

2 このとき見つかった食べ物、どんなものでしたか。(パン5つと魚2ひき/9節)

3 イエス様の奇跡によって群衆は空腹を満たされたでしょうか。(食べ残しが出るほど各人が十分食べられた/13節)

#### 考えてみよう

1 ピリポは、イエス様なら群衆の空腹を満たすことができると思っていましたか。

2 アンデレは、わずかなパンと魚が役に立つと思つたでしょうか。(思わなかった/9節)

3 この奇跡を目にした弟子たちや群衆は、どんな反応を示したと思いますか。

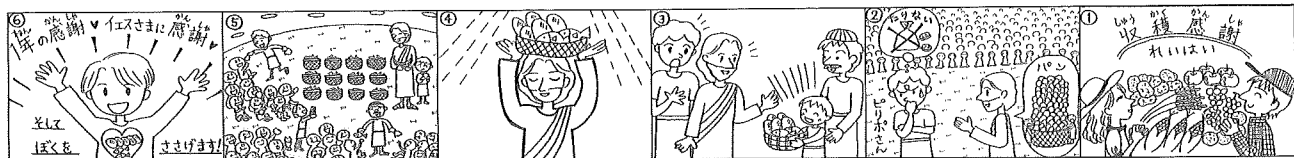
4 ひとり子どもが差し出したと思われるわずかな食べ物、主は何千倍にもして群衆に分け与えなさいましたが、これについてどう思いますか。

#### 自分に当てはめてみよう

1 あなたがこのときの弟子だったとして、分け与えるたびに増えてゆく奇跡を目にして、どう感じるか想像してみてください。

2 神様はあなたを、あなたが思つても見ないほど用いてくださいます。どのように自分を

3 あなたも神様に自分をささげませんか。



# 聖書 ルカ1・8～25

## テーマ お祈り(アドベント第1週)

### 序論

(金井)

本日からアドベント(待降節)に入る。今年はルカによる福音書から主イエスの御降誕の意義について学んでいきたい。ルカはユダヤ人ではないが、パウロの伝道旅行に同行したので、主イエスの地上での御生涯について多くの情報を集めることができた。彼は医者であり、当時の世界の共通語であるギリシア語を巧みに用いる知識人であった。ルカによる福音書は異邦人のために、わかりやすい物語形式で書かれているので、私たち日本人にも親しみやすいだろう。

### 一、人の願い

物語はまず、1人の老人の登場から始まる。名をザカリヤという。彼は田舎の祭司に過ぎないが、彼の妻エリサベツは由緒正しいアロン家の出身であった(5)。

この夫婦には1つの悩みがあった。子どもがいないことである(7)。当時の人々は、子どもが与えられないことは神の祝福であり、子どもが与えられないのはその夫婦に罪があるためだと考えていた。ザカリヤもエリサベツも「神のみまに正しい人であって、主の戒めと定めとを、みな落度なく行っていた」(6)ので、何とかその恥を取り去りたかった。ザカリヤは、子どもを与えたまえ、と主に願い続けた。しかし、この頃には「ふたりともすでに年老いていた」(7)。ザカリヤは祈り

つつも、ほとんどあきらめていたのである。

ところが、ある日驚くべきことが起こった。その週はザカリヤの属するアビヤ組がエルサレムの神殿で仕える当番となっていた。聖所に入る祭司を決めるくじを引いたところ、ザカリヤに当たった(8～9)。当時は祭司が1万8千人ほどいたので、それは一生に一度できるかできないかという特別な務めであった。それだけでも驚いたが、さらに、聖所でザカリヤが香をたいている時に天使が現れて、△恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞きいれられたのだ。あなたの妻エリサベツは男の子を産むであろう▽と告げたのである。

△ザカリヤ▽という名の意味は「主は覚えておられる」である。まさに主は彼の祈りを覚えて、応えてくださったのである。

### 二、神の計画

この福音書はイエス・キリストの生と死、復活を証しするために書かれたものである。その冒頭にザカリヤの話があるのは、彼がキリスト来臨のために用いられた人物の1人であったからである。神は△時▽を支配し、御子イエスを中心とする救いの歴史の歯車を一つ一つ組み合わせて、動かしておられる。ルカはこの真理を伝えている。

すでに希望を失っていたこの1人の老人を、神は御自身の壮大な計画の実現のために選び、お用いになった。ザカリヤ夫婦から生まれ出る子の名は△ヨハネ▽(「主は恵み深い」の意で、主イエスの宣教の備えをする(17)。彼は旧約最後の預言者マラキが預言した(マラキ4・5)、エリヤのよう

な力ある預言者となる(17)。ヨハネは△ぶどう酒や強い酒をいっさい飲ま▽ない終身のナジル人として聖別されており、△母の胎内にいる時からすでに聖霊に満たされて▽いた。

### 三、人の沈黙・神の御業

ザカリヤは子どもを祈り求めていた。しかし、彼は天使の告知を、にわかに信じることはできなかった。すでに年老いていたからである(18)。その不信仰のゆえに、天使ガブリエルは彼の口を利けないようにした(20)。祭司は聖所での務めを終えた後、集まった会衆のために大祭司アロンの祝福(民数記6・24～26)を唱えなければならなかったが、ザカリヤは沈黙し、これを果たせなかった(22)。しかし、驚くべき神の御業を見た。妻エリサベツが身ごもったのである(24)。彼女は主をたたえた、△主は、今わたしを心にかけてくださった、人々の間からわたしの恥を取り除くために、こうしてくださいました▽。その子が誕生した後、ザカリヤも「口が開けて舌がゆるみ、語り出して神をほめたたたえた」(64)。神は偉大な全能者、賛美されるべきお方である。

### 結論

私たちは神の全能の力を信じているだろうか。祈りが応えられることを本気で期待しているだろうか。人間のわがままのためではない。神の御業が進められ、栄光が表されるために神は私たちを用いてくださる。時に黙らせられることも恵みである。神の御業を見て、喜ぶ者とさせていただこう。

### 研究資料

(足立)

この箇所の大きなテーマは、神はご自分の民に對して救いのみわざを更新されると言うことである。パプテスマのヨハネはイスラエルを改革するために召され、エリヤの霊を持つ預言者となる。事実ヨハネは、主の到来に對して残りの民を備えさせる。イスラエルの多くの者は義の思考に立ち返り、互いに和解に導かれる(1・14～17)。

しかし、これら無限の国家的、救済的テーマは、ザカリヤ、エリサベツという素朴な夫婦の個人的な出来事とともにある。彼らは主の前に旧約的敬けんをもつて生きてきた。しかし、子を求めつつも子がない夫婦であった。神は彼らを訪れ、その痛みの祈りを聞かれた。

### テキスト

- 8 ザカリヤは神殿に仕えるおおよそ1万8千人の祭司の1人として年2回の奉仕のただ中にある。
- 9 あまりにも多くの祭司が神殿で仕えていたため、聖所に入り香をたく奉仕は、長い祭司生活の中でたった一度だけ起こりうる、極めて貴重な場面であった。これは運命や、チャンスというものではなく、神がこの出来事を支配しておられる。
- 10 香をたいている間 このときが朝夕刻であったかはわからない。多くの民衆はみな外で祈っていた 外で祈る礼拝者への言及は、1・21以下に私たちを備えさせる。
- 11 主の御使が現れて 彼の名はガブリエル(1・19)。

- 12 おじ惑い、恐怖の念に襲われた 主の臨在にふれた時、正直ゆえに起こる自然な反応。
- 13 恐れるな 戸惑うものを安心させること(ルカ1・30、2・10、8・50)。あなたの祈りが聞きいれられたのだ 1・7から考えるなら、老人ザカリヤが、なおも子どもが与えられる期待を持っていたとは考えにくい。またこの時は神殿での一生に1度の奉仕であったので、そのような祈りを捧げていたとも考えにくい。おそらく彼が以前にした子どもを求める祈りへの言及であろう。しかし、13～17節の内容を見ると、与えられる子がイスラエルの霊的祝福と深く結びついていることは明らか。そして、御使いのメッセージは、ザカリヤ夫妻の期待をはるかに上回るもの。イスラエル民族の贖いを求める祭司ザカリヤの祈りは豊かに聞き届けられている。

- ヨハネ この名は、主は恵み深いという意味。本福音書におけるヨハネへの言及(3・1～20、5・33、7・18～35、9・7～9、11・1、16・16、20・4～6)。
- 14 喜びと楽しみ この喜びは個人的感情を満たすと言うより、救い主の時代が到来することによってもたらされる終末的な喜びであった(2・10、10・17、24・41、52)。
- 15 彼は主のみまに大いなる者となり ルカはイエス(1・32)とヨハネを比較して、彼を小さく見積もつてはいない(7・28)。主 ここでは神への言及。ぶどう酒や強い酒をいっさい飲まず ヨハネの存在を神に仕える特別な人として言及しているのである(レビ記10・9)。聖霊に満たされており ルカ1・41、67にも同じ表現が

使われている。

- 16 立ち帰らせる この言葉(エピストレブセイ)は、新約における回心に関する専門用語である(使徒9・35、11・21、14・15、Ⅱコリント3・16、Ⅰテサロニケ1・9、Ⅰペテロ2・25)。
- 17 みまに先立つて行き 主イエス・キリストの先駆者として、人々を主イエスの前に備えさせることがヨハネの役割。エリヤの霊と力とをもつて エリヤ(列王下2・9～10)のようにヨハネは聖霊に満たされる。聖霊と力との密接な結びつき(ルカ1・35、4・14、使徒1・8、10・38)。
- 18 義人の思いを持たせて 参照マラキ4・6。
- 19 ザカリヤは何らかのしるしという手段によって証拠を要求した。比較、11・16、29、16・27～31。

- 20 わたしは神のみまに立つ 御使いの派遣は神からのもの。この喜ばしい知らせをあなたに語り伝えるために この動詞(ユアンゲリサスサイ)はルカのお気に入りのことばである(2・10、3・18、4・18、43、7・22、8・1、9・6、16・16、20・1)。
- 21 あなたは口がきけなくなり ザカリヤは、信仰の欠如を責められている。物言えぬ事は、エゼキエル3・26、24・27にあるしるしである。わたしの言葉を信じなかったから 御使いの言葉は、御使いを遣わした神の言葉である。

参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』(いのちのことば社)、Bock, D. L., Luke 1・1～9・50 (Baker). Stein, R. H., Luke (Broadman)

聖書 ルカ1・8〜25  
タイトル 祈りましょう  
中心聖句 あなたの祈りが聞き入れられたのだ。  
目 標 信仰の祈りを神は聞いていてくださることを知る。

## 導入

(水野)

いよいよアドベントですね。心ウキウキしながらクリスマスの準備をしましょう。クリスマスツリーやアドベントカレンダー、クリスマスカード、クリスマスの劇やクリスマスプレゼント、気になることが一杯あります。

アドベントは、救い主が来られるのを待ち望むときですから、何よりも心を静め、聖書のみ言葉を通してクリスマスを迎える準備をしましょう。

## 聞かれたお祈り

ユダヤの町にザカリヤさんとエリサベツさんというおじいさんとおばあさんがいました。長い間祭司として、神様に仕えてきました。

そのころ、祭司をしている人が1万8千人もいましたから、年2回、神殿で香をたく大切な奉仕は、くじ引きで決めていました。ザカリヤさんがこのくじにあたり、一生に一度あるかないかのお仕事をすることになりました。ザカリヤさんは、祭壇の前に立ち、落ち度がないように緊張しながら香をたいてみると、そこに天使ガブリエルが現

れました。ザカリヤさんはびっくりしました。恐くてぶるぶる震えていました。天使は「恐れるな、ザカリヤよ、あなたの祈りが聞き入れられたのだ」と語られました。耳を疑うような内容の話です。どんな祈りが聞かれたというのでしょうか。

ザカリヤという名前には「主は覚えておられる」という意味があります。神様はザカリヤさん夫婦の祈りを覚えてくださっていたのです。ザカリヤさん夫婦には子どもがいまませんでした。いつも2人で祈ってきたことは、「赤ちゃんを与えてください」でした。でも、もう年を取っていて、とても実現するとは思っていませんでした。しかし、天使は、エリサベツに赤ちゃんが与えられ、男の子が生まれることを伝えたのです。名前も決まっています。ヨハネ「主は恵み深い」とつけるように命じられました。

## 神様のご計画

救い主イエス様がお生まれになることは、七百年も前に預言されていました。イエス様が生まれる前に、道を整えて準備する、エリヤのような預言者が現れる事も約束されていました。このヨハネこそ、神様から特別に聖別された救い主の前に来る、神の人でした。

しかし、ザカリヤさんはずっと祈ってきたことなのに、天使の言葉を信じるのができませんでした。不信仰のザカリヤさんは、赤ちゃんが生まれるまでしゃべることができなくなってしまいました。外で祈っている人々を祝福しなければならぬのに話すことができません。しかし、「特別な幻を見たに違いない」とみんなはわかってくれま

した。

家に帰ると、天使のお告げどおりエリサベツさんは赤ちゃんを身ごもりました。エリサベツさんは、うれしくてうれしくて神様がなしてくださったことをほめたたえ、「こんな私をも神様は心にかけてくださった」と喜びました。

やがて、待望の男の子が生まれました。ザカリヤさんは名前をヨハネとつけました。そのとき、ザカリヤさんは話すことができるようになって神様のすばらしさを証しました。

## 例話

真理ちゃんは4歳のときに、妹が弟がほしくてお母さんをお願いしました。お母さんは「神様にお祈りしてね」と言われ、毎日毎日、朝に晩に祈りました。ある日お母さんが肺炎で入院することになりました。真理ちゃんも小さくて病気のことはわからないので、「病院から帰って来るときは赤ちゃんも一緒にしょ」というくらい信じて待っていました。ところが1年、2年、3年と祈っても、祈りは聞かれませんでした。お母さんのほうがあせってきました。でも真理ちゃんも祈り続けました。4年祈り続けて8歳のとき、妹が生まれました。真理ちゃんは祈ったことは、神様は必ず聞いてくださるということを体験しました。

## まとめ

私たちが忘れていても、祈った祈りを神様は聞いていて、一番いいときに、神様の方法で祈りに答えてくださいます。たえず祈るものとなりましょう。

♪祈ってごらんよわかるから (新聖歌48)

## ワーク A

## 話し方のヒント

今日からアドベントです。今年もクリスマスの準備が始まります。世界で初めてのクリスマスの時も、イエス様がお生まれになる前に大切な準備がありました。ヨハネが生まれることになっていたのです。子どもを与えてくださいとお願ひしていたザカリヤとエリサベツのお祈りを神様はお聞きください。男の子を与えてくださいました。神様は、一番いいときにお祈りに答えてくださるのです。私たちも、信じてお祈りしましょう。

ワークについて  
クリスマスカードを作りましょう。

## ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 バプテスマのヨハネはイエス・キリストについて語るときに欠かせない存在です。何人かの重要な人物は、なかなか子が与えられない親から生まれています（イサク、サムソン、サムエルなど）。親の信仰と、不可能を可能にする主の恵みと御力により、主のご計画が進められていくことを覚えよう。

●質問3 神は最も良い時に、ご自身の方法で、祈りに答えてくださいます。ザカリヤ夫妻の場合も、その思い、願ひにはるかにまさる答えでした。必ず祈りは答えられるとの信仰に導きましよう。

## ワーク C

## 第1問 今日のみ言葉を書きます。

●第2問 (1)「子どもが与えられること」

(2)「年老いていたから」

●第3問 「ヨハネ」「大いなる者」「エリヤ」「備える」(四角マスの答えは「」で示す)

●第5問 神の「わたしへの計画」についてのみ言葉を3つ、聖書を開いて確認します。

●文章や漢字のレベルが、小学校中学年にとつては難しいことがあります。ワークは教師の指導と会話の中に進めていくので、どうぞ、そういう点は会話しながら教えてあげてください。

## 《共通事項》

●質問の答えは、解説にも記していますが、次の質問文の中に、前の質問の答えが含まれているように工夫しています。これは、話しの流れが自然になるためと、生徒が自分で答えを発見した、という自覚の中に導きたいからです。

●文章や漢字のレベルが、小学校中学年にとつては難しいことがあります。ワークは教師の指導と会話の中に進めていくので、どうぞ、そういう点は会話しながら教えてあげてください。

## ワーク D

●今日からアドベントに入ります。イエス様の先駆者として誕生したヨハネ。そこにはザカリヤとエリサベツの長期にわたる、しかも本人たちも期待が薄れている祈りがありました。忘れておられないのは神様。しかも本人たちの期待を上回る出来事としてお答えになりました。今私たちが祈っていることがどのような形で答えられるのか、わくわくしないでしょうか？

●1〜4までの質問をみんなで考えたり、想像したり、答えたりしましょう。

## 中高科へのヒント

## 観察してみよう

- 1 ザカリヤと奥さんのエリサベツには、どんな悩みがあったのでしょうか。(7節)
- 2 ザカリヤのどんな祈りが聞き入れられたのでしょうか。(子どもを与えて下さいという祈り)
- 3 ザカリヤは、御使いの言葉を素直に信じたでしょうか。(信じなかった/18節)
- 4 御使いの言葉どおり、身ももったエリサベツは、どのような気持ちだったでしょうか。(25節)考えてみよう

- 1 ザカリヤはなぜ御使いの言葉をすぐに信じるのができなかったのでしょうか。(夫婦とも子どもを生むには年をとっていたから/7節)
- 2 年老いた夫婦から子どもが生まれるという奇跡によって、神様はどんな方だとわかりますか。(神様は全能で、祈りに応えてくださる方)
- 3 長い間の祈りが応えられたことからどんなことがわかりますか。(神様はあきらめかけていた望みをも実現させてくださる)

## ●自分に当てはめてみよう

- 1 メッセージやみ言葉をとおして、神様からの約束をいただいたことがありますか。
- 2 なぜ祈り続けることが難しいと思いますか。
- 3 神様は今でもあなたの祈りを覚えておられるでしょうか。
- 4 み言葉による神様の約束を、信じて祈り続けてみませんか。



## 聖書 ルカ1・26～38 テーマ み告げ(アドベント第2週)

### 序論

(金井)

神はこの世においてみ業を進めるために、人を選んでお用いになる。独り子を人間として遣わすという歴史上最大のみ業のために、神は一人の女性をお選びになった。その名はマリヤである。今日は、この特別な恵みにあずかったマリヤの信仰に学びたい。

### 一、恵みのみ告げ

マリヤの親類エリサベツが妊娠6か月目の時に、天使ガブリエルがマリヤに現れた。エリサベツはアロン家の出身であり(5)、マリヤのいいなづけヨセフは、ダビデ家の出身であったが(27)、マリヤ自身は社会的に何ら特別な人ではない。彼女は自らを「主のはしため」、「卑しい女」(48)と言っている。彼女はとても謙そんな人であり、神を畏れる敬けんな人であった。当時ユダヤでは、男性は18～20歳、女性は12～14歳ぐらいで結婚した。この時点ではまだ婚約中の身なので、彼女は年齢的には実に若い。未熟とも言えよう。だが、神はあえてこの少女を選ばれたのである。

天使は言う、**「恵まれた女よ、おめでとう」**。マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいたているのです。これから起こることは難しい問題を含んでいるのだが、ともかく神の御子を胎内に宿し、出産し、育てるということは、空前絶後の恵みである。「神は高ぶる者をしりぞけ、へりくだる者に恵

みを賜う」(ヤコブ4・6)。世の立場を逆転する神の恵みの不思議を、マリヤは歌っている(46～55)。

### 二、臨在のみ告げ

天使は告げる、**「主があなたと共におられます」**。この言葉にマリヤはひどく胸騒ぎがして、このあいさつはなんの事であろうかと、思いめぐらしていた。マリヤは思慮深い少女であったが、天使のみ告げの内容は、とても考えつかないようなことであった。見よ、あなたはみごもって男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。マリヤは非常に驚いて、問うた、**「どうして、そんな事があり得まじょうか。わたしにはまだ夫がありませんのに」**。彼女は処女なのだから、こう言うのは当然である。

しかし、これから起こる事態は人間の常識を超える。そもそも永遠無限の創造主である子なる神が、人間になるということ自体、有り得ない話である。しかし、そこまでしなければ人類は救われようが無いので、あえて父なる神は、御子を人間の胎児としてマリヤの胎内に送られたのである。天使はマリヤに説明する、**「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。それゆえに、生れ出る子は聖なるものであり、神の子と、となえられるでしょう。あなたの親族エリサベツも老年ながら子を宿しています。不妊の女といわれていたのに、はや六か月になつています。神には、なんでもできないことはありません」**。神は天地を創造し、動物や人間に命を吹き込まれた全能者である。テクニカルなことは問題ではない

い。論より証拠、老女エリサベツも妊娠した。マリヤにはさらに特別な聖霊臨在の恵み、インマヌエルの恵みが与えられたのである。

### 三、み業のみ告げ

当時の花嫁は処女であることが結婚の絶対条件であった。石打ちの刑とまでいかなかったも(申命記22・23～24)、マリヤは離縁され、世間から冷遇されるのが当然である。しかし、そのような事態を予想しつつも、マリヤは「わたしは主のはしためです。お言葉どおりこの身に成りますように」と言って無条件で神に従った。このマリヤこそ、ゲッセマネからゴルゴタへと向かわれた主イエスの母にふさわしい女性である(ルカ22・42)。

天使は壮大な神の計画を告げる、**「彼は大きな者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。そして、主なる神は彼に父ダビデの王座をお与えになり、彼はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう」**。マリヤの理解度はともかく、彼女の従順によって、神のみ業は大きく進展したのである。

### 結論

マリヤは特別な人ではなく、私たちと同じ普通の人である。しかし、彼女は年若くして優れた信仰を持ち、神に用いられた。信仰者は神を信じるだけでは十分ではない。神に信任され、用いられる者となりたい。また、神の言葉をどこまでも信じて、従い続け、神に用いられる若者たちを育てていこう。

## 研究資料

(足立)

処女降誕は聖書特有の教理である。このみわがが成就するために、一女性のみ言葉への信頼と服従があった。

### テキスト

26 六ヶ月目に 1・36にあるようにエリサベツの妊娠期間が6ヶ月目に入ったことへの言及。

27 この処女 ルカは後にも先にもマリヤが処女であったことを強調している(1・34～35)。これはマタイ1・23と一致する。当時ユダヤ社会では、婚約は法的に結婚と同じ拘束力を持っていた。そして約1年後、結婚式が執り行われ夫婦としての生活が始められた。

28 おめでとう 字義的には「喜べ」となる。マリヤは神の恵みを受ける特別な対象であるが、彼女の敬けんさが主の恵みをもたらしたのではない。あくまでも主の選び。

29 マリヤの内的な困惑を示している。彼女は、御使いの突然のあいさつを思いめぐらしていた。思いめぐらす(ディエロギセト)という動詞は未完了時制であるので、マリヤが熟考し続けた事を意味している。この点は祭司ザカリヤとは対照的である(1・12)。

30 恐れるな 聖書全体に一貫して出てくる主なる神からの恵みの言葉(ルカ1・13、2・10、8・50、創世記15・1、士師6・23、ダニエル10・12、19)。マリヤが神から恵みを受けたのは、あくまでも主の恵み深い選びにある。決してマリヤの敬け

んさが神の目にとまったのではない。強調点は神の主権であり、人間の受容性にあるのではない。

31 その子をイエスと名づけなさい イエス(ヘブル語でヨシユア)という名は旧約時代に共通のもので、1世紀に至っても人気のある名として受け継がれていた。マタイ1・21は、その子の名がもつ意味を説明している。

32 ここでルカはイエスが「誰」であるか、説明を始める。彼は**「大いなる者となり」**。バプテスマのヨハネにも当てはめられた言葉であるが(1・15)、イエスの場合は質的に異なる。いと高き者の子 神の御子であることを意味する(参照ルカ1・35、76、6・35、8・28、使徒7・48、16・17、マルコ5・7、ヘブル7・1)。ダビデの王座への言及は、サムエル下7・12～13を意識し、イスラエルのメシヤとしてのイエスの役割が考慮されている(ルカ1・69、2・4、11、使徒2・30)。

33 イエスはイスラエルの王(参照ルカ19・14、27、38、23・2、3、37、38、使徒17・7)。ヤコブの家 イスラエルを表現する伝統的な用語(出エジプト19・3、イザヤ2・5～6、8・17、48・1)。イエスは永遠を支配する究極の王であり救い主(イザヤ9・6、ダニエル7・13～14)。

34 マリヤは性経験なしで、どのようにしてその子が誕生するのか問うている。わたしには夫がありませんのに 直訳すると「私は男の人を知りませんのに」となる。知る(ギノウスコウ)という動詞は、性的交渉のしるしとして使われている(マタイ1・25)。彼女は今まで誰とも一度も性交渉を持ったことがない故に、妊娠を期待できないと考えている。

35 聖霊があなたに臨み イエスは聖霊なる神の働きによって処女マリヤに宿る(参照ルカ1・17、4・14、24・49、使徒1・8、10・38)。ルカは1～2章で聖霊についてしばしば言及する(1・15、41、67、80、2・25、26、27)。おお (エピスキアゾー) という言葉は、神の聖なる力強い臨在の場面へと私たちを導く。それは神の栄光が満ちたとき、幕屋をおおった雲を表現するかのようである(出エジプト40・35、参照詩篇91・4)。この言葉は山上の変ほうにおいて、雲がおおった表現に用いられている(マタイ17・5、マルコ9・7、ルカ9・34)。その子どもいのは神の力によって生じ、その力は聖霊からのものである。したがって彼は、聖なるものと呼ばれる。

36 ガブリエルはエリサベツの実例を提示しながら、1・34のマリヤの言葉に答えている。

37 参照、創世記18・14、マタイ19・26、ヨブ42・2、ゼカリヤ8・6。

38 神の御心ゆえに信頼と服従をあらわすマリヤの告白である。そしてこれは、この一件に関することだけではなく、自分の生涯を主の奴隷女として位置づける献身の応答でもある(参照11・27～28)。御使は彼女から離れて行った これは新しい出発に伴う説明を結論づけている(参照1・23、2・20、5・25、8・39、24・12)。

参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』(いのちのことば社)、Bock,D.L., Luke,I., 9・50 (Baker), Morris,L., Luke (IVP), Stein,R.H., Luke (Broadman)

聖書 ルカ1・26、38  
タイトル マリヤへのみ告げ  
中心聖句 恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます。ルカ1・28  
目標 救い主の母マリヤへの希望のみ告げから学ぶ

導入

(長谷川)

12月に入りました。今日はアドベント第2週、2本目のろうそくに火がとりました。少しずつクリスマスの準備を深めていきましょうね。イエス様が喜んで下さる準備は、何よりも「心の準備」だと思います。

さて、今日は、「希望の中の希望、救い主イエス様」の母として選ばれたマリヤさんについて一緒に学びましょう。

マリヤへのみ告げ

マリヤはガリラヤの小さな町ナザレに住む若い女性でした。まだ結婚はしていませんでしたが、ヨセフと結婚する約束はしていました。

そのマリヤに、ある日、驚くようなことが起りました。天使ガブリエルが現れて、「恵まれた女よ、おめでとう。主があなたと共におられます」。そして、驚くマリヤに続けて「恐れるな、マリヤよ、あなたは神から恵みをいただいているのです。見よ、あなたはみこもつて男の子を産むでしょう。その子をイエスと名づけなさい。彼は偉大なる者となり、いと高き者の子と、となえられるでしょう。」

う。」と告げました。マリヤはどんなにびっくりしたことでしょう。心臓が口から飛び出す、と言う言葉がありますが、マリヤはその時、そんな様子だったと思います。「どうして? どうして?」と思ったことでしょう。

マリヤは正直に天使に尋ねました。「どうして、そんな事があり得ましょうか。わたしにはまだ夫がありませんの」と。そうです。まだマリヤは結婚していません。男の子が生まれると言われても、そんなことあり得ないことなのです。そこで、天使は続けて言いました。「聖霊があなたに臨み、いと高き者の力があなたをおおうでしょう。神には、なんでもできないことはありません。人間の力では考えられないことですが、神様がそうされるのです」と天使は告げました。神様には出来ないことがないからです。」

このみ告げに、マリヤの頭も心も張り裂けそうだったと思います。自分が救い主イエス様の母として選ばれるとは、自分のこととして考えてみると、本当に戸惑うばかりだったと想像できます。

マリヤの信仰

どんなに考えても人間の力では信じられないような「み告げ」を頂いたマリヤはどうしたでしょう。悩んで、困って、泣きぐずれて、どこかへ逃げて行つたでしょうか。いいえ、違うのです。マリヤは決心しました。「わたしは主のはしめです。お言葉どおりこの身に成りますように」と、天使にはっきりと告げました。

「はしめ」とは、「奴隷女」という意味です。つまり、神様のためなら何でもします、という意味です。驚くような、考えられないようなことで

したが、マリヤは、全能の神様、何でも出来ないことはない神様に信頼し、神様のお言葉に従おう、この自分をお献げしよう、と決めたのです。マリヤの決心はとも勇気のいることでした。結婚していない女性に子どもが出来ること、それが分かれば、周りの人はどう思うでしょう。それ以上にヨセフさんはどう思うでしょう。考えれば考える程大変なことでした。でも、マリヤは「恵まれた女よ、おめでとう」と言ってくださった天使の言葉、「主があなたと共におられます」と言つて下さった力強い約束の言葉を信じたのです。神様の言葉を信じ、これがマリヤの信仰でした。このマリヤの信仰により、私たちの希望である、救い主をお迎えすることが出来ました。

救い主イエス様が、人間の姿になってこの世界に誕生して下さるために必要だった「お母さん」、その「お母さん」になるために「この身」を献げたマリヤさんの信仰は、本当に素晴らしいものでした。神様のお言葉・希望のみ告げに対して、「この身になりますように」と告白できたマリヤは、さすが、救い主イエス様の「お母さん」だったと思います。

まとめ

私たちも、「どうして?」と考えるような時でも、神様の「お言葉」「みこころ」に「わたしを使って下さい」と言える子どもになりたいですね。神様は何でも出来るなら、希望の素晴らしいお方だからです。そこに信仰による希望が輝きます。♪ある日み使いガブリエル マリヤの家にあらわれてとおといかみのお子さまが 生まれるでしょう」とつげました♪ (教会学校せい18番)

ワーク A

12月5日、26日の聖句 ルカ1・28

話し方のヒント

天使ガブリエルのみ告げは、とても信じられないようなお知らせでした。でもマリヤは、神様にできないことはない信じ、「神様のお言葉のとおりになりますように」とお返事しました。神様のためなら何でもしますという気持ちだったのです。私たちも、神さまのご用に使っていただける人になれるよう、お祈りしましょう。

ワークについて

紙皿を使って、リースの形をしたみ言葉のカードを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 周囲の反応を考えた時に、マリヤの決心はとも勇気がいることでした。しかし、「主のはしめ」にすぎないとの謙遜と明け渡し、「主が共におられる」との約束を信じる信仰が、この決心へと導きました。

●質問3 神様のご計画は、マリヤのように信仰によって従う人々と共に進められていきます。「主が共におられる」との約束のゆえに恐れることなくマリヤの信仰にならうよう励ましましょう。

ワーク C

●み言葉そのものを中心に進めていきます。

●第2問 天使ガブリエルの言葉をそのまま記してあります。重要で自覚してほしい部分を四角マスにしていますので、聖書を開いて確認しながら書き込んでください。

●第3問 マリヤは信じ受け入れましたが、理性や常識において理解していたわけではないでしょう。理性的、体験的に納得し理解すること、理解を超えて信頼し受け入れることの違いを話し合います。

●第4問 天使ガブリエルのみ告げを受けて、マリヤが告白した信頼と服従の言葉(38節)を書きます。人間側から言えば、マリヤがこの言葉を言うことができたからこそ、救いのみわざがスタートしたとも言えます。

ワーク D

●この時のマリヤの年齢が11、13歳位だったとしたら、分級のお友だちと同年齢位でしょうか。天使のみ告げに胸騒ぎのしたマリヤ。まだ成人にもならない小さな子どもたちに、神様は「おめでとう」と語られるかも知れません。

●質問に答えていきましょう。模範解答をする必要のない、リラックスした雰囲気があると、子どもたちは答えやすいでしょう。

中高科へのヒント

●観察してみよう

- 6か月目とは、何から計算してのことでしょうか。(エリサベツが妊娠してから/24節)
- マリヤはどういう立場の人でしょうか。(ダビデ家の出身であるヨセフの婚約者/27節)
- 処女のまま、しかも、救い主を生むようになるという御使いの言葉を、マリヤはどのように感じているでしょうか。(戸惑い、恐れ/34節)
- 御使いは、マリヤを信じさせようとしてどんなことを言っていますか。(36、37節)

●考えてみよう

- この奇跡の鍵となる働きはどんなことでしょうか。(聖霊がマリヤに臨んだこと/35節)
- マリヤが、戸惑いや恐れをなぜ乗り越えることができたのでしょうか。(主と共にいる、全能の方であると確信できたから/28、37節)
- なぜイエス様は、人間から生まれなければならなかったのでしょうか。(人間となるため)
- 自分に当てはめてみよう
- あなたがマリヤだったとしたら、どんな反応を示したか想像してみよう。
- 神様はあなたにも28節のように語っておられると信じますか。
- マリヤは救い主誕生のために用いられました。あなたはどのように用いられたと思いますか。
- あなたも「お言葉どおりこの身に成りますように」と祈ってみませんか。



# 聖書 ルカ2・1～12 テーマ すべての民に (アドベント第3週)

## 序論

(金井)

力が支配する世界の現実を、私たちは日々目の当たりにしている。軍事力、政治力、経済力、技術力、学力、体力、その他様々な力によって、この世の価値は決定される。それゆえ、力ある者となることに誰もがあこがれる。しかし、最も力のある方は、最も力無き赤子となつて人の世に来てくださった。その意味を共に学びたい。

## 一、無力な者たちに

今からおよそ2千年前、イエスが誕生された頃、地中海世界はローマ帝国が支配していた。カエサル暗殺後に覇権を握ったオクタヴィアヌスは、紀元前27年に「アウグスト」(尊厳者)の称号を得て、初代皇帝として君臨した。彼は「全世界の人口調査をせよとの勅令」を出した。人民を帝国の徴税、徴兵システムに組み込んで、支配するためである。ローマの貴族クレニオは、紀元前11年頃から軍事的にキリキヤ地方とシリヤ地方を制圧していた。シリヤ州の一部であるユダヤ、ガリラヤとその周辺は、イドマヤ人へロデが、ローマの後ろ盾を得て王となり、紀元前40年から紀元前4年まで支配した。

このような権力者たちの多重支配の下では、民衆は実に無力である。人々は命じられるままに、自分の出身地に行かなければならなかった。マリヤは、婚約者のヨセフが「ダビデの家系」であり、またその血統であつたため、「ガリラヤの町ナ

ザレから、ユダヤのベツレヘム」まで、百数十キロの旅をしなければならなかった。出産間近い大きなお腹を抱えて、起伏の多い道を旅するのはつらかつただろう。しかも、ベツレヘムでは人々の大移動のため、人客間には彼らのいる余地がなかった。ヨセフとマリヤは家畜部屋に泊まる他なかった。ベツレヘムは人口数百人の小村のため、宿屋は無かつたようである。家族の居室と客間と家畜部屋は一つ屋根の下にあつた。

この旅路において生まれた主イエスは、「まぐらする所がない」(ルカ9・58)旅人の生活を送り、寄る辺なき無力な人々の労苦を共に味わつて下さつたお方である。

## 二、疎外された者たちに

イエスが誕生された時、町の騒がしさをよそに、郊外の野原で野宿している者たちがいた。羊飼いたちである。羊飼いは牧羊のために神殿礼拝に参加することができない。野宿するために家の女性たちを守るができない。他人の土地に生えている草を自分の羊に食べさせている。このような理由によって、彼らはユダヤ人から罪人としてべつ視され、社会から疎外されていた。彼らは住民登録の対象にもされていなかったのである。

ところが、この羊飼いたちに天使が現れて言つた、「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになつた。このかたこそ主なるキリストである」。天使が最初にキリスト来臨の「福音を宣べ伝え」(伝える)の原意)たのは、宮殿にいる王でも、神殿

に在る祭司でも、会堂にいる律法学者でもなく、野原にいる羊飼いたちであつた。キリストは失われた罪人を捜し出して、救うために来られた救い主である(ルカ5・32、19・10)。

## 三、すべての民に

当時、皇帝は「ローマの平和(パクス・ローマナ)」をもたらした「救い主」「主」「平和の君」「国父」「神」であると教えられ、人々は崇拜を強要されていた。ユダヤ人はこれに激しく反発し、軍事的、政治的解放者「キリスト」を待望していた。

しかし、天使は告げた、「あなたがたは、幼な子が布にくるまって飼葉おけの中に寝かしてあるのを見るであろう。それが、あなたがたに与えられるしるしである」。飼葉おけは、農民たちも出産によく利用していたが、それにしても、これがキリストの「しるし」とは、

栄光に輝く「主」(ヤハウェ)なる「キリスト」は、実に貧しい姿で人の世に降られた。イエスは社会の底辺に至るまで「すべての民」と「共にいます」(マタイ1・23)「救主」である。

## 結論

天地の主である神の御子は、小さな赤子となつて世に來られた。イエスは、神から離れて社会の周辺に漂う心寂しき罪人の友となられた。主の愛はなんと謙そんなものか。暗く汚い家畜部屋に生まれたキリストは、私たちの心にも宿つてくださる。このすばらしい救い主をすべての民に伝えよう。

## 研究資料

(足立)

ルカは私たち読者に、ダビデの町に生まれた子(2・4、11)が、ユダヤ人によるメシヤ待望の成就であることを伝えている。また2・1～3にある歴史的記述は、偶然の出来事としてではなく神がこの世にどう介入されるかを示している。イエス・キリストの誕生はあまりにも素朴で、メシヤが動物小屋で生まれたとは、実に逆説的な神の真理提示である。

## テキスト

1 皇帝アウグスト アウグストとは、尊厳者の意味。本名ガイウス・オクタヴィアヌスで、紀元前27年～紀元14年までローマ皇帝として在位した。ローマ帝国初代皇帝。彼の後はティベリウス(3・1)が引き継いだ。全世界の人口調査をせよ、この人口調査は徴税のためであつた。全世界とは、ローマ帝国全土のこと。

2 最初の人口調査 最初の「と訳されている言葉(プロテ)は、「以前の」、「先立つ」とも訳せる語である。この場合ルカは、イエス誕生の際の人口調査は、ローマ人がよく承知しているシリヤの総督クレニオが、実施した人口調査より以前のものと、主張していることになる。当時の人口調査は、開始から終了までかなりの期間を要したのではないかと考えられる。

3 自分の町 これはその人の先祖代々の家を意味する。

4 救い主は、ダビデの家系、またその血統から、ダビデの町で生まれる(ルカ1・27、32、69)。

5 身重の妻マリヤにとつては、大変危険な行動。ミカ5・2の成就。神の御子誕生の記述は極めてシンプル。

7 救い主の誕生は、出産に適した場所ではなかった。その生涯は最初から閉め出し。

8 救い主誕生のニュースは、社会的には卑しいとされていた羊飼いたちに真つ先に届けられた。(参照1・52、7・22)。当時一般的に羊飼いたちは不誠実なものと思なされ、彼らは社会の部外者であつた。野宿しながら羊の群れの番をしていた彼らは通常3月から11月までの期間、群れとともに野原に出ていた。

9 天からの声明は御使いの到来とともに始まっている(1・13～20、28～37)。この指針の構造は、「1」御使いの出現(9)、「2」恐れによる応答(9)、「3」保証の言葉(10)、「4」聖なるメッセージ(11)、「5」しるしの提供(12)となっている。欠けているのは、しるしへの異議と要求(参照1・13～20)。メッセンジャーは羊飼いたちの回りに、主の栄光をもたらした。栄光(ドクサ)は、ヘブル語カボツドに關係している。それは神の臨在の顕現であり、威厳ある主の現われそのものである(出エジプト16・7、10、24・17、40・34、詩篇63・2、イザヤ40・5、エゼキエル1章等)。この栄光はイエスご自身とも深く結びついている(ルカ9・30～31、ヨハネ1・14、使徒7・55)。

10 恐れるな 聖書に出てくる励ましの言葉(ルカ1・13、30、5・10、8・50)。喜びを伝える(ユアンゲリゾマイ)とは、良い知らせを公に宣言するという意味。この動詞は本福音書に集中している。この知らせに応答することにより、

大きな喜びが与えられる。そして、この喜びは、すべての民に提供される。

11 きょう イエスによる救いの時代の始まり(参照ルカ4・21、5・26、13・32～33、19・9、23・43)。

ダビデの町に これはマリヤの子どもが救主としての役割を果たすことに注意を向けているのであろう(参照1・27)。救い主としてのイエスの役割は、「主」と「キリスト」という称号によって適格にあらわされている。これらの称号の結びつきはユニークなもの。救い主、キリスト、そして、主という結びつきは、他の新約聖書の本文には登場しない。救い主(ソテール)とは、古代ギリシヤ、ローマ時代にしばしば神々や王たち、皇帝、哲学者、医者などに用いられた称号。しかし、御使いは、イエスこそ真の救い主であると告げる。キリスト(クリストス)は、ヘブル語マシーアハに由来し、油注がれた者を意味する。主(キュリオス)は、ヘブル語ヤーウエを指す旧約用語であるが、絶対的な主権と神性の關係を意味する。ここで御使いは、みどりごを「救い主」、「キリスト」、「主」という三重の称号で呼び、その至高性と神性を宣言している。

12 救い主誕生のしるしとは、飼葉おけの中に寝かしてある赤子である。これは救い主なる神が地上の最も低いところに下つて來られたという大いなる謙遜を示すと同時に、羊飼いたちにとつては自分たちとの接点ともなる。

参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』(SGSのうた社)、Bock, D. L., Luke 1・1～9・50 (Baker). Stein, R. H., Luke (Broadman)。

聖書 ルカ2・1〜12  
タイトル すべての人へのクリスマス  
中心聖句 見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。  
ルカ2・10  
目標 大きな喜びの知らせはすべての人々のためであることを知る。

導入

(長谷川)

3 本目のろうそくに火がともりました。今日は第3アドベントです。クリスマスが近くなりました。毎日がとても待ち遠しいですね。

今は、町中がクリスマスを祝いしているように思えますが、本当の意味を知って、自分のためのクリスマスだと信じてお祝いしている人はまだまじ少ないと言えますね。

今日は、クリスマスは誰のためにあるのかを考えてみましょう。

家畜小屋のイエス様

あなたはどこで生まれましたか？とみなさんもよく聞かれるでしょうね。ほとんどのお友だちが「〇〇病院です」と答えると思います。まさか「家畜小屋」と答える人は誰もいないと思うのです。ところが、イエス様の答えはそうだったのです。しかもそれは神の子、待ちに待たれた救い主イエス様だと言うのに。

マリヤとヨセフはマリヤの出産が近づいたころ、ヨセフの故郷であるベツレヘムへ行って人口調査

の登録をしなければならなくなりました。住んでいたナザレという町からは百数十キロもある道のりでした。当時ユダヤの国を治めていたローマ帝国の命令ですから誰もが従わなければなりません。長い長い旅はヨセフとマリヤ、そして、マリヤのお腹におられた赤ちゃんイエス様にとっても大変なことだったでしょう。

やっとたどりついたベツレヘムの町は名前を登録する人であふれていました。小さな町ですから、十分な宿屋なんてありません。結局、ヨセフとマリヤに与えられた宿は「家畜小屋」でした。そこで、イエス様は誕生されました。

世界で初めてのクリスマスは、「家畜小屋」でした。でも、きつと、そこは光り輝いた素晴らしい場所だったことでしょう。神の子イエス様が、赤ちゃんとして誕生された場所だったからです。

誕生の知らせは羊飼いに

イエス様誕生のビッグ・ニュースはまず誰に、そして何によって知らされたのでしょうか。今なら、世界中の最新ニュースがテレビやインターネットで、あっという間に報告されますが、2千年前のこと、そういう伝達方法は何もありませんでした。

ところが、この最新ニュースが、広い野原で野宿しながら羊の群の番をしていた羊飼いたちに、しかも、天使が伝えに来てくれたのでした。これは、驚くべきことです。

当時の羊飼いは、貧しく、他の人々からあまりよく思われていない立場の人々でした。でも、神様は、立場が弱くても一生懸命生きている羊飼いたちに目を注いでくださり、イエス様誕生のビッグ

グ・ニュースを一番最初に告げてくださいました。天使は羊飼いにこう告げました。「恐れるな。見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。きょうダビデの町に、あなたがたのために救主がお生れになった。このかたこそ主なるキリストである」(10節)と。

羊飼いたちはびっくりしたことでしよう。「あなたがたに伝える」と言われて、感激しました。しかも、救い主イエス様は「すべての民に与えられる大きな喜び」であることを告げられてとてもとてもうれしかったでしょう。

まとめ

神の子であるにもかかわらず、イエス様がわざわざ「家畜小屋」で誕生してくださったこと、一番さげすまれていた「羊飼いに」最初のうれしいニュースが伝えられたこと、これらのことは全て、「神様の愛の考え」から出たことでした。

偉い人だけのため、地位や名誉や財産のある人だけのためのイエス様ではなく、「すべての人」の救い主イエス様であることを示すために「わざわざ」そうしてくださったのでした。

ですから、クリスマスは「すべての人」つまり、「全世界の人々」のための喜びなのです。子どもも大人も「全員のため」のクリスマスなのです。今年のクリスマスが、たくさんの人々にとって「本当のクリスマス」になるようにお祈りしつつ、みなさんを教会にお誘いしましょうね。

♪神のお子イエスさまは、ねむりたもう おとなしく、かいばおけのなかにても うたぬわらのうえにても♪ (教会学校せいか27)

ワーク A

話し方のヒント

救い主イエス様がお生まれになったというお知らせは、まず羊飼いたちに伝えられました。神様は、貧しくて弱い立場の人たちのことも、心に留めていてくださるお方なのですね。世界中には、まだクリスマスの本当の意味を知らない人がたくさんいます。イエス様は、すべての人のために生まれてくださいました。クリスマスが世界中の人のための喜びであることを、回りのお友だちにも伝えましょう。

ワークについて  
クリスマスツリーの壁掛けを作りましょう。

ワーク B

質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

質問2 イエス様の降誕の出来事の一つ一つにイエス様が、どのような救い主であるかが示されています。

質問3 クリスマスがすべての人のためであることは、ひとりひとりのためであり、また自分だけのためではないということでもあります。この喜びの知らせを、自分のものとして受け止め、また、この喜びは他者に伝えるべきものであることを教えましょう。  
福音を伝えたい人のために一緒に祈ってあげましょう。

ワーク C

第2問 「すべての人に与えられる大きな喜び」とは何かを、11〜12節のみ言葉から確認します。

聖書を開きながら書き込んでいきます。

第3問 創造主、保持者、支配者である神様ご自身が「救い主」となるために、どれほどへりくだられたかを、感じ取りましょう。(1) 宮殿、御殿、最新の病院…など、(2) 「赤ちゃん」(家畜小屋)「飼葉おけ」(3) 「王、権力者、学者、金持ちなど」ではなく、「身分の低いさげすまれていた羊飼いに」伝えられたこと。

第4問 このことが「あなた」のため、また「すべての人」の救いとなることを確認します。

《共通事項》

質問の答えは、解説にも記していますが、次の質問文の中に、前の質問の答えが含まれているように工夫しています。これは、話しの流れが自然になるためと、生徒が自分で答えを発見した、という自覚の中に導きたいからです。

文章や漢字のレベルが、小学校中学年にとつては難しいことがあります。ワークは教師の指導と会話の中に進めていくので、どうぞ、そういう点は会話しながら教えてあげてください。

ワーク D

質問は3つですが、2の質問に少し時間をかけてみませんか？いろいろな意見が出てほしいと思います。まずは、意見を否定しないで聞きましょう。「くんは〜と思うんだね」と否定されないと、受け止めてもらえたという満足感を覚えるでしょう。

来週のクリスマスにお友だちを誘っていっしょにお祝いができると素敵ですね。

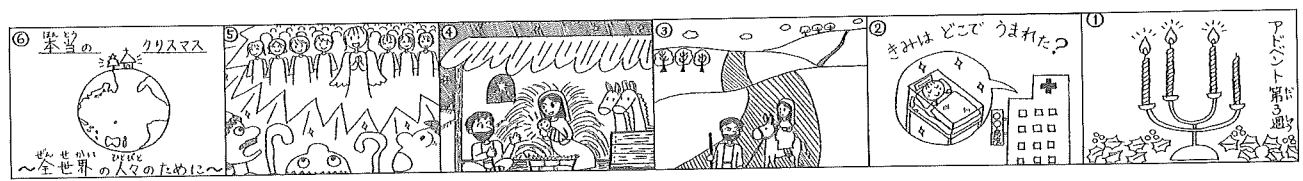
中高校へのヒント

観察してみよう

- 1 イエス様の生まれた場所は、どんな所だったでしょうか。(家畜用の飼葉おけの中／7節)
- 2 御使いがイエス様の誕生を伝えた相手は、どんな人だったでしょうか。(羊飼いたち／8節)
- 3 羊飼いたちの最初の反応はどんなものだったでしょうか。(非常に恐れた／9節)
- 4 御使いは、イエス様の誕生が何をもたらすと言っているでしょうか。(大きな喜び／10節)

考えてみよう

- 1 出産間近の体で長旅をし、客間にも入れなかったマリヤのことを想像してみましょう。
  - 2 救い主の誕生の知らせが、まず、貧しく名もない羊飼いたちに知らされたことをどう思いますか。
  - 3 救い主が飼葉おけの中に生まれたことをどう思いますか。
  - 4 神であるイエス様が、人間になって生まれてくださったことをどう思いますか。
- 自分にとっては何でしょうか
- 1 あなたがこの羊飼いだったら、この出来事をどのように受け止めたと思いますか。
  - 2 あなたの心には、イエス様の「いる余地」がありますか。
  - 3 「今日」イエス様を、信仰によってあなたの心の中に迎え入れましたか。
  - 4 あなたにとって、救い主誕生は「大きな喜び」でしょうか。



# 聖書 ルカ2・13～20

## テーマ クリスマスのさんび

### (クリスマス)

#### 序論

(金井)

クリスマスは大いに神を賛美すべき時である。ルカによる福音書のクリスマス物語には賛美が満ちている。天地万物を創造された独り子なる神が人間となって世に來られた。これは本来有り得ないことである。しかし、そこまでしなければ滅び行く人類は救われようがなかった。十字架の死、御父との断絶、よみへの降下、すべてを知りつつ父なる神は御子を遣わされた。御父の痛みはいかばかりであったか。キリストによる救いの尊さを、羊飼いたちの姿から学びたい。

#### 一、闇から光へ

キリストが降誕された夜、ベツレヘム郊外の野原では羊飼いたちが野宿していた。町では大勢の人々が住民登録のために、にぎやかに動き回っている。それなのに、自分たちは蚊帳の外。人の数にさえ入れられないのか、おれたちは……。深い暗やみは、彼らの心情を象徴しているようである。しかし、そこに突然、天使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照らした。彼らに大きな喜びの知らせが伝えられた。今夜、救い主が誕生されたのである。この天使におびただしい天の軍勢が加わって一緒に神を賛美した、へいと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心になう人々に平和があるように。このまばゆい光景に羊飼いたちは圧倒された。

#### 研究資料

(足立)

ベツレヘムでの御子キリストの降誕は、人類に対する神の最も重要な行為の始まりであった。その出来事の中で、御使いが羊飼いたちと言葉交わす最大のポイント、貧しい人々への天の証言である。ここで羊飼いたちは、人類そのものを表しているように思える。御使いから、御子誕生にまつわる天国の証言を聞いた彼らは、見事に応答し、御子を見に行く。彼らはみ言葉の約束成就に伴う天の喜びを分かち合う。羊飼いたちは、見て、聞いて、証しする。そして、イエスにあって天と地とが1つとなる。

一方マリヤは、誠実な一信仰者の姿をあらわしている。彼女はその出来事を見て、その意味を深察する。また、起こったことすべてを理解しようと取り組んでいる。1・31で御使いによつてあらわされた名前を、その子どもにつけようとするところからして、彼女が忠実な信仰者であることが分かる。クリスマスは、私たち信仰者に、御子キリストへの具体的な応答を求めている。

#### テキスト

13 するとたちまち、おびただしい天の軍勢が現われ (比較、列王上22・19、エレミヤ19・3、ダニエル8・10、歴代下33・3、5、参照、黙示録19・1～2、6～8、ネヘミヤ9・6)。**神をさんびして** とは、信仰者だけではなく神の被造物すべてによる適切な応答である (ルカ2・20、

そして、御使いたちが天に帰った後も、彼らの心に希望の光が残った。彼らは互いに語り合った、へさあ、ベツレヘムへ行つて、主がお知らせ下さったその出来事を見てみようではないか。

主の栄光に照らされ、福音を聴いて、ベツレヘムの町へと駆けていく羊飼いたちの姿は、ザカリヤの預言に符合している。「そのあわれみによつて、日の光が上からわたしたちに臨み、暗黒と死の陰とに住む者を照し、わたしたちの足を平和の道へ導くであろう」(1・78～79)。

#### 二、恐れから喜びへ

天使が現れ、主の栄光に照らされた時、羊飼いたちは「非常に恐れた」(9)。聖所で仕えていた祭司ザカリヤでさえ恐れたのだから(1・12)、罪人として宗教社会から疎外されてきた羊飼いたちが、極度に恐れを感じたのは当然であろう。

主の栄光に照らされる時、人は恐れざるを得ない。至聖なる神に対して、私たち人間は皆、罪人に過ぎず、神の光は人間の汚れた実相をすべて明るみに出すからである。これは多くの人が体験したことである(イザヤ6・5)。

しかし、天使は羊飼いたちに「恐れるな」と言う(10)。罪人である彼らのために、救い主が誕生された。天使は「大きな喜び」を伝えたのである。羊飼いたちはへマリヤとヨセフ、また飼葉おけに寝かしてある幼な子を探しあてた。彼らは大きな喜びを感じ、へ神をあがめ、またさんびしながら帰って行った。

19・37、24・53、使徒2・47、3・8～9、参照、詩篇148・1～4。

14 **いと高きところでは、神に栄光があるように** これは天国への言及であつて(参照19・38)、上層階級を指すのではない。イエスの栄光に関しては以下の箇所を参照(ルカ9・26、32、21・27、24・26)。**平和** とは、ここでは救い主なる主キリストがもたらす最高の祝福について言及しており(イザヤ52・7、57・19)、本質的には救いに関する同義語である(参照使徒10・36)。したがって平和とは、神と人間との間の平和を意味し、人間の罪が原因である仲たがいを神がいやすことである。**みこころにかなう人々** とあるが、これも誰が神を選ぶかということではなく、神が選んだ人というところに強調点がある。

15 **その出来事**(トレーマ)とは、字義的には「この言葉」である。しかし、ここではルカ1・4にある「事」(ロゴーン)や、使徒10・37にある「福音」(レーマ、新改訳は「事から」)から考えて、この出来事を意味している。**主がお知らせ下さった** とある。ここには御使いの仲介は言及されておらず、啓示の究極的な源だけが記されている。

16 **そして急いで行って** 羊飼いたちが実際使う時間以上に、彼らの従順さを強調しているのである(参照1・39)。**飼葉おけに寝かしてある幼子** とは、御使いの預言どおりに(2・12)、赤子が発見されたことを伝えている。

17 **告げ知らされた事**(トウレーマトス)とは、告げ知らされたそのことを意味する。**人々に**

#### 三、孤独から交わりへ

へ幼な子であるキリストに会った羊飼いたちはへこの子について自分たちに告げ知らされた事を、人々に伝えた。人々はみな、羊飼いたちが話してくれたことを聞いて、不思議に思つた。これまで羊飼いたちは、町の人々の交わりから疎外されていた。しかし、今や彼らは町の人々に積極的に関わっている。福音を受けた者は、福音を伝えずにはいられない。隔ての壁を破つてでも!

キリストの福音は信じる者に靈的な変化をもたらすものであるが、その変化はさらに、心理的、社会的な変化へとつながっていく。孤独の殻は破られ、新しい交わりの関係が生まれる。福音は、神と人の間に和解をもたらすばかりでなく、人と人の間にもへ平和をもたらし得るものである。

キリストは、人と人の間にある隔ての壁を破るために世に來られた。その御業は、キリストが生まれたばかりのへ幼な子から始められていた。なんとすばらしい、驚くべき救い主だろうか!

#### 結論

御子キリストに出会う時、人はやみから光へ移され、恐れは喜びに変えられ、隔ての壁が破られて交わりを楽しむ者とされる。人間は本来、神の栄光を表すべく、神のかたちに造られている。破損した神のかたちが回復され、人間が人間としての尊厳と喜びをもって生きるようになること、これが神の救いの計画である。この愛に満ちた偉大な神を知る時、人は皆このお方を賛美せうにいらなくなる。救いの神を力いっぱい賛美しよう!

伝えた とあるが、マリヤとヨセフはもちろんのこと、おそらくベツレヘムの住民にも伝達されたであろう。ある意味で世界最初の伝道者は、社会から疎外されていた羊飼いたちであつた。

18 羊飼いたちが伝える救い主のメッセージを聞いた人々は、**不思議に思つた**。ルカ1章、2章には、しばしば不思議や驚きの応答が起こっている(1・21、63、2・33)。これらは神の行為や啓示に出くわした人々の驚きを反映している(参照、4・22、7・9、8・25、9・43、11・14、38、20・26、24・12、41、使徒2・7、3・12、4・13、7・31、13・41)。

19 **これらの事をことごとく心に留めた** これは字義的には、「これらのことはすべてを保存した」となる。すなわち、その出来事における羊飼いたちの到着と、彼らがマリヤに語った事に関して。20 羊飼いたちは御使いが言つたとおりにそのみどり子を見た。それゆえ彼らは、御使いたちが語つたメッセージに対して、**神をあがめ、またさんびしながら帰っていった**。この頌榮のスピリットは、力強い神のみわざに対する適切なレスポンス(応答)である(参照、5・25～26、7・16、13・13、17・15、18・43、23・47)。

参考図書 熊谷徹「ルカの福音書」『実用聖書注解』(いのちのことば社)。

Bock, D. L., Luke 1:1-9:50 (Baker).  
Evans, C. A., Luke (Hendrickson).  
Morris, L., Luke (IVP).  
Stein, R. H., Luke (Broadman).

聖書 ルカ2・13〜20  
テーマ クリスマスのさんび  
中心聖句 いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心になう人々に平和があるように。  
ルカ2・14  
目標 御使いたちの賛美を共に歌おう。

導入

(長谷川)

4本目のろうそくに火がともりました。今日はクリスマス。おめでとうございます。イエス様が救い主としてお生まれくださったクリスマス、心からお祝いし、心から感謝しましょう。  
先週の礼拝で、イエス様は家畜小屋で誕生されたこと、最初にそのうれしいニュースを教えてもらったのは野原の羊飼いたちであつたことを学びましたね。今日は、その羊飼いたちの様子についてくわしく学びましょう。

羊飼いの見たこと

イエス様が誕生して下さった夜、ベツレヘムの近くの野原では羊飼いたちが羊の番をしていました。夜通し羊のお世話をしていたのです。  
そこに、突然、天から御使いたちが現われ、天の栄光の光が辺り一面に光り輝きました。それはすごい明るさだつたことでしょう。羊飼いたちは「彼らは非常に恐れた」(9節)とあるように、ふるえながら地面に顔を伏せていたのです。

羊飼いの聞いたこと

恐れていた羊飼いたちに御使いは「恐れるな」とまず声をかけてくださり、続いて、救い主イエス様誕生の大きなニュースを告げてくださいました。  
その大きなニュースの内容は3つでした。それは、(1)クリスマスは、すべての民に与えられる大きな喜び。(2)きょうダビデの町に、すべての人のために救い主がお生まれになった。この方こそ救い主。(3)幼な子は布にくるまって飼葉おけの中に寝かせてある。これが救い主の証拠。ということでした。  
すごいニュースを聞いた羊飼いたちは、ただただ驚いていたと思います。そこへまた、大勢の御使いが現われて、賛美の大合唱が始まりました。「いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心になう人々に平和があるように」(14節)と言う賛美でした。天にも地にも大きく響いていたでしょうね。きつと、遠くまで響いて、みんなが感動していたと思います。

羊飼いのしたこと

素晴らしいニュースと賛美の大合唱を聞いたあと、羊飼いたちはどうしたでしょう。  
羊飼いたちは「さあ、ベツレヘムへ行つて、主がお知らせ下さったその出来事を見てみようではないか」(15節)と言って、早速暗い夜道を、イエス様を訪ねるために走り出しました。羊飼いたちはとてもうれしかったことでしょう。聖書には「急いで行つて」とわざわざ書いてあります。

そして、御使いの教えてくれたとおり、「飼葉おけに寝かしてある幼な子を探しあてた」(16節)のでした。喜びが伝わって来そうですね。

その後、羊飼いたちのしたことが2つありました。1つは、「町の人々にイエス様誕生のニュースを知らせた」(17節)。もう1つは、「見聞きしたことが何もかも自分たちに語られたとおりだったので、神をあがめ、またさんびし」(20節)たことでした。羊飼いたちは、イエス様のことを伝え、神様をあがめ、さんびしたのでした。

まとめ

今日は、クリスマスには忘れてはならない登場人物である「羊飼い」のクリスマスを学びました。2千年前のベツレヘムの野原と家畜小屋の出来事は「何もかも」「本当のこと」でした。羊飼いが聖書に証言を残してくれているのでそのことがよくわかりました。

2004年のクリスマスをお祝いしている私たちのすべきことは何でしょうか。それは、まだイエス様が救い主であることを知らない人々に、イエス様をお伝えすること、一生をかけて、神様をあがめ、神様を賛美(ほめたたえる)していくことです。  
今日は19日、まだまだクリスマスの喜びをお伝え出来ます。本当のクリスマスを大勢のお友だちと賛美できるようお誘いしていきますね。  
♪不思議なひかりが空をてらし 野原のまきびとおどろいて み使い教えたベツレヘムへ イエスさまおがみにかけました♪ (友よ歌おう14)

ワーク A

話し方のヒント

大勢の御使いたちの大合唱は、どんなにすばらしかったことでしょう。それを聞くことができた羊飼いたちは、本当に幸せですね。でも彼らは、ただ聞いて終わつたではありませんでした。お生まれになったイエス様に会いに行つてから、その出来事を人々に知らせ、そして、神さまをほめたたえました。私たちも、羊飼いたちのようにクリスマスの出来事を人々にお知らせしましょう。  
ワークについて

羊飼いと羊の形をした写真たてを作ります。顔の部分は、各自で書きましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。  
●質問2 天使たちは、野原で羊の番をしている羊飼いたちに、すべての民の大きな喜びであるイエス様のお誕生を知らせました。ダビデの町に救い主が生まれ、飼葉おけの中に寝かせてあるということです。天使たちは神様を賛美しました。

●質問3 羊飼いは、天使から聞いたことが本当だつたと、町の人々に伝えました。私たちも、ひとりでも多くの人にこの知らせをお伝えし、共に神様を賛美しましょう。

ワーク C

●第2問 本日のみ言葉の中にある「みころにかなう人々」にあてはまるのは、②、④、⑥です。以下、特に「②貧しい羊飼」を取り上げます。

●第3問 貧しさは①③のどれも用いますが、聖書の中の羊飼いの貧しさは③の意味としてとれます。

●第4問 この貧しさを明記しているマタイ5・3を書きます。

●第5問 この貧しさがあつてこそ、救い主の誕生を喜び賛美することが出来ます。

《共通事項》

●質問の答えは、解説にも記していますが、次の質問文の中に、前の質問の答えが含まれているように工夫しています。これは、話しの流れが自然になるためと、生徒が自分で答えを発見した、という自覚の中に導きたいからです。

●文章や漢字のレベルが、小学校中学年にとつては難しいことがあります。ワークは教師の指導と会話の中に進めていくので、どうぞ、そういう点は会話しながら教えてあげてください。

ワーク D

●6つの場面に分けて、羊飼いたちが経験したことを詳しく見ていきたいと思います。彼らが見たもの、聞いたもの、したことは何か、そうしていくうちにそのニュースが羊飼いたちから直接聞いたように具体的に知らされていくでしょう。羊飼いたちの思いが変化していく様子も感じとれると思います。

●チャレンジコーナーでは自分のしたいことを書いて、その後自分の気持ちも書きます。

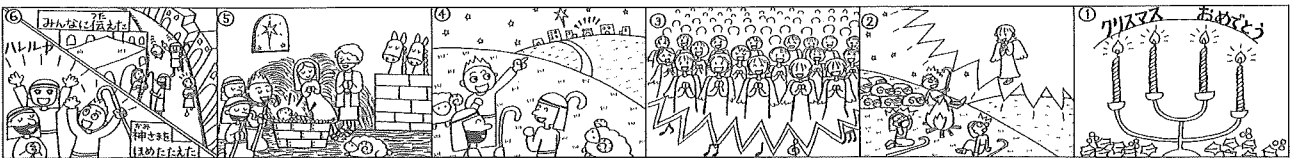
中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 御使いたちの賛美はどんな内容ですか。
- 2 羊飼いたちは幼な子を探し当てたあと、何をしていますか。
- 3 羊飼いたちの話を聞いた人々は、どう思ったと書いてありますか。
- 4 マリヤはどう思ったと書いてありますか。
- 5 羊飼いたちは、羊のところへ帰って行くとき、何をしていますか。(賛美している/20節)

考えてみよう

- 1 羊飼いたちの心は、御使いが現れる前と後とではどのように変化したと思いますか。(答えの例/救い主誕生の喜びにあふれた)
- 2 御使いたちによる夜空いっぱいの賛美と、それを聞いた数人の羊飼いたちというコントラストを想像してみよう。
- 3 御使いの言葉どおりに救い主を探し当てたとき、羊飼いたちはどんな気持ちだつたと思いますか。(答えの例/不思議、驚き、喜びなど)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 羊飼いたちは人々から軽く見られていましたが、神様からは覚えられていました。あなたも神様から覚えられていると信じますか。
- 2 あなたは神様と「平和」の関係にありますか。当時、生まれたばかりのイエス様を探し当てたのは、わずかな人でした。あなたもその一人であるならば、誰かに伝えたいと思いませんか。



聖書 ローマ5・1～11  
テーマ 神を喜ぶ

## 序論

(鎌野)

今年度カリキュラムは「愛に生きる」「信仰に生きる」という期題のもとに進んできたが、12月からは「希望に生きる」という期題にそって学び始めた。クリスマス・シリーズ終了後の今週は、今までの流れをまとめ、発展させるテキストが選ばれている。これはまた、1年の最後を飾るにふさわしい箇所でもあろう。パウロは、愛・信仰・希望は、「いつまでも存続するもの」(1コリント13・13)と記し、キリスト者の生活に喜びをもたらす原則であると確信していた。では、これらのものは、どのような形で喜びをもたらすのだろうか。

## 一、信仰ゆえの喜び

パウロは1章～4章において、すべての人が罪人であるゆえ、「イエス・キリストを信じる信仰による神の義」(3・22)以外に、人を滅びから救い出すものはないと述べてきた。これは「信仰義認」と言われるが、その結果としてへわしたたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている√と、パウロは明言する。罪を犯している者は、たといそれに気がついていなくても、義なる神に敵対している。「自分を裁く神などいない」とうそぶく者は明確な反逆者だし、罪のゆえに良心の責めを感じる者は、心に平和を持つことはできない。神は彼らに対して怒っておられるのである。しかし、どんな罪人であっても、キリストを信じ

るだけでその罪は赦され、神は彼らを何の罪もない者と認めてくださる。何とうれしいことか。これが信仰ゆえの喜びである。

「全く無罪とされ義とされて神と和らぐことのできたのは、クリスチャン信仰の基礎をなす。問題は人と神との関係である。これはキリスト教の特異性、唯一性である」(『小島伊助全集』3巻265頁)。だが信仰ゆえの喜びは、出発点である。

## 二、希望ゆえの喜び

△この恵みに信仰によって導き入れられ√た者は、さらに△神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる√。過去の罪が赦されただけでなく、未来において、神の栄光の姿と同じものに変えられていくのだ。これが「神の子たちの栄光の自由に入る望み」(8・21)である。神が、私たちを「御子のかたちに似たもの」としようとして、あらかじめ定めて下さった(8・29)ことを忘れてはならない。何と喜ばしいことだろうか。

この希望をもつキリスト者は、△患難をも喜んでいる√。なぜなら、患難は忍耐を、忍耐は錬達(新改訳では「練られた品性」)を生み出すからである。つまり、苦しみの中で品性が整えられ、御子イエスに似た者へと変えられていくのだ。このことを経験すると、希望はさらに強くなる。△そして、希望は失望に終ることはない√。しんきろうのように、ないものがあるように見えるのではなく、確実にあるものが示されている。今週から3月末まで、この確実な希望を学んでいくのだ。希望をもつ人は、確かに変わっていくのだから。

## 三、愛ゆえの喜び

希望がどれほど確実かを示すために、パウロは△なぜなら：聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである√と言う。私たちが△弱かったころ√、すなわち△まだ罪人であった時√、キリストは私たちのために死んでくださった。もし、私たちが律法を謹厳実直に守っている△正しい人√であっても、私たちのために死ぬ人はほとんどいないだろう。暖かく人に接する△善人√であつたら、あるいはいるかもしれない。しかし、△わたしたちが敵であつた時√に、キリストは死んでくださった。ここに、神の愛が明確に示されている。

△今は義とされているのだから√、将来、すべての者が裁かれるときでも、△なおさら、：神の怒りから救われる√。過去に罪人だった時でさえ憐れみを受けたのだから、△和解を受けている今は、なおさら：救われる√。今、現在において神の愛を実感しているなら、将来の希望はさらに確実なものになる。だから△今や和解を得させて下さったわたしたちの主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである√。

## 結論

過去においては、信仰によって義とされた。将来においては、栄光の姿に変えられる。そして、現在は神の愛の中で生活させていただいている。これこそ、キリスト者の喜びである。この1年を振り返って、様々な目に見える祝福も与えられたであろう。しかし、本当に大切なのは、祝福の源である神ご自身を喜ぶことである。

## 研究資料

(足立)

ローマ5・1～11によると、信仰によって義とされた人に約束されたのちは、神との平和に特徴づけられたものであることがわかる(5・1、10、11)。またこの箇所は、以下のことを称賛すべき真理として断言している。すなわち神の罪人への不相应な愛は、キリストを通して私たちが神に敵対する存在から、神との平和を持つ存在、神の友としての存在へと移したと言うこと。

一方パウロが言及する和解(5・10、11)という概念は、単純に義認と同等に理解されるべきものではなく、また義認の成り行きとして和解という結果を後述しているのではない。確かに思想として罪人を聖なる義とすることにおいて、義認は必然的に和解を含んでいる。しかし、和解には、罪人が犯した罪に対して神が敵意を持ち、その敵意を神が取り除き(十字架)、平和と言う関係を回復、設立したという考えが中心にある。したがってこの小区分(5・10～11)は、既に詳述された義認(3・21～26)以上のものを描き出している。信仰によって義とされた人々と言う事実によって、今や信仰者は神の友として生きることの意味している。

2節後半～5節は神との平和におけるいのちを説明し、その性質としての特徴は希望にあることを強調している。6～8節は、私たちに對する神の愛の性質は、自発的なもので、罪人に不相应であることを伝えている。9～10節は再び希望を取り上げ、その確かさを断言している。11節は神との和解に与った私たちが、キリストにあって今持つ歓喜に言及。

## テキスト

1 このように、私たちは、信仰によって義とされたのだから、ここでの主張は1・18～4・25と結びついている。また5・1～8・39全体の基礎ともなっている。神に対して平和を得ているとは、神によって義とされた人々は神との平和を持つていると言うこと。ここで言う平和とは主観的な感情の平和ではなく、神に敵対する存在から、客観的に平和な状態にある存在へと変えられたことを意味する(10～11)。わたしたちの主イエス・キリストにより、キリストを通して私たちは義とされたように、彼を通して私たちは神と和解させられている(IIコリント5・18～19)。

2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ「この恵み」とは、私たちの義認ととる方が良いであろう。神に對しての平和ととるなら、1節の繰り返しになつてしまふ。神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。ここで言う「神の栄光」とは、天国のことであろう。クリスチャンは天国で神の栄光そのまを拝し、その栄光にあずかる存在(参照8・17、18、ピリピ3・21、Iヨハネ3・2)。「希望」という言葉は、この節と4・5節にも使われているが、これは私たちがまだ見ていない確信ある期待に導いてくれる。3～5 それだけではなく、比較、5・11、8・23、9・10、IIコリント8・19。患難をも喜んでいる「喜んで」(カウコーメサ)とは、歓喜することの意味する。現在の苦難も将来の栄光とともに信仰者の歓喜の対象。理由は、患難は忍耐を生み出し、苦難ゆえに忍耐を学ぶ(参照、8・25、15・4、5)。忍耐は錬達を生み出し、錬達とは、新改訳では、練られた品性。「品性」(ドキメー)

とは、既に試験済みのものとなった人や物を意味することば(参照、IIコリント2・9、8・2、ピリピ2・22)。錬達は希望を生み出す。私たちが、信仰者の品性を変えられ、成熟していくことが、神が働いておられることの証拠。希望は失望に終ることはない。参照、詩篇22・5。わたしたちに賜わっている聖霊「賜った」(ドセントス)ということばは、不定過去分詞で、過去に起こった事実を意味する。すなわち聖霊は私たちがキリストを受け入れ、回心したその瞬間に与えられたことがわかる。神の愛がわたしたちの心に注がれている「注がれている」(エッケキュタイ)と言う動詞は、完了形の受動態で、過去の動作は完了し、結果が今も持続していることを意味する。つまり、聖霊は私たち信仰者の心に、今も神の愛の洪水を引き起こして下さっている。

6～8 わたしたちがまだ弱かったころ、キリストは、時いたって、不信心な者たちのために死んで下さった。比較、ガラテヤ4・4。罪人のために身代わりとなったキリストの死(参照、3・25、4・25、6・10、7・4、8・32、14・15)。神の愛は、愛に値しない者への愛。しかし、まだ罪人であつた時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示された「死んで下さった」(アペサネン)は不定過去。つまり十字架の出来事は歴史的事実。「示された」(スニステシン)は現在形(新改訳明らかにしておられます)。その事実が現在の証拠として有効である。参考図書 J・R・W・ストット(飯塚俊雄訳)『ローマ人への手紙五章～八章』聖書同盟 Cranfield, C. E. B., Romans ~ A Shorter Commentary (Eerdmans)

聖書 ローマ5・1～11  
タイトル 神を喜ばう  
中心聖句 主イエス・キリストによって、神を喜ぶのである。 ローマ5・11  
目標 失望に終わることのない希望を与えてくださる神に感謝をささげる。

導入 (長谷川)

今日は2004年最後の教会学校の礼拝です。皆さんにとって今年の1年はどんな1年でしたか。うれしかったこと、楽しかったこと、記念すべきこと、悲しかったこと、困ったこと、いろいろあった1年だったことと思います。

今日は、この1年を神様に心から感謝しつつ、神様を喜ぶことについて考えましょう。

信仰と希望と愛の「喜び」

私たちの感謝や喜びとはいったいどんなことを言うのでしょうか。病気になる前だったこと、欲しかったものが手に入ったこと、成績が上がったこと、友だちと仲良くできたこと……でしょうか。もちろん、これらのことは感謝で少し喜びです。でも、これ以上のうれしいこと、感謝すべきことがある、とパウロ先生はローマ5・1～11で語ってくださいました。

まず第1に、「信仰によって義とされ」「(1節)でいることは喜びです」と書かれています。「義とされる」とは、裁判官が「無罪です!」と告げるよ

うに、神様が、イエス様の十字架の身代わりを信じる人を「罪なし!」としてくださることを言うのです。罪がない者となり、神様との平和の関係が結ばれるとは、何とうれしいことでしょう。これこそ、信仰によって与えられる「喜び」です。そして、第2は、「神の栄光にあずかる希望をもつて」(3節)いる、という「喜び」です。イエス様を信じる私たちの未来は、神様の栄光の姿と同じかたちにしていただける、と書かれています。このことは素晴らしい未来が用意されている約束の言葉です。このこともとてもうれしいことですね。

第3の「喜び」は、「聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれている」(5節)ことの「喜び」です。神様の絶大な愛がいつも私たちに注がれているので、いろいろな大変なこと(患難)があっても、それを乗り越えさせていただけるといいうのです。

以前の私たちの罪やあやまち、失敗を赦し、今も神様の愛によって守り、未来には天国での希望を約束していただくこの恵みは、イエス様からいただける「喜び」以外、どこを探しても見つからないでしょう。

神様こそ、私たちの「喜び」

3つの大きな「喜び」を見つけましたが、ローマ5章にはもっと細かくいくつかの「恵み」と「喜び」が書かれています。大切なことは、それらの全部を用意してくださっているのは「神様」だということ。目に見える「恵み」も、目に見えない「恵み」も、全部、出どころは「神様」から

なのです。

しかも、神様は愛のお方ですから(「神は愛である」第1ヨハネ4・8)、私たちに与って一番良いことだけをしてくださいます。時々悲しいことやつらいことがあり、また、病気をする時もありますが、神様は決して悪いようにはされません。あとから考えて「あー、あれで良かったなあ」と思えることだけをしてくださっています。「神を喜ぶ」とは、神様はきつと良いことをしてくださる、と信じて神様に全部おまかせして行っていくことなのです。

まとめ

Mさんの娘さんはしばらくの間、教会を離れていました。お仕事は小学校の養護の先生をしていますが、この間から変な咳が止まらず病院へ行ったり、結核かも……と言われました。保健室の先生が結核に……となると、とても大変です。お母さんは教会の皆さんと「どうか神様お守りください。そして、娘がこのことをとおして神様のところに帰れますように」と必死で祈りました。娘さんは長い間、祈りを止めていましたが、「お母さん、祈って!」と言ったのです。

数日後、検査の結果が出ました。「大丈夫です!」とお医者さん。娘さんは泣いて喜びました。そして、教会へやって来て「お祈りありがとうございました。奇跡でした。」

神様は全部のことを善きに変えてくださるお方です。神の愛があるので、希望をもって「神を喜び」続けて行きましょうね。

♪かみさまにかんしゃ♪ (こどもさんびか85)

ワーク A

話し方のヒント

今年も、もうすぐ終わります。この一年間で、一番うれしかったことは何だったでしょう。今日は、神様こそが、私たちの喜びであるというお話を聞きましたね。私たちは、神さまからたくさん喜びをいただきます。しかし、神さまからいただいたものを大切にすることではなく、それらを下さった神様ご自身を喜ぶことはもっと大事なことです。神様に感謝のお祈りをいたしましょう。

ワークについて

牛乳パックを使って、ノートやカードなど、今年の思い出を片付ける小物入れを作りましょう。

ワーク B

●質問1 聖書を開いて読み、今日のみ言葉を完成させて、覚えましょう。

●質問2 神様と和解させてくださったのはイエス様です。イエス様が自分の罪のために死んでくださったというのを信じるなら、神様と和解することが出来ます。その喜びはすばらしいものです。神様はイエス様を信じる者の罪を赦し、罪なき者として受け入れてくださり、さらに、天国で神様の栄光にあずかるという希望を与えて下さいます。

●質問3 今年一年、神様に感謝することを思い出して、神様に心からの感謝のお祈りをささげましょう。

ワーク C

第2問 (1)「キリストにより」は、「主イエス・キリストにより」や「彼により」もあります

が、キリストを意味している表現をすべて探します。6回出てきます。また、「信仰により」は2回出てきます。

(2)「信仰」「希望」「愛」

●第3問 み言葉は、全部は書かないで次のところを書いてください。(1)信仰「イエス・キリストを信じる信仰による神の義」、(2)希望「神の子たちの栄光の自由に入る望み」、(3)愛「聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである」。

ワーク D

●失望に終わらない希望とは何でしょうか? じっくりと考えてみたいと思います。

●良いことがあつて喜んでるのは、ある意味では当然だと思うのですが、たまにどうしてそんな状況の中で感謝しているの? 喜んでいられるの?と思う人に出会います。すごいと思います。神様が与えられる喜びや感謝とはこれかもしれないと思います。究極の感謝、喜びとも言えるでしょうか? まさに「聖霊によって神の愛がわたしたちの心に注がれているから」(ローマ5・5)のみ言葉そのものだと思います。2004年最後の聖日、悲しみの中に、試練の中にあるなら、神様から失望に終わらない希望と喜びが聖霊によって注がれますように。

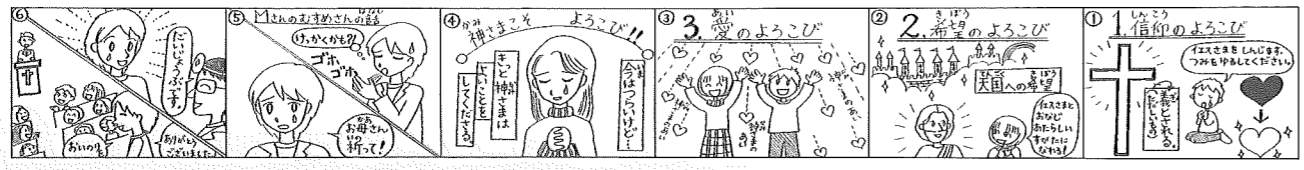
中高科へのヒント

観察してみよう

- 1 神様と和解を得させて下さるのは誰ですか。(主イエス・キリスト/11節)
- 2 私たちが神様と和解できるのは、イエス様が何をしてくださったからでしょうか。(死んで私たちの罪を贖って下さったから/10節)
- 3 イエス様は、私たちがどんな状態にあるとき死んで下さったのでしょうか。(不信心な者、罪人、敵であった時/6、8、10節)

考えてみよう

- 1 私たちは、なぜ神様と和解することが必要なのでしょう。(生まれながら罪人であり、罪を犯して神様に敵対しているから/10節)
- 2 どうしたら神様と和解することが出来るのでしょうか。(イエス様が私たちの罪のために死んでくださったことを信じる/10節)
- 3 「神を喜ぶ」とは、どういうことだと思いますか。(イエス様を信じて神様と和解し、神様と恐れなく交わることができること)
- 自分に当てはめてみよう
- 1 あなたはイエス様を信じるまでは、自分が神様に敵対している存在であることがわかりましたか。
- 2 あなたは神様とすでに和解しましたか。それともまだ敵対しているのでしょうか。
- 3 神様はイエス様の十字架を示して和解の手を差し伸べておられます。きょう神様と和解し、神様と交わる喜びにあずかりませんか。



# 牧羊ひろば

## 「幼児から大人まで 共に養われる恵み」

伊丹聖書教会では、3年前から礼拝前の30分を「バイブルタイム」として、幼児から大人までが同じ聖書の箇所を学ぶという新しい養育プログラムをスタートしました。

それまでは、成人向けの聖書の学びとしては、週一度、祈り会の席上でのものがありました。祈り会に集える信徒の数は限られ、固定化していました。そこで、

もっと多くの信徒が聖書の学びに参加し、歴史的な背景も含めた聖書観や信仰を養うことは出来ないかと役員会で検討を行っていました。

その様な時に、主が私たちに示されたことが「幼稚科から成人科まで統一された教案による学びの実施」でした。こうして、私たちは祈り会での聖書の学びに加えて、聖日礼拝前の時間に聖書の学びを行うことになったのです。

クラス編成は幼稚科、小学校低学年科、高学年科、中学科、青年科、成人科となっており、教師は10名（成人科4名）で行っています。教師として召されたとはいえ、私たちは一介の信徒にすぎず、生徒である成人科の兄弟にとっても特別な信



幼稚科

仰のリーダーというわけでもありません。そのような中で、教師としてクラスで学びをすすめていくためには多くの祈りと準備、そして、御霊の助けが必要となってきます。

まず、私たちは牧羊者のテキストにしたがつて、一ヶ月先の箇所を分担してみ言葉を黙想し、学びを深めたことを、月に一度の教師会で分かち合う



低学年科

ことをもって、教師としての学びを深めています。牧羊者は子ども、中高生向けの教会学校の教案として編成されてはいるものの、「聖書講解」「研究資料」のページは非常に詳しく、また深い内容となつていきますので、成人科のテキストとしても充分用いることが可能です。クラスの準備をしている中で、教師自身が今まで気づかなかった、より深い神さまの愛や聖句の意味を知ることができ、恵まれています。そして、それぞれが担当する箇所（成人科以外は毎週）の歴史的な背景を調べたり、み言葉を黙想し、今までの信仰生活を通してとても満たされ恵まれたこと、あるいは困難に思えたり疑問に思ったりしたこと等を、心にとめて

学びを進めていきます。

クラスでは教師の一方的な講義ではなく、兄弟たちの分かち合いを中心とした学びとなっています。それぞれの兄弟の信仰の歩みのすばらしさに、また兄弟との交わりに、かえって教師の方が励まされ、共に心潤って、次に続くワークショップタイムに座することができる幸いをいただいています。

子どもたちのクラスにおいても、一方的な講義ではなく、子どもたちが自由に分かち合える雰囲気、話を聞いて欲しいという気持ちをもってと思っています。教会学校では、その子どもたちの気持ち



高学年科



成人科

を充分受け止め、その中で子どもたちを理解し、神さまへ導いていきたいと強く思っています。また、普段の生活にみ言葉を適用していくことができるよう、子どもたちといっしょに考えていきます。

バイブルタイムの教師として奉仕させていただく私たち自身が成長させていただいていることを日々感じ、感謝しています。

伊丹聖書教会 教会学校教師会

## 編集後記

『牧羊者』二〇〇四年度第Ⅲ巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々には、各種の夏のキャンプがある多忙の中に執筆いただき心から感謝いたします。

宣教会（恵みシャレー）のオブションにおいて、教職、信徒をあわせて18名の方が集い、子ども伝道について、午前と午後と、熱く語り合い、折り合うことができました。執筆の方々のお祈りと多大なご協力を感謝いたします。その中で、「巻頭言」や「牧羊ひろば」、「教師養成講座」を通して、たくさん恵みをいただいたのうれしい証もありました。また、「子ども聖書日課」もそれぞれの教会で工夫を凝らして用いておられ、感謝いたします。

今巻から「教師養成講座」の新シリーズがはじまりました。教会学校教師の先生方の育成に用いられますよう、引き続き、皆様のお祈りをよろしくお願いいたします。

- 終わりに今号の執筆者を紹介いたします。
- 聖書講解 鎌野善三 金井望
  - 研究資料 足立宏 長田栄一
  - メッセージ例 小野淳子 水野晶子
  - ワーク 飯田牧子 小平徳行 長谷川ひさ子
  - 長尾秀紀 上森恭子
  - 中高科 石田高保
  - フラッシュカード 土屋直子
  - み言葉カード 陰山恭子
  - 子ども聖書日課 小野淳子

また、編集を手伝ってくださった鎌野善三師、和田治師、光田隆代師、森明子師、また、発送とワーク印刷をされた教団事務所の仁科真人師、柴田修兄、そして、印刷会社あくとの本田慈郎兄に心から感謝いたします。（長谷川和雄）

## 聖書教育教案誌 牧羊者

二〇〇四年度Ⅲ巻 二〇〇四年九月一日発行

発行者 岩田扶美二 神戸市兵庫区塚本通三三一九

編集者 日本イエス・キリスト教団出版局 電話〇七〇五五五五五五五

印刷所 有限会社 あくと 電話〇二九七七八一五九三五

\*日本聖書協会「口語訳聖書」使用許諾済み